

毛呂山町
男女共同参画に関する
アンケート調査結果報告書

令和6年10月

毛呂山町

目次

I. 調査概要.....	1
1. 調査の目的	1
2. 調査の設計	1
3. 回収結果	1
4. 報告書の見方	1
II. 調査結果.....	2
1. ご自身のことについて	2
2. 男女平等意識について	8
3. 家庭生活について	13
4. 就業について	29
5. 暴力について	37
6. 社会参加について	44
7. 防災について	56
8. 性の多様性について	61
9. 男女共同参画について	64
10. 毛呂山町の取組について	75
11. 自由意見	86
III. 本町の課題.....	88
IV. 調査票.....	89

I. 調査概要

1. 調査の目的

町民の男女共同参画に関する意識を把握し、本町における課題の把握や第4次もろやま男女共同参画プランの施策の方向性に反映させることを目的として、町内在住の18歳以上の町民1,000人を対象にアンケート調査を実施しました。

2. 調査の設計

項目	内容
調査期間	令和6年7月17日(水)～令和6年7月26日(金)
調査対象	毛呂山町内在住の18歳以上の町民
抽出方法	住民基本台帳による無作為抽出
調査方法	郵送による配布、郵送またはオンラインでの回収

3. 回収結果

調査対象	配布数	回収数	有効回答数	有効回収率
郵送回答	1,000	259	362	36.2%
オンライン回答		105		

4. 報告書の見方

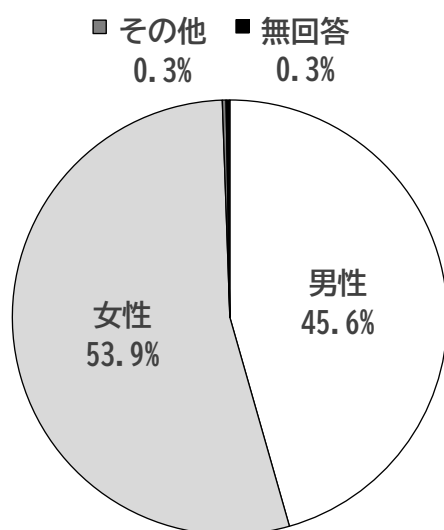
- 単数回答の設問における各選択肢の回答割合（比率）は、非該当者を除いた回答者数（当該設問での該当者数）を基数とした百分率（%）で示しています。
- 各数値は、小数点以下第二位を四捨五入して算出しているため、比率の合計は100%にならない場合があります。
- 複数回答の設問における各選択肢の回答割合（比率）は、非該当者を除いた回答者数（当該設問での該当者数）を基数とした百分率（%）で示しています。したがって、比率の合計値は100%にならない場合があります。
- 図や表、本文では、選択肢の一部を省略している場合があります。

Ⅱ. 調査結果

1. ご自身のことについて

問1 あなたの性別は。

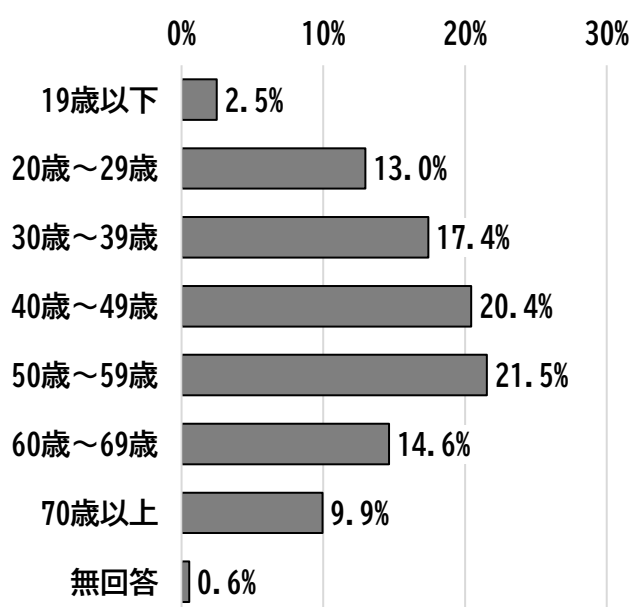
性別では、「男性」が45.6%、「女性」が53.9%となっています。



項目	人数（人）	比率（％）
男性	165	45.6
女性	195	53.9
その他	1	0.3
無回答	1	0.3
合計	362	100.0

問2 あなたの年齢は。

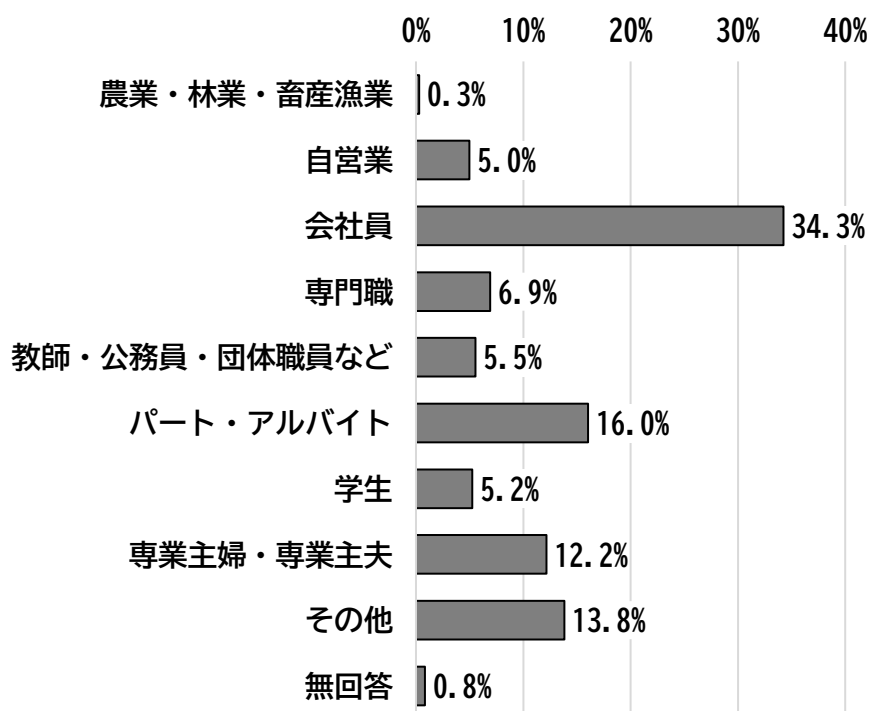
年代では、「50歳代」が21.5%と最も高く、次いで「40歳代」が20.4%、「30歳代」が17.4%となっています。



項目	人数（人）	比率（％）
19歳以下	9	2.5
20歳～29歳	47	13.0
30歳～39歳	63	17.4
40歳～49歳	74	20.4
50歳～59歳	78	21.5
60歳～69歳	53	14.6
70歳以上	36	9.9
無回答	2	0.6
合計	362	100.0

問3 あなたの職業は。

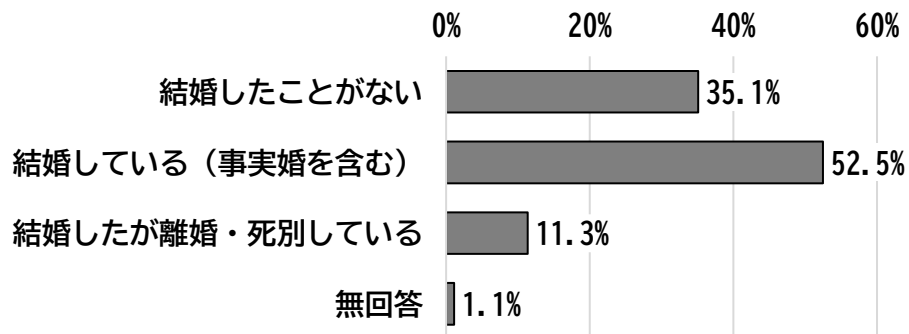
職業では、「会社員」が34.3%と最も高く、次いで「パート・アルバイト」が16.0%、「専業主婦・専業主夫」が12.2%となっています。



項目	人数 (人)	比率 (%)
農業・林業・畜産漁業	1	0.3
自営業（商店・飲食店・企業経営など）	18	5.0
会社員（給与所得者）	124	34.3
専門職（医師・看護師・弁護士・会計士・税理士など）	25	6.9
教師・公務員・団体職員など	20	5.5
パート・アルバイト	58	16.0
学生	19	5.2
専業主婦・専業主夫	44	12.2
その他	50	13.8
無回答	3	0.8
合計	362	100.0

問4 あなたは結婚していますか。

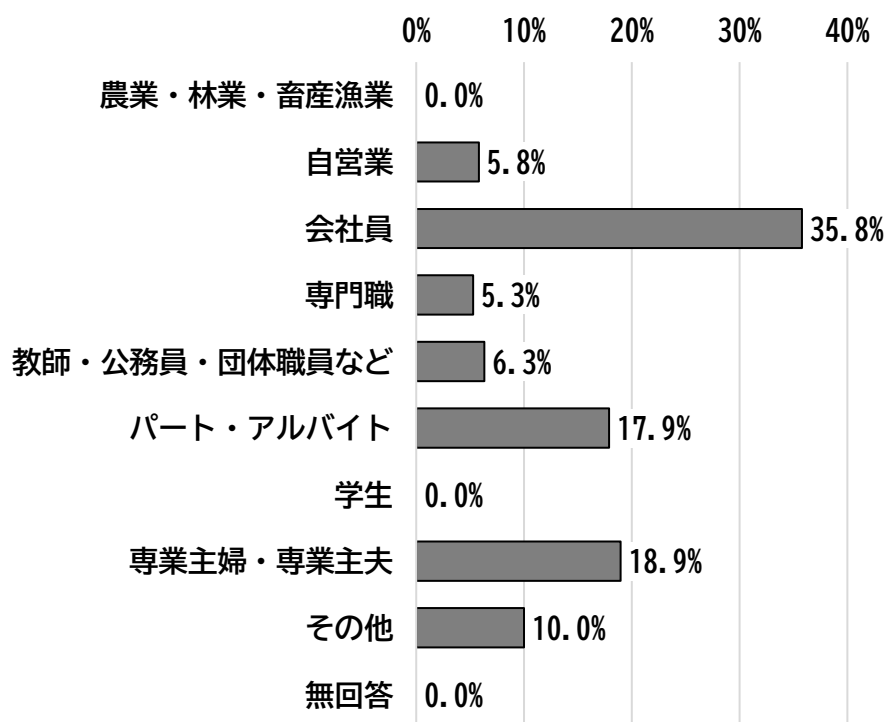
結婚では、「結婚している（事実婚を含む）」が52.5%、「結婚したことがない」が35.1%、「結婚したが離婚・死別している」が11.3%となっています。



項目	人数（人）	比率（%）
結婚したことがない	127	35.1
結婚している（事実婚を含む）	190	52.5
結婚したが離婚・死別している	41	11.3
無回答	4	1.1
合計	362	100.0

問4-1 問4で「結婚している（事実婚を含む）」と回答した方にうかがいます
配偶者の方の職業は何ですか。

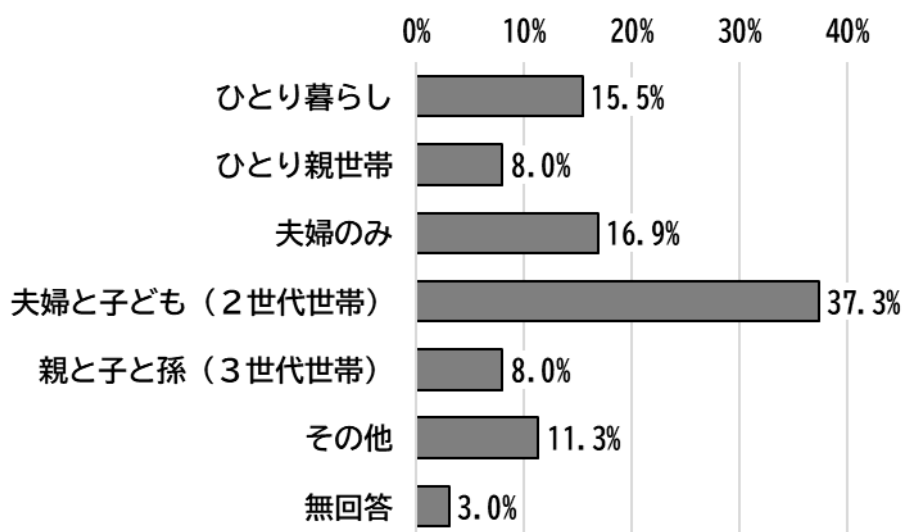
配偶者の職業では、「会社員」が35.8%と最も高く、次いで「専業主婦・専業主夫」が18.9%、「パート・アルバイト」が17.9%となっています。



項目	人数 (人)	比率 (%)
農業・林業・畜産漁業	0	0.0
自営業（商店・飲食店・企業経営など）	11	5.8
会社員（給与所得者）	68	35.8
専門職（医師・看護師・弁護士・会計士・税理士など）	10	5.3
教師・公務員・団体職員など	12	6.3
パート・アルバイト	34	17.9
学生	0	0.0
専業主婦・専業主夫	36	18.9
その他	19	10.0
無回答	0	0.0
回答者数	190	100.0

問5 あなたの世帯構成は

世帯構成では、「夫婦と子ども（2世代世帯）」が37.3%と最も高く、次いで「夫婦のみ」が16.9%、「ひとり暮らし」が15.5%となっています。



項目	人数（人）	比率（%）
ひとり暮らし	56	15.5
ひとり親世帯	29	8.0
夫婦のみ	61	16.9
夫婦と子ども（2世代世帯）	135	37.3
親と子と孫（3世代世帯）	29	8.0
その他	41	11.3
無回答	11	3.0
合計	362	100.0

【その他の記述】

◆「夫婦のみ」に該当する記述 1件

・両親と二世帯

◆「夫婦と子ども（2世代世帯）」に該当する記述 計10件

・両親と本人	・夫婦、親	・親、兄弟	・親と弟と自分
・両親と自分	・両親と子	・父、母、妹	・父、母、兄
・両親と兄弟	・親（98才、94才）と子（自分）と妻		

◆「親と子と孫（3世代世帯）」に該当する記述 1件

・父、母、祖父、祖母

◆全ての選択肢に該当しない「その他」の記述 計 21 件

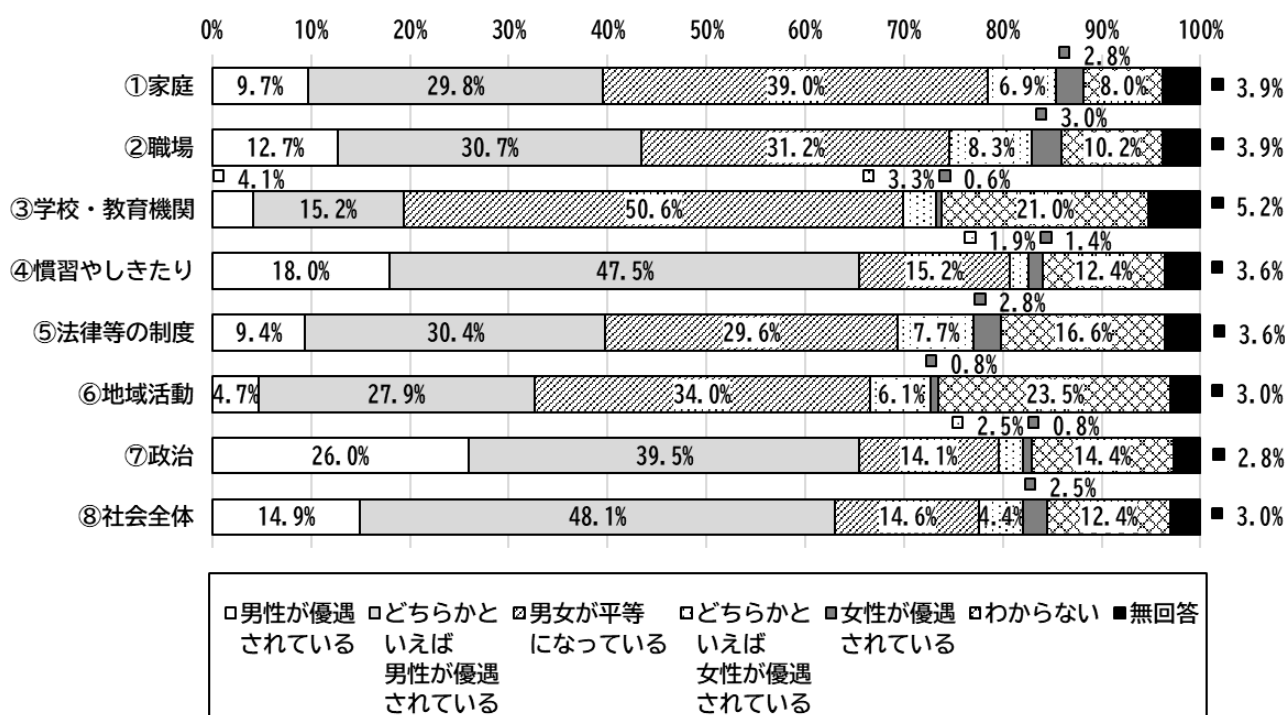
・子 1 人と	・ 母と子	・ 兄弟のみ	・ 母と子（自分）
・ 親と同居	・ 同居人と 2 人	・ 夫婦とひとり親	・ グループホーム
・ 義母と夫婦	・ 親と子（2 件）	・ 夫婦と義祖父	・ 寮
・ 2 人暮らし	・ 母と二人	・ 母親と姉	・ 彼と同居
・ 親と兄と兄妻と兄息子		・ 親と本人の 2 人暮らし	
・ 内夫とその子供 2 人と同居		・ 親一人と兄弟 4 人(私含む)	

2. 男女平等意識について

問6 あなたは、次の①～⑧の項目について男女の地位をどのように感じていますか。
(回答は、それぞれ1つ)

男女の地位について、「男性が優遇されている」と「どちらかといえば男性が優遇されている」を合わせた『男性が優遇されている（以下同様）』の回答では、「④慣習やしきたり」及び「⑦政治」が65.5%と最も高く、次いで「⑧社会全体」が63.0%となっています。一方で、「どちらかといえば女性が優遇されている」と「女性が優遇されている」を合わせた『女性が優遇されている（以下同様）』の回答では、「②職場」が11.3%と最も高く、次いで「⑤法律等の制度」が10.5%となっています。

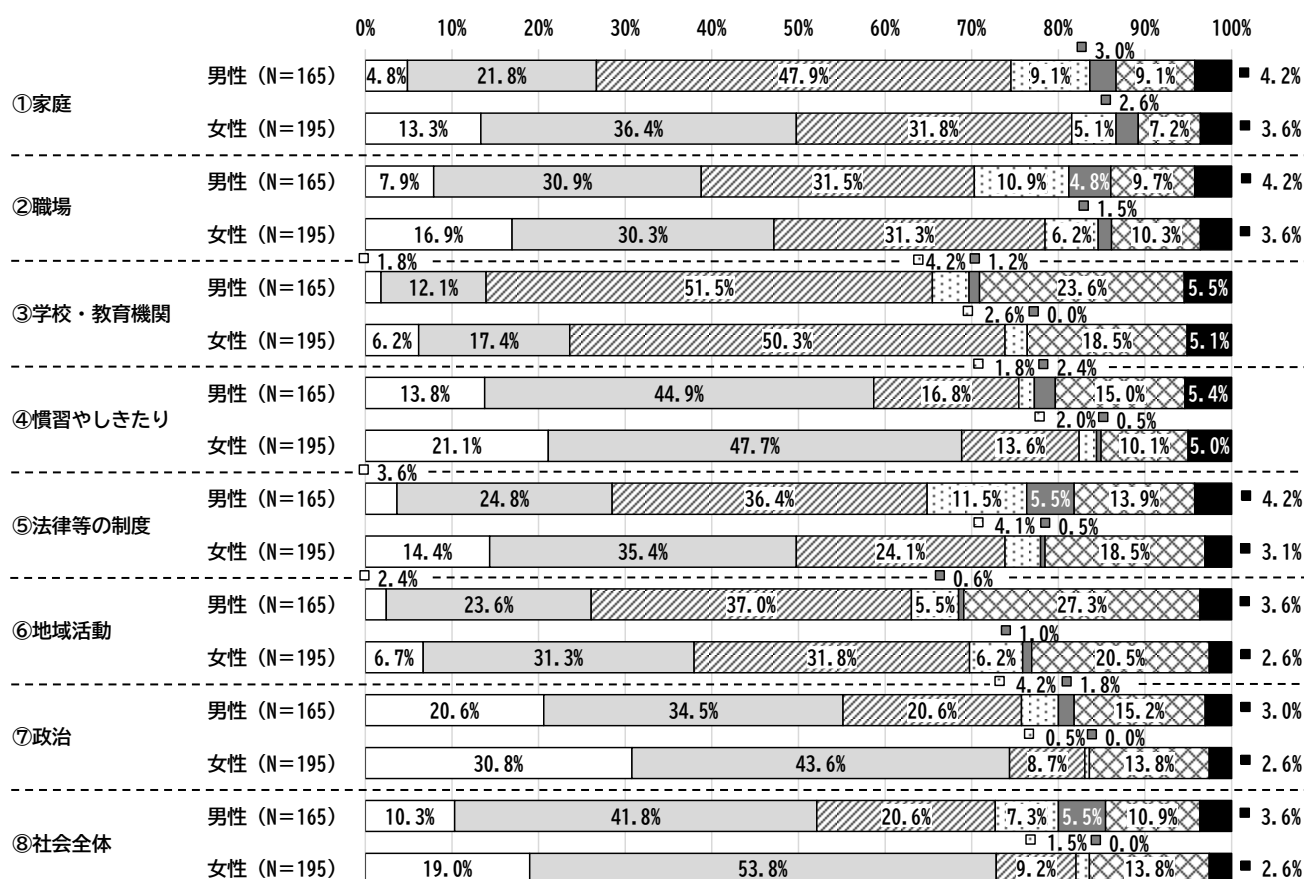
また、「男女が平等になっている」の回答では、「③学校・教育機関」が50.6%と最も高くなっています。



項目	男性が優 れている	どちらか が優遇さ れてはい ない	男女が平 等になっ ている	どちらか が優遇さ れてはい ない	女性が優 れている	わから ない	無回 答	合 計
①家庭	35	108	141	25	10	29	14	362
	9.7%	29.8%	39.0%	6.9%	2.8%	8.0%	3.9%	100.0%
②職場	46	111	113	30	11	37	14	362
	12.7%	30.7%	31.2%	8.3%	3.0%	10.2%	3.9%	100.0%
③学校・教育機関	15	55	183	12	2	76	19	362
	4.1%	15.2%	50.6%	3.3%	0.6%	21.0%	5.2%	100.0%
④慣習やしきたり	65	172	55	7	5	45	13	362
	18.0%	47.5%	15.2%	1.9%	1.4%	12.4%	3.6%	100.0%
⑤法律等の制度	34	110	107	28	10	60	13	362
	9.4%	30.4%	29.6%	7.7%	2.8%	16.6%	3.6%	100.0%
⑥地域活動	17	101	123	22	3	85	11	362
	4.7%	27.9%	34.0%	6.1%	0.8%	23.5%	3.0%	100.0%
⑦政治	94	143	51	9	3	52	10	362
	26.0%	39.5%	14.1%	2.5%	0.8%	14.4%	2.8%	100.0%
⑧社会全体	54	174	53	16	9	45	11	362
	14.9%	48.1%	14.6%	4.4%	2.5%	12.4%	3.0%	100.0%

【性別】

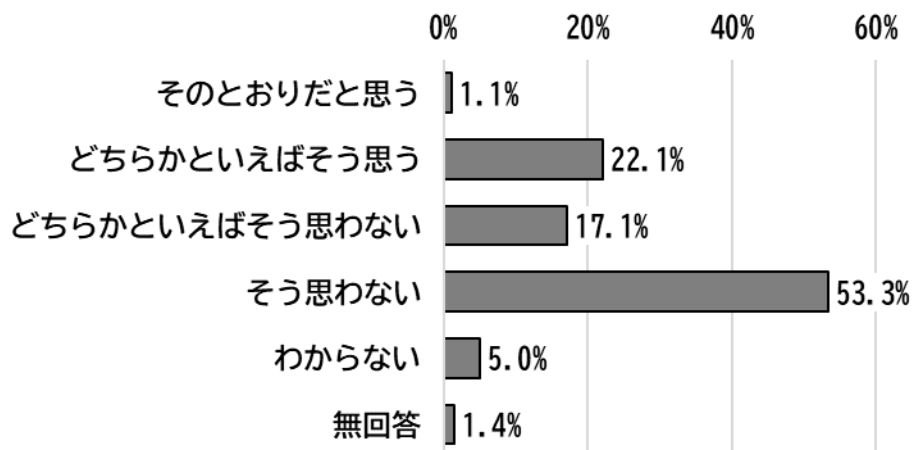
性別でみると、全ての項目において『男性の方が優遇されている』と考える女性の割合が高くなっています。



☐男性が優遇されている ☐どちらかといえば男性が優遇されている ☐男女が平等になっている ☐どちらかといえば女性が優遇されている ☐女性が優遇されている ☐わからない ☐無回答

問7 あなたは、「男は仕事、女は家庭」という男女の役割分担の考え方を、どのように思いますか。(回答は、1つ)

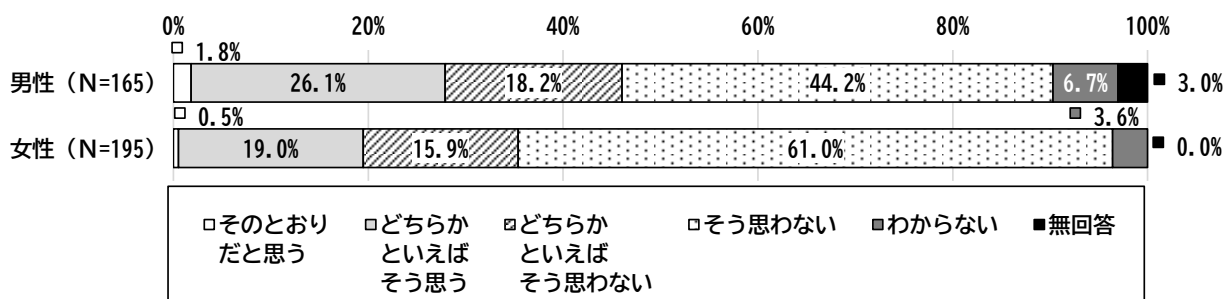
「男は仕事、女は家庭」という考え方では、「そのとおりだと思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた『そう思う(以下同様)』では、23.2%である一方、「どちらかといえばそう思わない」と「そう思わない」を合わせた『そう思わない(以下同様)』では、70.4%となっています。



項目	人数 (人)	比率 (%)
そのとおりだと思う	4	1.1
どちらかといえばそう思う	80	22.1
どちらかといえばそう思わない	62	17.1
そう思わない	193	53.3
わからない	18	5.0
無回答	5	1.4
合計	362	100.0

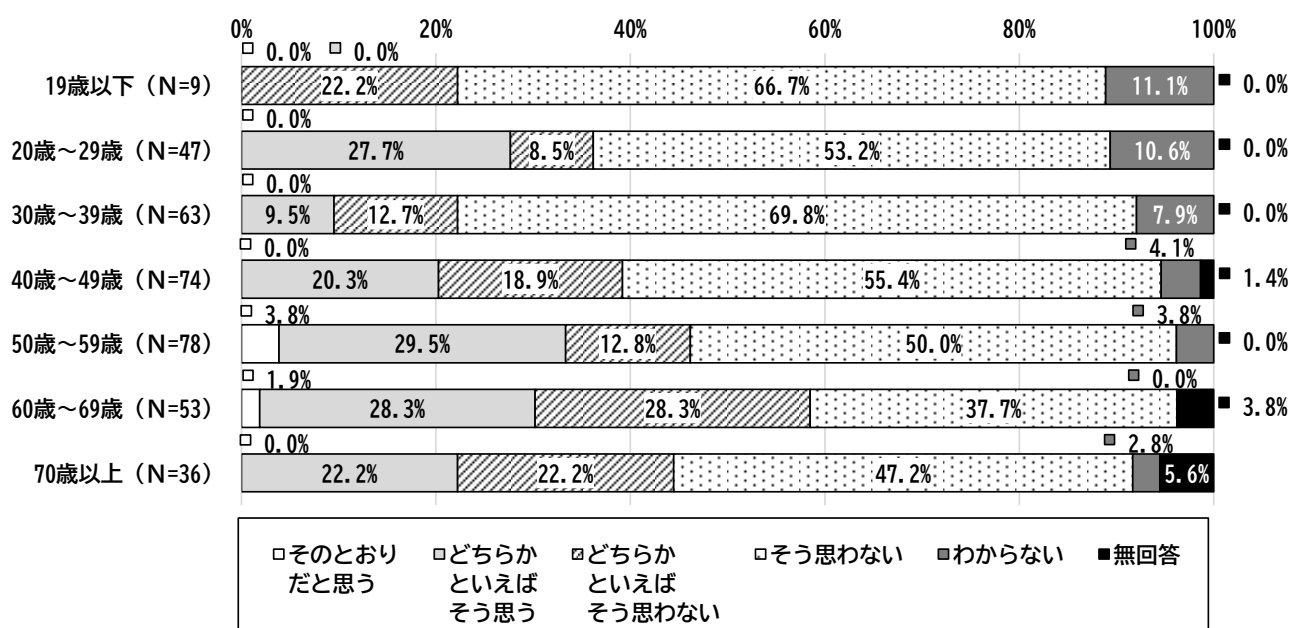
【性別】

性別でみると、男性、女性ともに『そう思わない』と回答する割合が半数以上を占めていますが、『そう思う』と回答する割合は、男性が27.9%、女性が19.5%と、男性の方が8.4ポイント高くなっています。



【年代別】

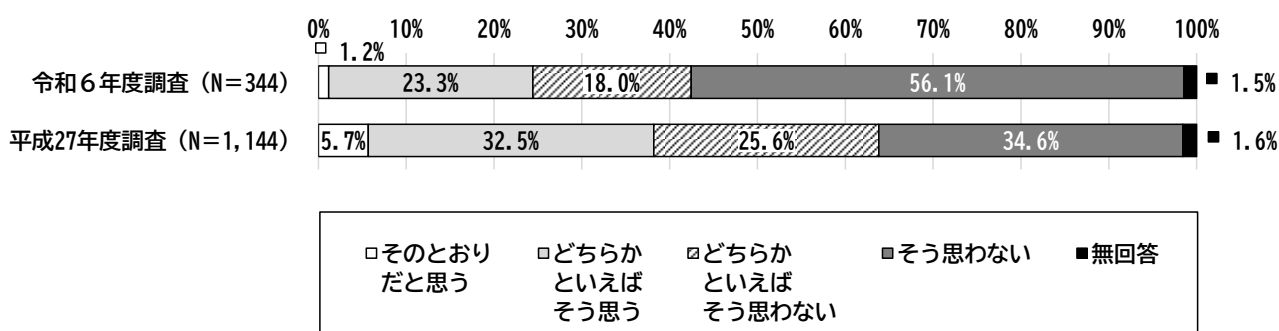
年代別でみると、20 歳代、50 歳代及び 60 歳代において『そう思う』と回答する割合が約 3 割を占めています。



※年代別の集計における「19 歳以下」は、回答者数が少ないため分析コメントはしていません。(以下同様)

【平成 27 年度調査との比較】

平成 27 年度調査結果と比較すると、令和 6 年度調査では、「そう思わない」の回答割合だけが 18.7 ポイントの増加となり、その他の回答割合は減少しています。



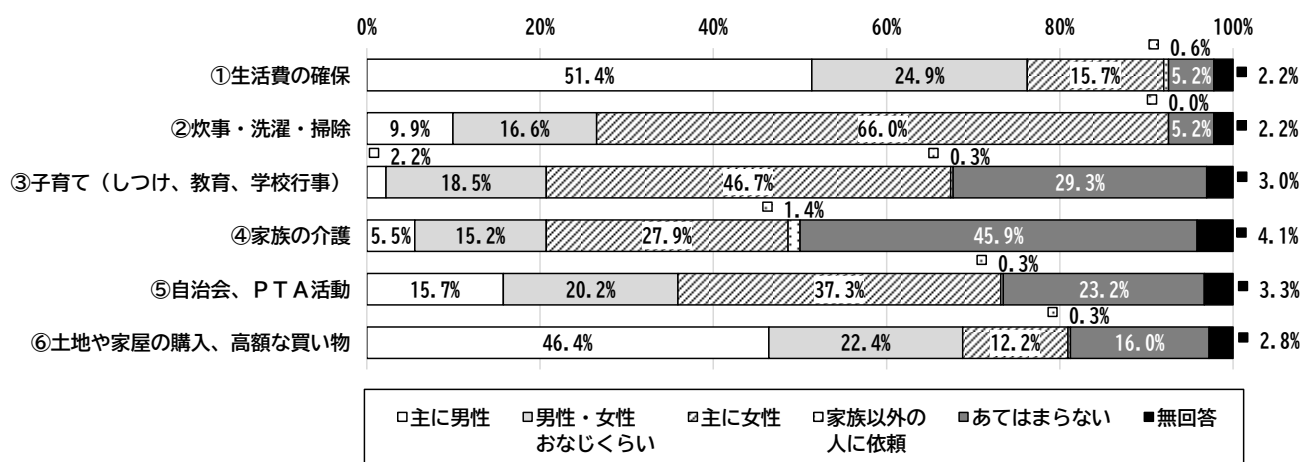
※平成 27 年度調査では、「わからない」の選択肢を設定していないため、令和 6 年度調査の「わからない」の回答者数を除いて作成しています。

3. 家庭生活について

問8 現在、あなたの家庭では次のことを主にどなたが行っていますか。(回答は、それぞれ1つ)

各項目について主に行っているのは誰かでは、「主に男性」の回答では、「①生活費の確保」が51.4%と最も高く、次いで「⑥土地や家屋の購入、高額な買い物」が46.4%となっています。一方で、「主に女性」の回答では、「②炊事・洗濯・掃除」が66.0%と最も高く、次いで「③子育て（しつけ、教育、学校行事）」が46.7%となっています。

また、「男性・女性おなじくらい」の回答では、「①生活費の確保」が24.9%と最も高くなっています。

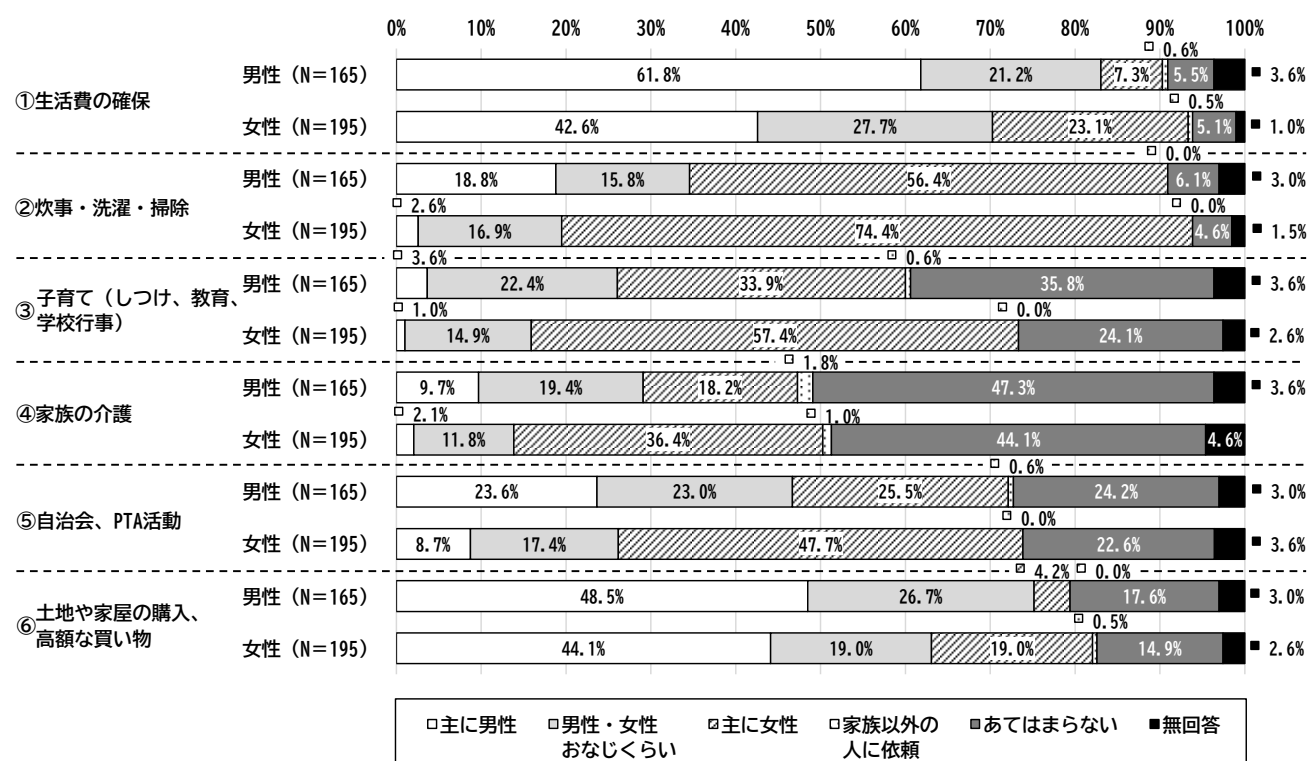


項目	主に男性	男性・女性 おなじくらい	主に女性	家族以外の 人に依頼	あてはまらない	無回答	合計
①生活費の確保	186 51.4%	90 24.9%	57 15.7%	2 0.6%	19 5.2%	8 2.2%	362 100.0%
②炊事・洗濯・掃除	36 9.9%	60 16.6%	239 66.0%	0 0.0%	19 5.2%	8 2.2%	362 100.0%
③子育て（しつけ、教育、学校行事）	8 2.2%	67 18.5%	169 46.7%	1 0.3%	106 29.3%	11 3.0%	362 100.0%
④家族の介護	20 5.5%	55 15.2%	101 27.9%	5 1.4%	166 45.9%	15 4.1%	362 100.0%
⑤自治会、PTA活動	57 15.7%	73 20.2%	135 37.3%	1 0.3%	84 23.2%	12 3.3%	362 100.0%
⑥土地や家屋の購入、高額な買い物	168 46.4%	81 22.4%	44 12.2%	1 0.3%	58 16.0%	10 2.8%	362 100.0%

【性別】

性別でみると、「主に男性」と回答した割合が「①生活費の確保」、「②炊事・洗濯・掃除」、「⑤自治会、PTA活動」で、女性より男性が10ポイント以上多くなっています。

また、「主に女性」と回答する割合がすべての項目で男性より女性が多くなっています。中でも「③子育て（しつけ、教育、学校行事）」、「⑤自治会、PTA活動」では、男性より女性が20ポイント以上多くなっています。



【年代別】

各項目を年代別でみると、「①生活費の確保」では、全ての年代層において「主に男性」とする回答が最も多く、20歳代、40歳代、60歳代で5割を超えています。

「②炊事・洗濯・掃除」では、全ての年代層において「主に女性」とする回答が最も多く、60歳代で5割を超えています。

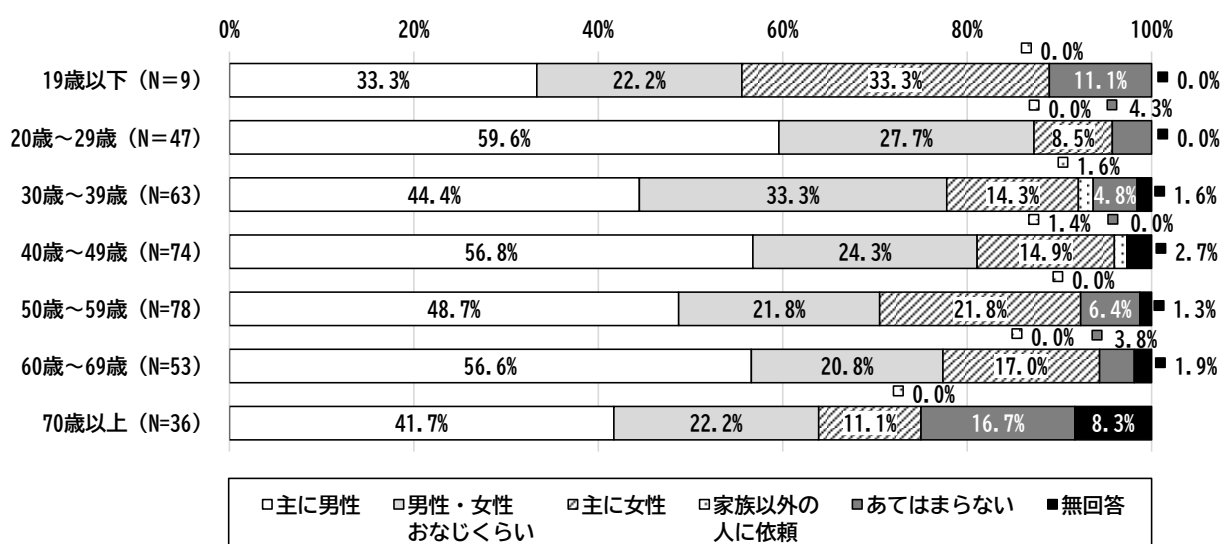
「③子育て（しつけ、教育、学校行事）」では、「あてはまらない」を除くと、全ての年代層において「主に女性」とする回答が最も多くなっており、30歳代、40歳代、50歳代では約5割となっています。また、20歳代では「男性・女性おなじくらい」が約3割と多くなっています。

「④家族の介護」では、「あてはまらない」を除くと、30歳代以上で「主に女性」とする回答が最も多くなっていますが、40歳代、50歳代では5割を超えています。また、20歳代の回答では「男性・女性おなじくらい」とする回答が最も多くなっています。

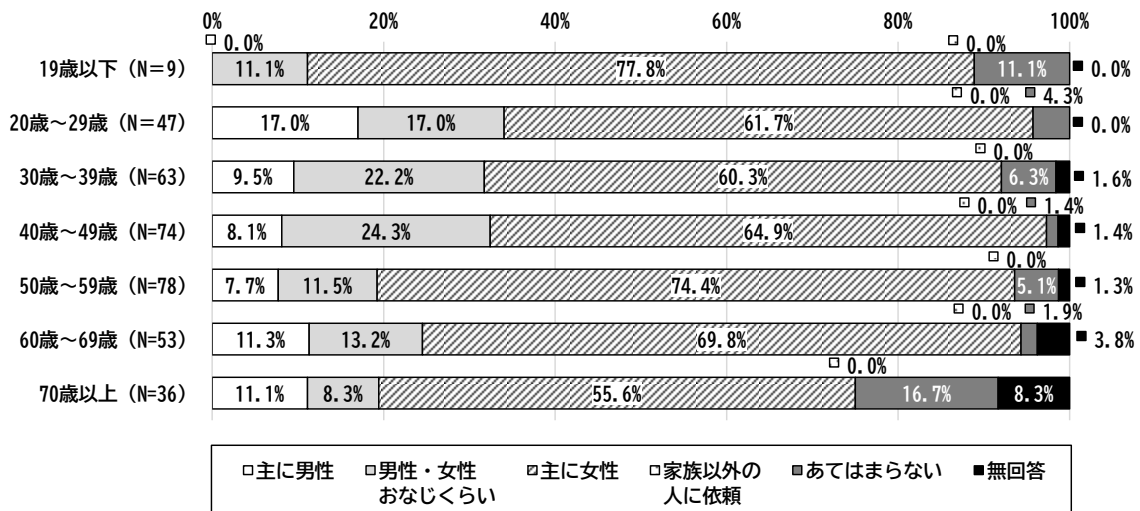
「⑤自治会、PTA活動」では、「あてはまらない」を除くと、50歳代までは「主に女性」とする回答が最も多くなっており、60歳代では一転して「主に男性」とする回答が最も多くなっています。70歳以上では「主に男性」、「主に女性」とする回答は同数の16.7%となっています。

「⑥土地や家屋の購入、高額な買い物」では、20歳代から60歳代にかけて年代層が上がるほど「主に男性」とする回答が増加する傾向にありますが、70歳以上では「男性・女性おなじくらい」とする回答が最も多くなっています。

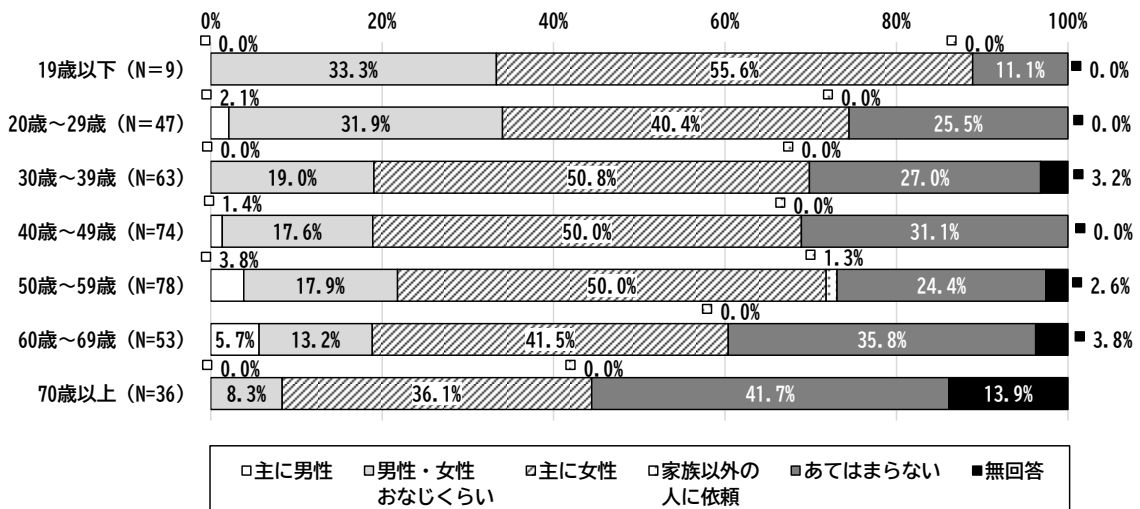
① 生活費の確保



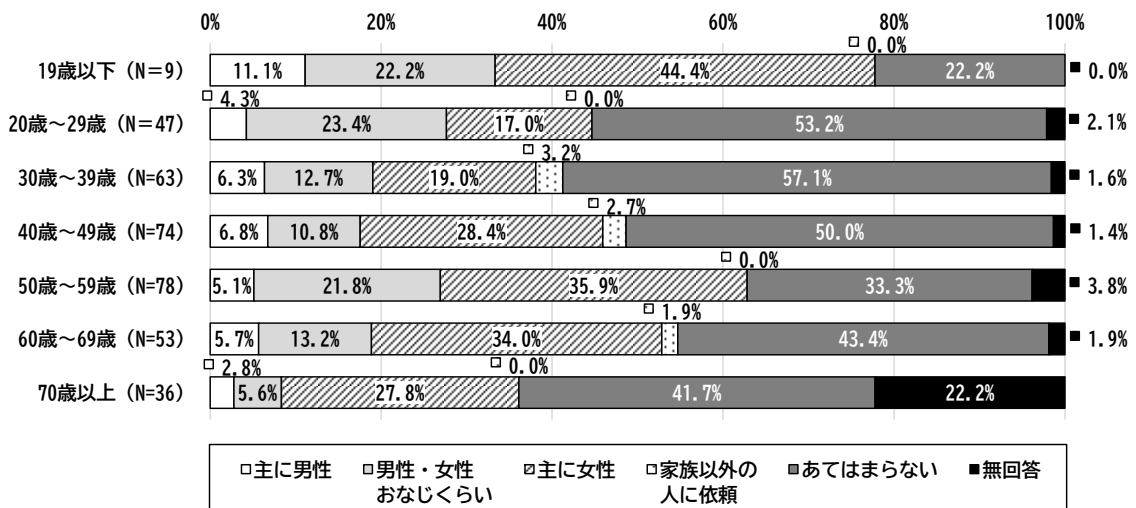
② 炊事・洗濯・掃除



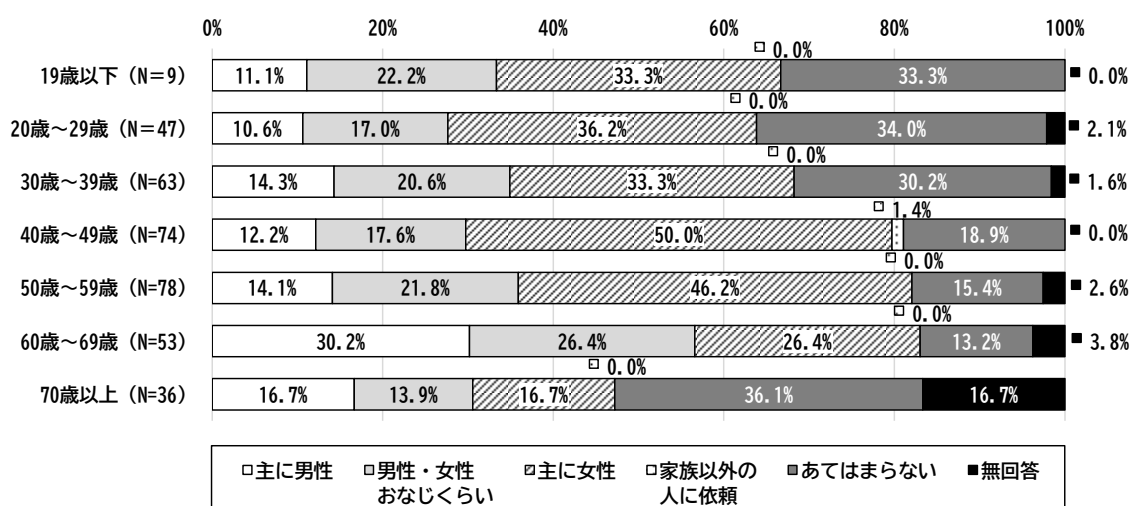
③ 子育て（しつけ、教育、学校行事）



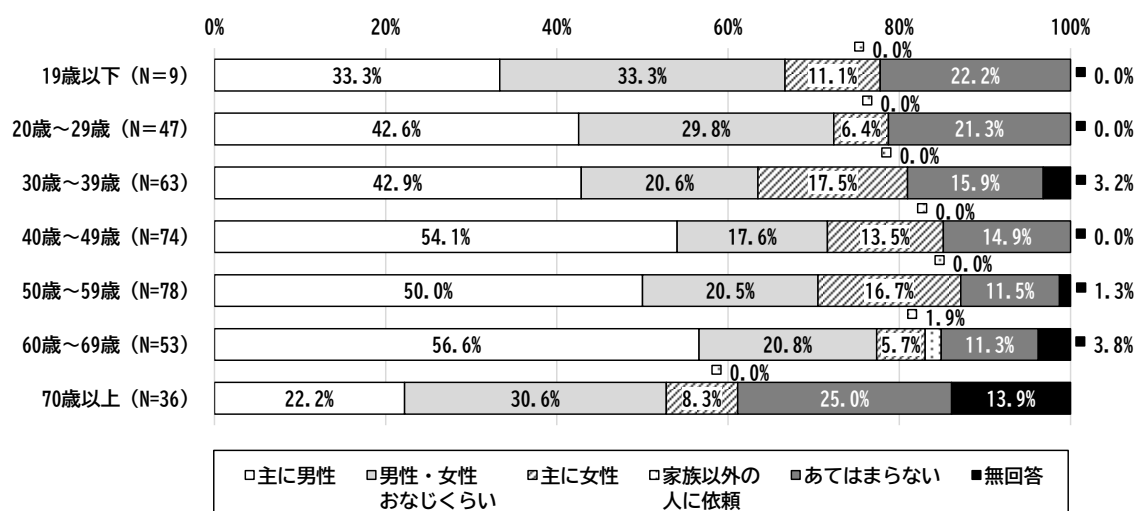
④ 家族の介護



⑤ 自治会、PTA 活動



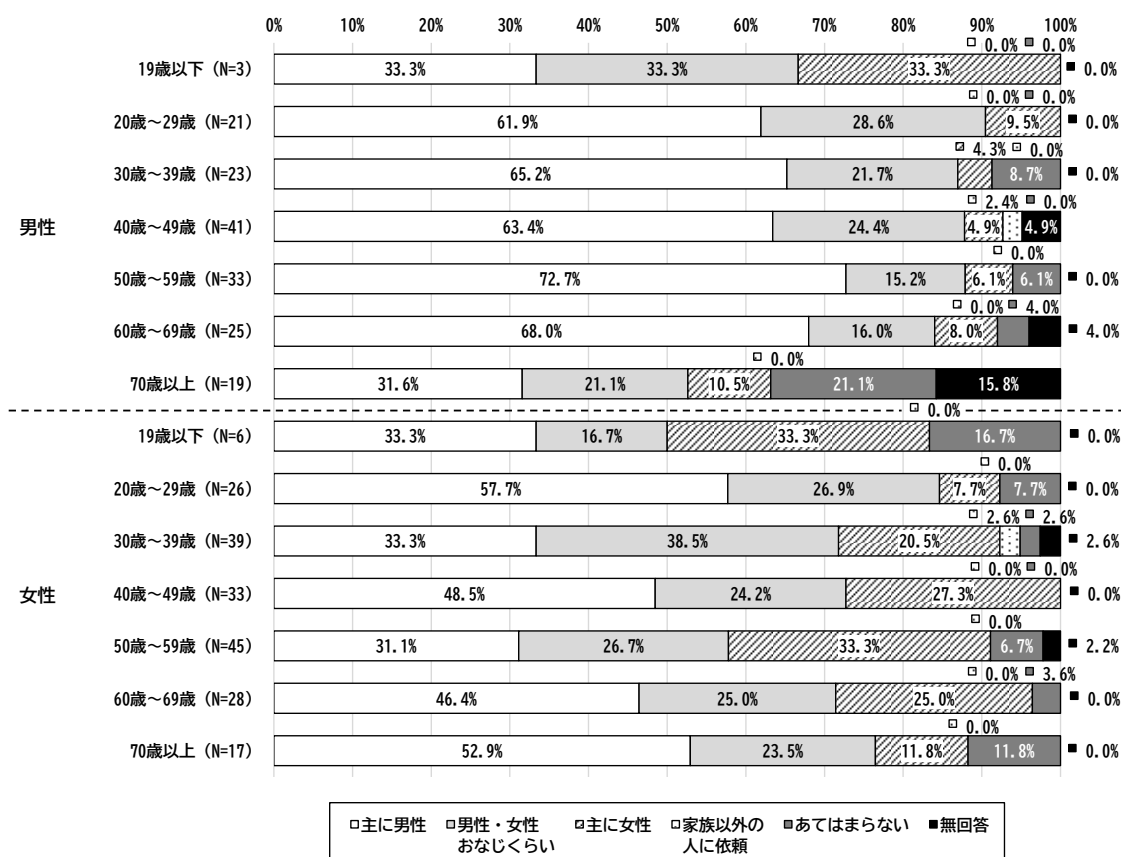
⑥ 土地や家屋の購入、高額な買い物



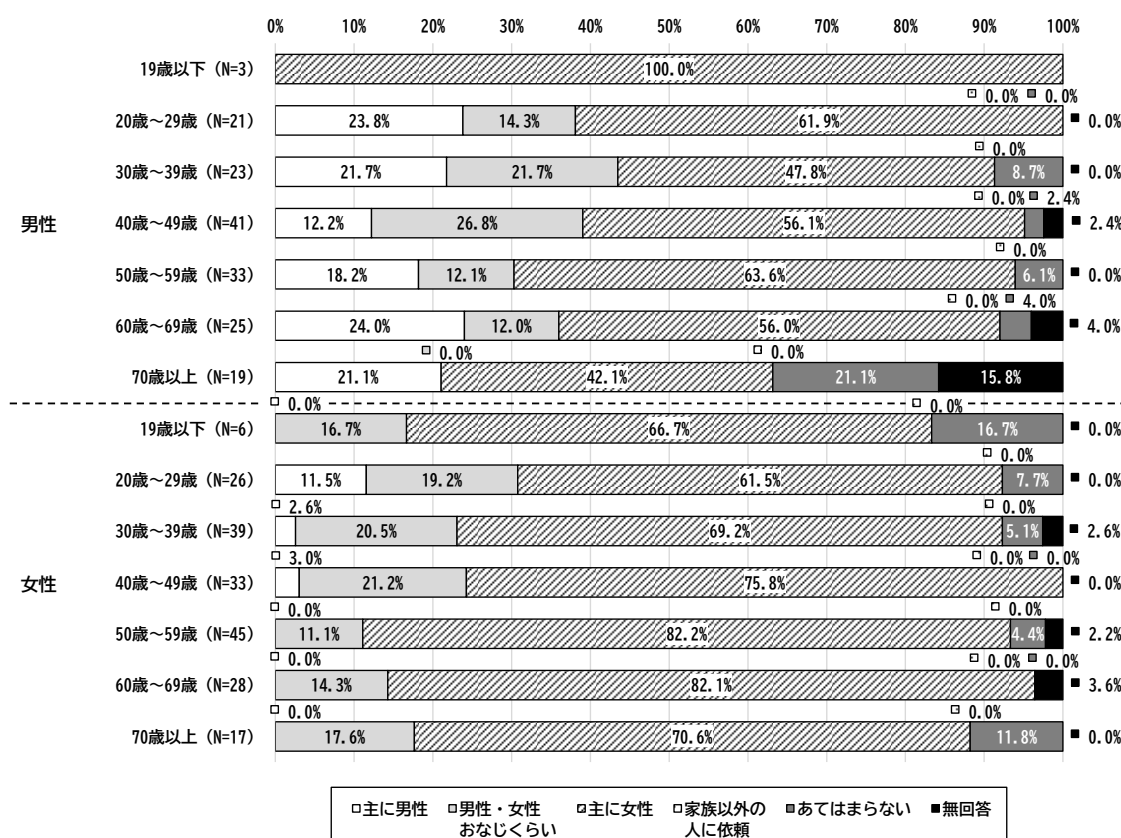
【性別・年代別】

各項目における性別・年代別では、各年代層の回答者数が少ないため、あまり傾向としてはみられませんが、「⑤自治会・PTA 活動」の男性では、年代層が上がるほど「主に男性」及び「男性・女性同じくらい」と回答する割合が多くなる傾向があります。

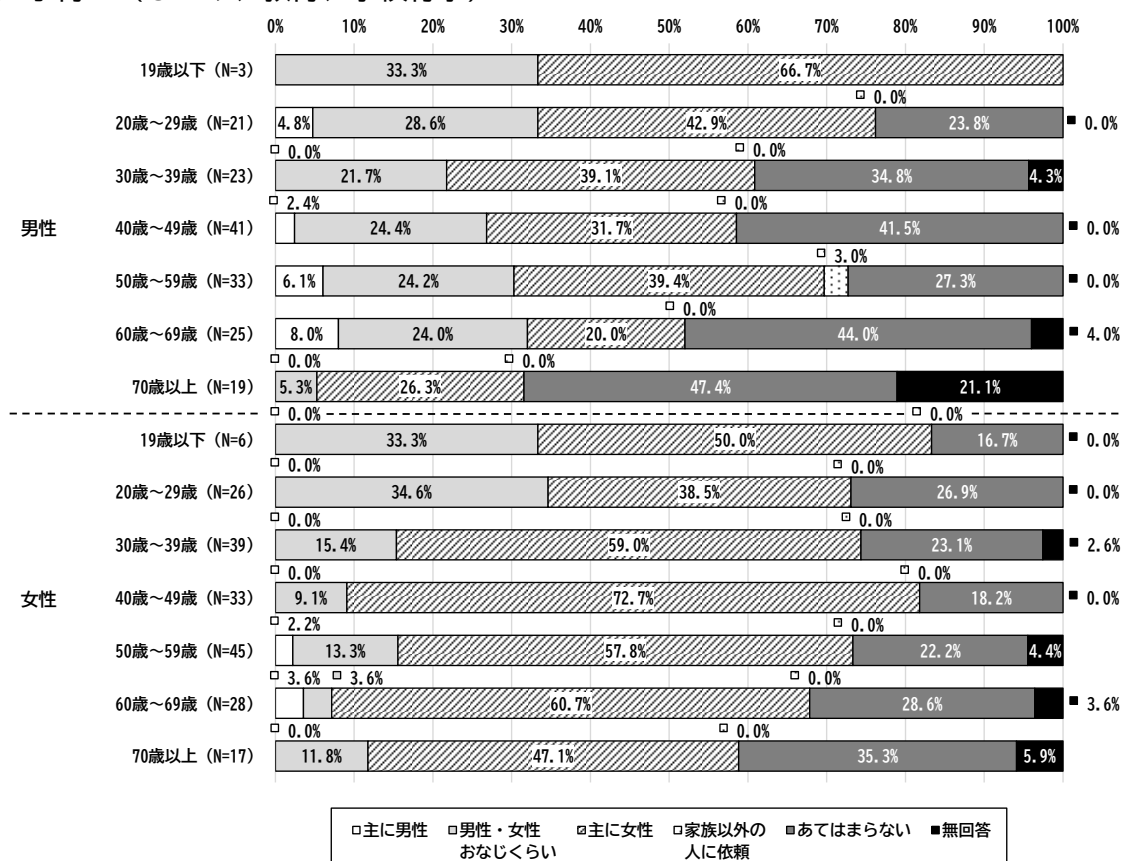
① 生活費の確保



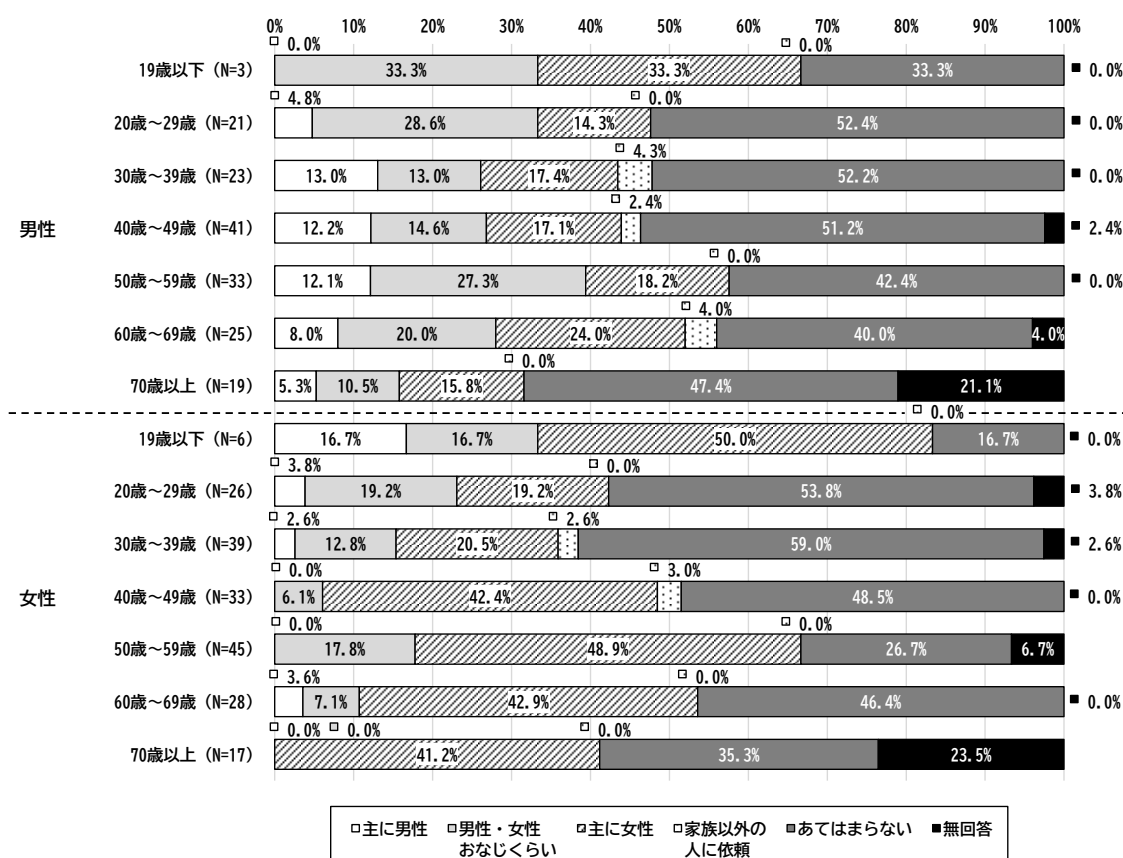
② 炊事・洗濯・掃除



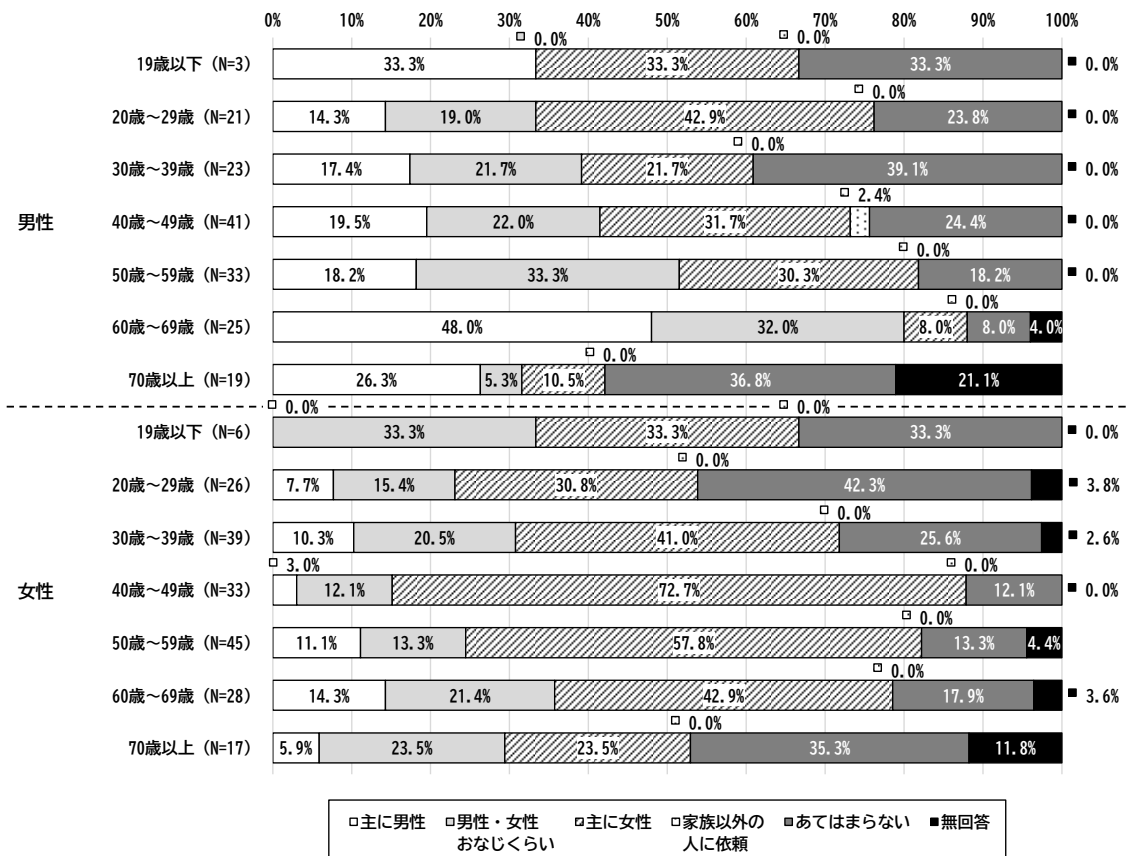
③ 子育て（しつけ、教育、学校行事）



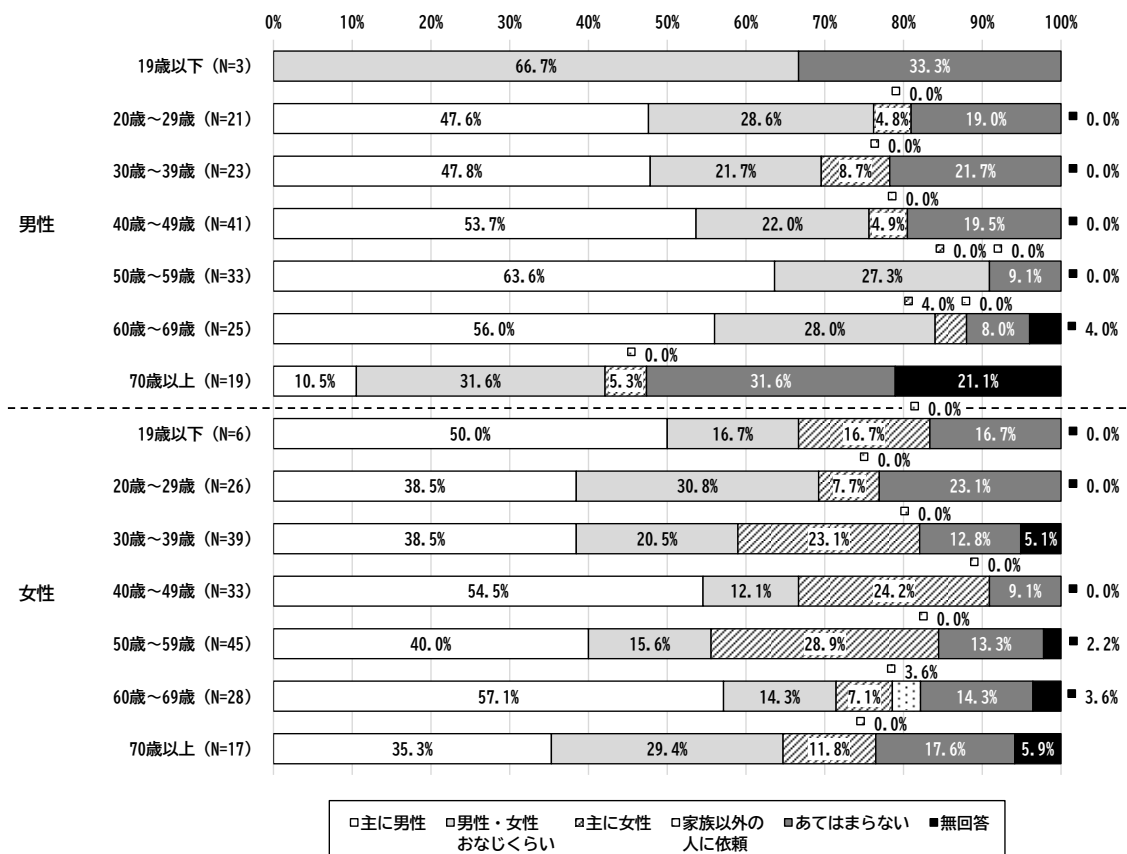
④ 家族の介護



⑤ 自治会・PTA 活動



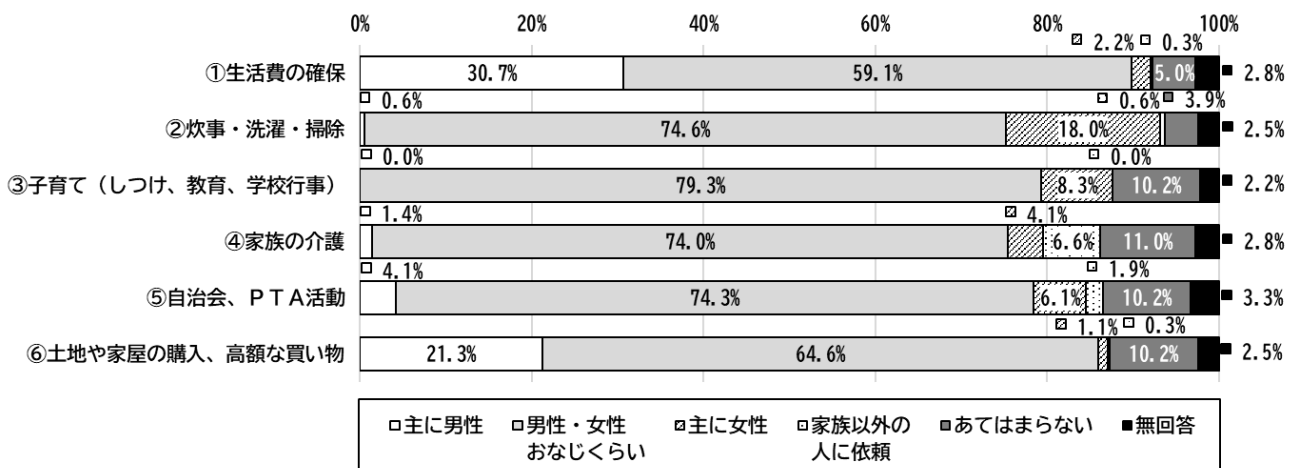
⑥ 土地や家屋の購入、高額な買い物



問9 あなたは、次の①～⑥の項目について、主に男性、女性のどちらが担う方がよいと思いますか。(回答は、それぞれ1つ)

主に男性、女性のどちらが担う方がよいかでは、「主に男性」の回答では、「①生活費の確保」が30.7%と最も高く、次いで「⑥土地や家屋の購入、高額な買い物」が21.3%となっています。一方で、「主に女性」の回答では、「②炊事・洗濯・掃除」が18.0%と最も高く、次いで「③子育て（しつけ、教育、学校行事）」が8.3%となっています。

また、「男性・女性おなじくらい」の回答では、「③子育て（しつけ、教育、学校行事）」が79.3%と最も高くなっています。

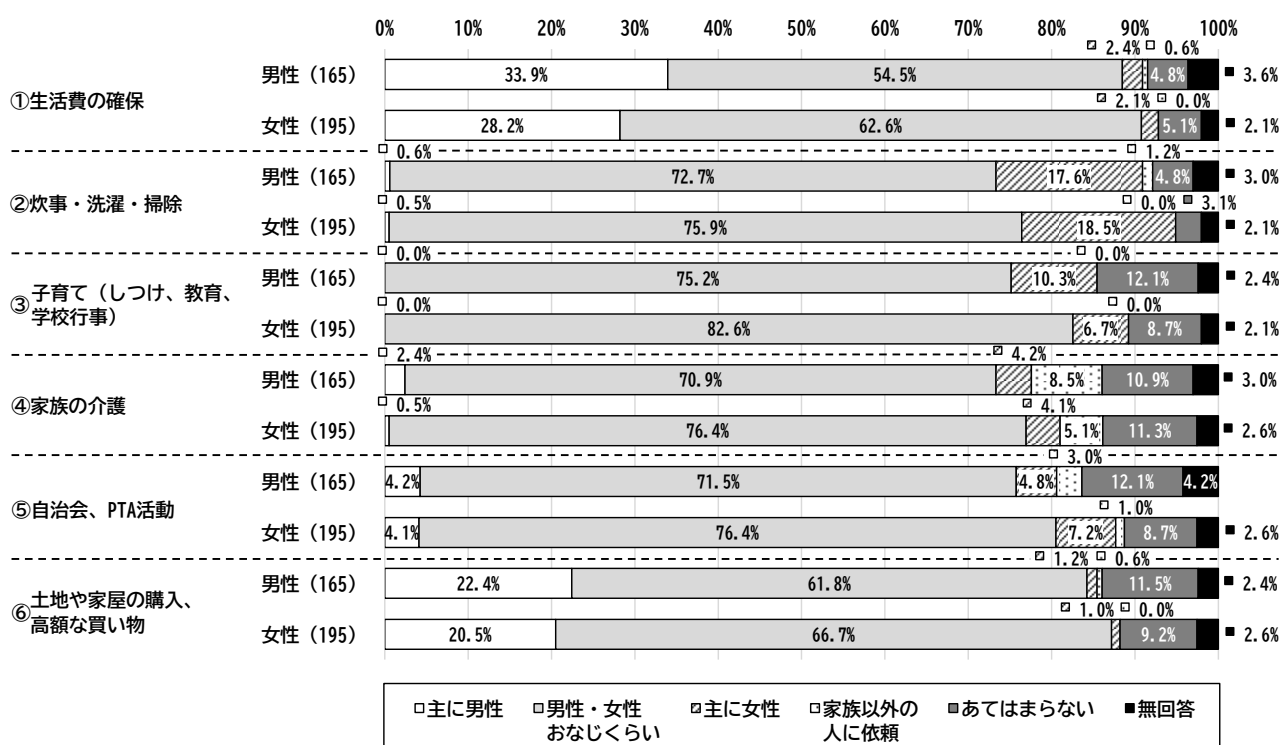


項目	主に男性	男性・女性おなじくらい	主に女性	家族以外の人に依頼	あてはまらない	無回答	合計
①生活費の確保	111	214	8	1	18	10	362
	30.7%	59.1%	2.2%	0.3%	5.0%	2.8%	100.0%
②炊事・洗濯・掃除	2	270	65	2	14	9	362
	0.6%	74.6%	18.0%	0.6%	3.9%	2.5%	100.0%
③子育て（しつけ、教育、学校行事）	0	287	30	0	37	8	362
	0.0%	79.3%	8.3%	0.0%	10.2%	2.2%	100.0%
④家族の介護	5	268	15	24	40	10	362
	1.4%	74.0%	4.1%	6.6%	11.0%	2.8%	100.0%
⑤自治会、PTA活動	15	269	22	7	37	12	362
	4.1%	74.3%	6.1%	1.9%	10.2%	3.3%	100.0%
⑥土地や家屋の購入、高額な買い物	77	234	4	1	37	9	362
	21.3%	64.6%	1.1%	0.3%	10.2%	2.5%	100.0%

【性別】

性別でみると、「①生活費の確保」、「④家族の介護」、「⑥土地や家屋の購入、高額な買い物」について、「主に男性」及び「主に女性」と回答する男性の割合が女性よりも高くなっています。

また、「②炊事、洗濯、掃除」、「③子育て（しつけ、教育、学校行事）」、「⑤自治会、PTA活動」について、「主に男性」と回答する割合は男性、女性ともにほぼ同数であるのに対し、「主に女性」と回答する割合は、「②炊事、洗濯、掃除」及び「⑤自治会、PTA活動」では女性が男性よりも高く、「③子育て（しつけ、教育、学校行事）」では男性が女性よりも高くなっています。



【年代別】

各項目を年代別でみると、「①生活費の確保」では、全ての年代層において「男性・女性おなじくらい」とする回答が最も多く、50歳代では「主に男性」が4割を超えています。

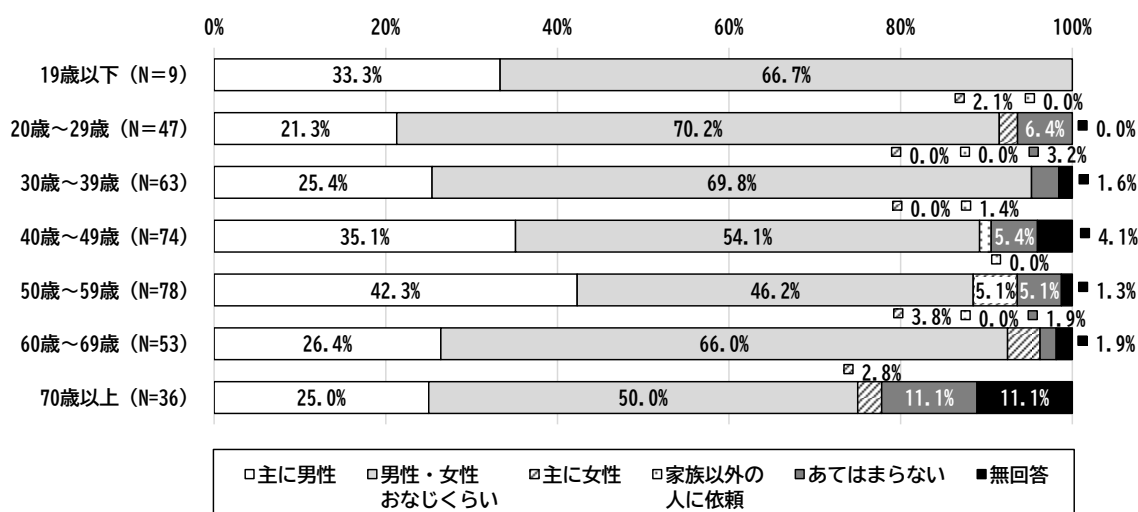
「②炊事・洗濯・掃除」では、全ての年齢層で「男性・女性おなじくらい」とする回答が最も多くなっていますが、20歳代から60歳代にかけて年代層が上がるほど「主に女性」とする回答が増加する傾向にあります。

「③子育て（しつけ、教育、学校行事）」では、全ての年代層において「男性・女性おなじくらい」とする回答が最も多くなっているものの、「主に男性」とする回答が0件である一方で「主に女性」とする回答は一定数います。

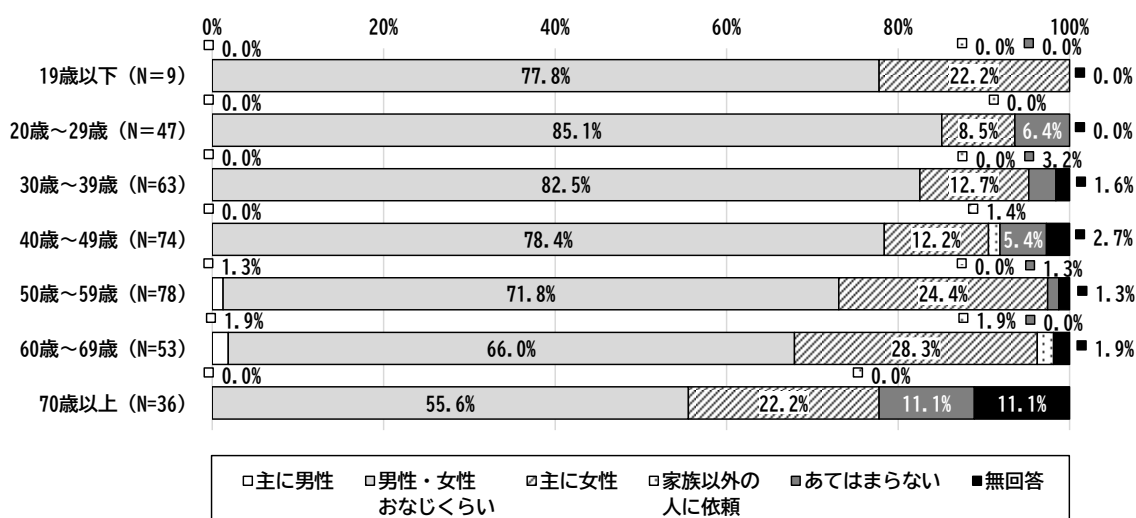
「④家族の介護」及び「⑤自治会、PTA活動」では、全ての年代層において「男性・女性おなじくらい」とする回答が最も多くなっています。

「⑥土地や家屋の購入、高額な買い物」では、全ての年齢層で「男性・女性おなじくらい」とする回答が最も多くなっていますが、20歳代から60歳代にかけて年代層が上がるほど「主に男性」とする回答が増加する傾向にあります。

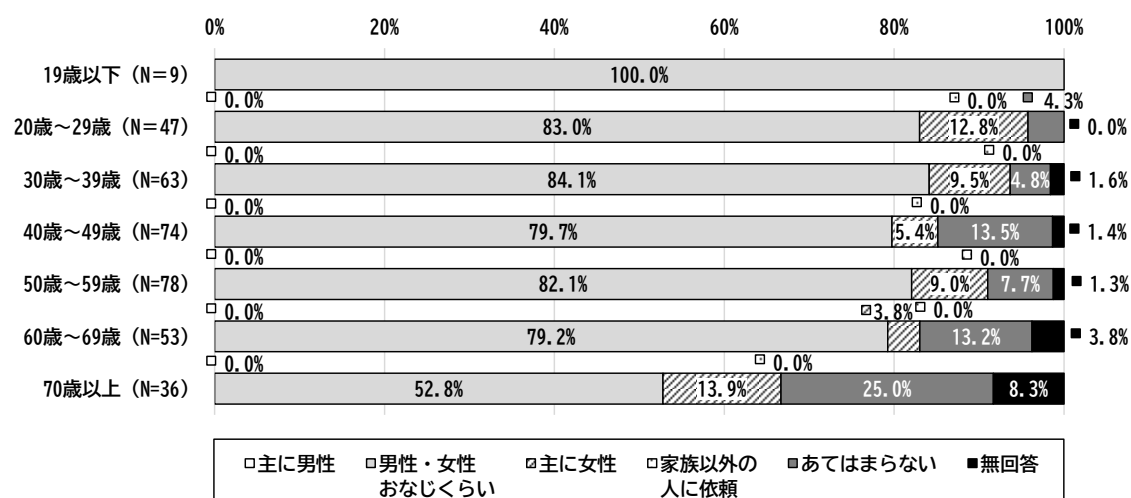
① 生活費の確保



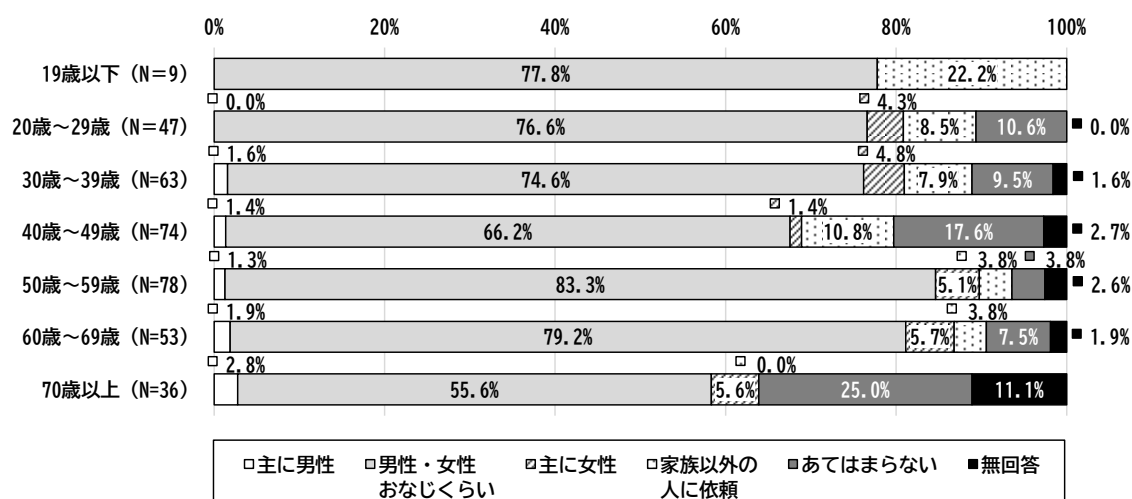
② 炊事・洗濯・掃除



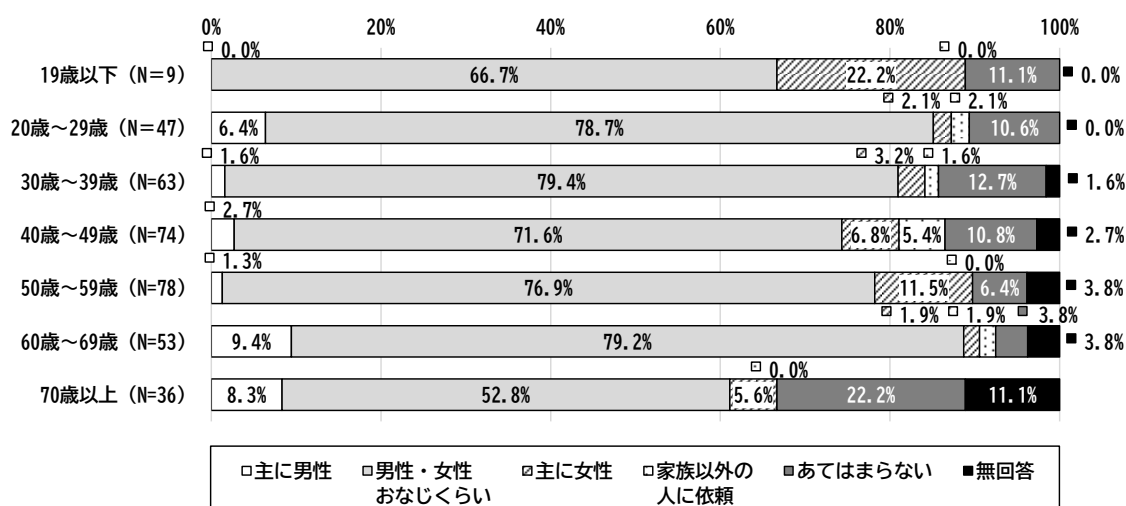
③ 子育て（しつけ、教育、学校行事）



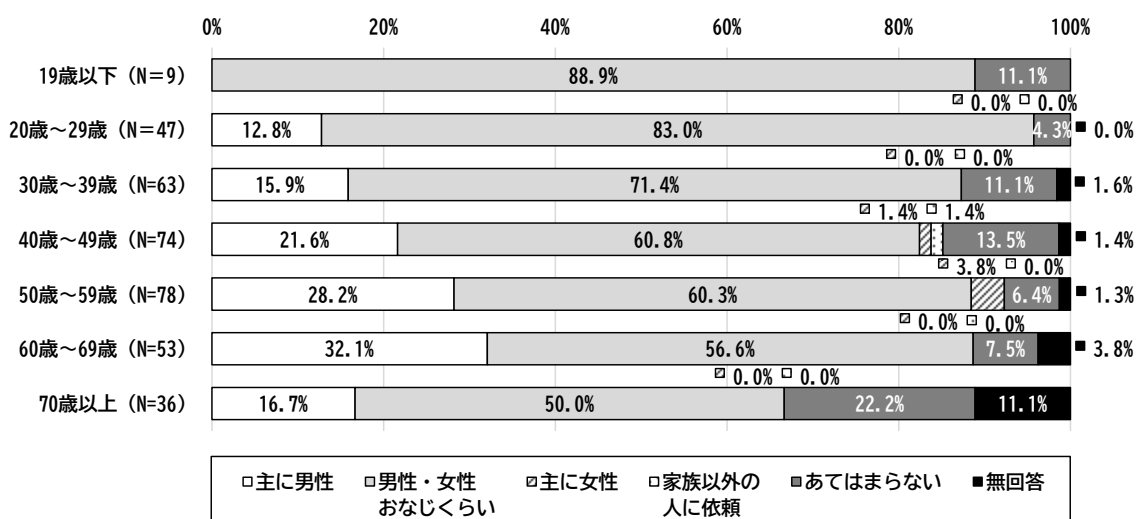
④ 家族の介護



⑤ 自治会、PTA 活動



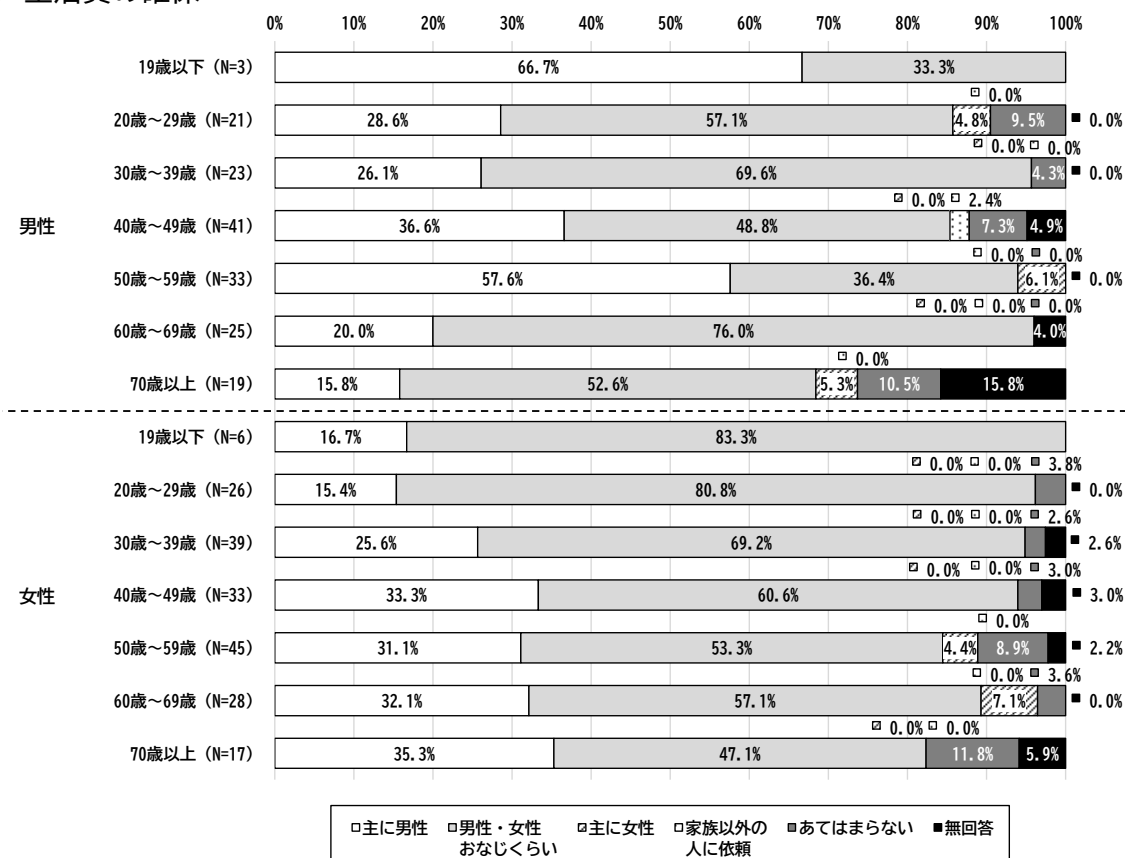
⑥ 土地や家屋の購入、高額な買い物



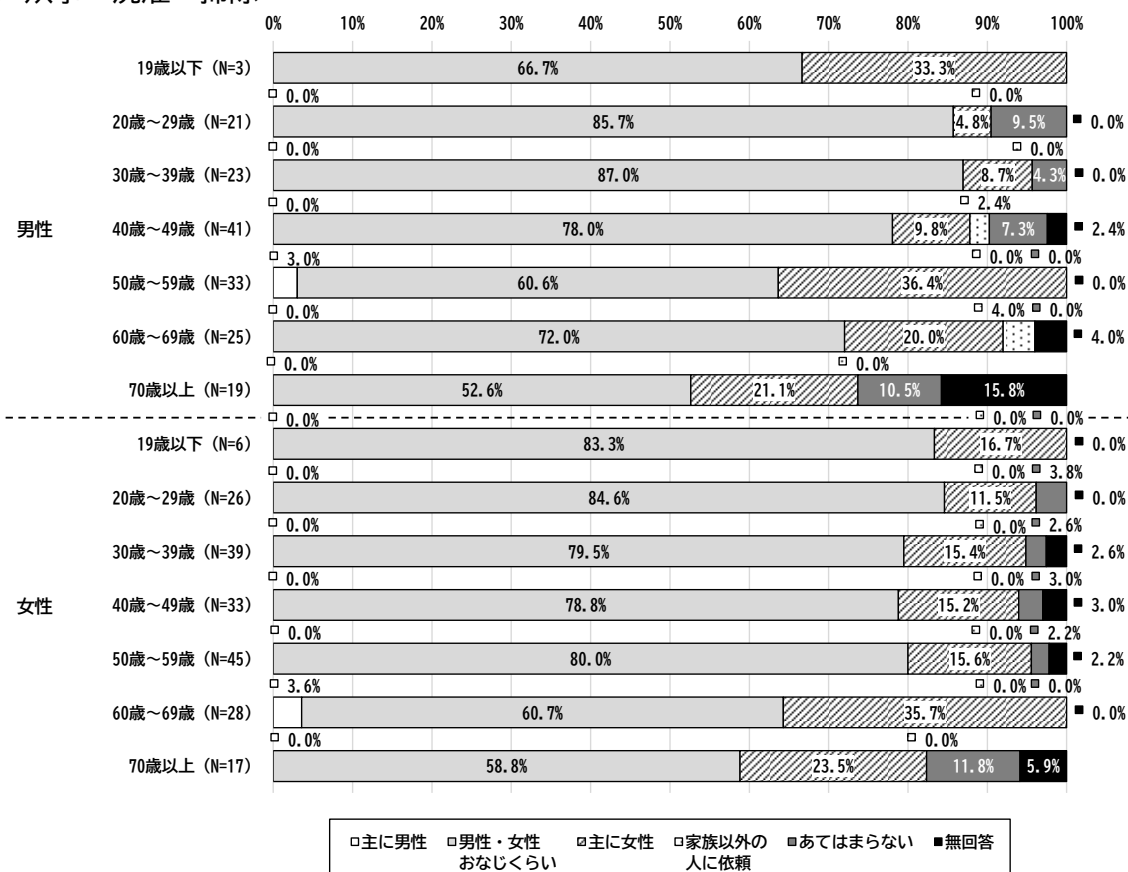
【性別・年代別】

各項目における性別・年代別では、各年代層の回答者数が少ないため、あまり傾向としてはみられませんが、「①生活費の確保」、「⑥土地や家屋の購入、高額な買い物」の女性では、年代層が上がるほど「主に男性」と回答する割合が多くなる傾向にあります。

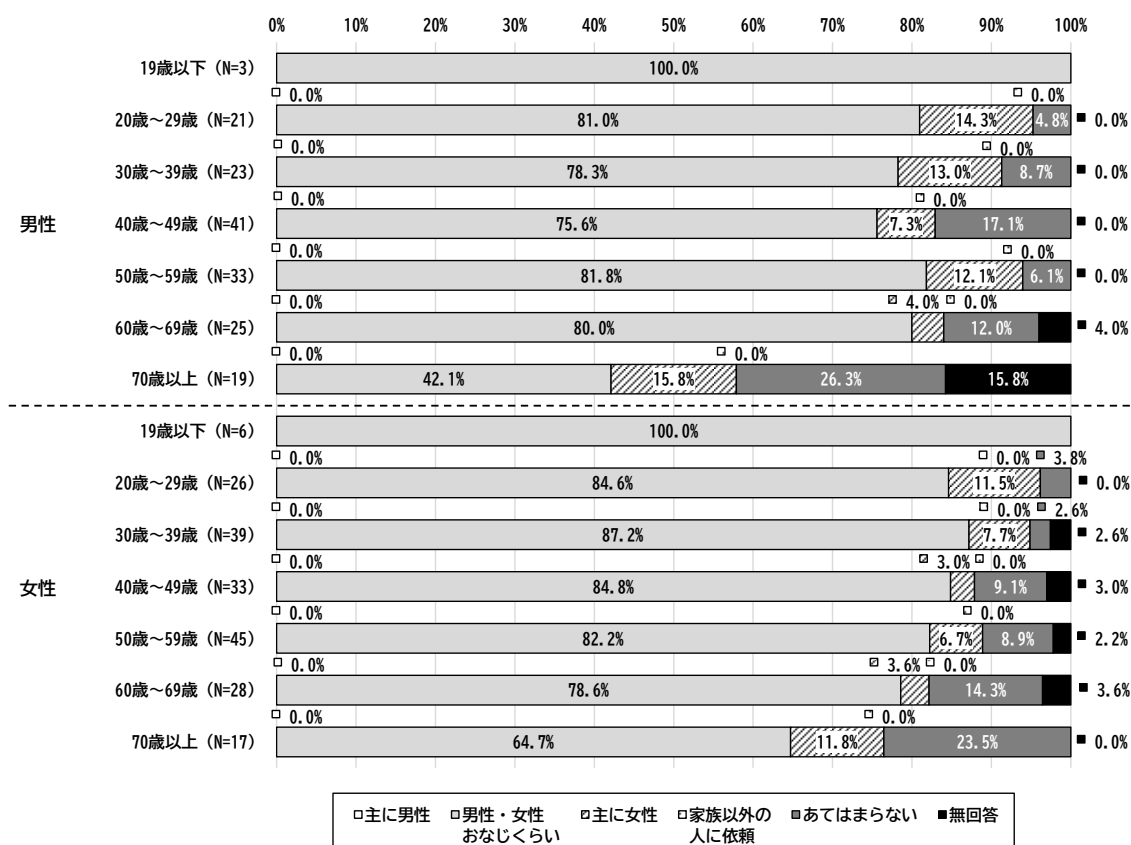
① 生活費の確保



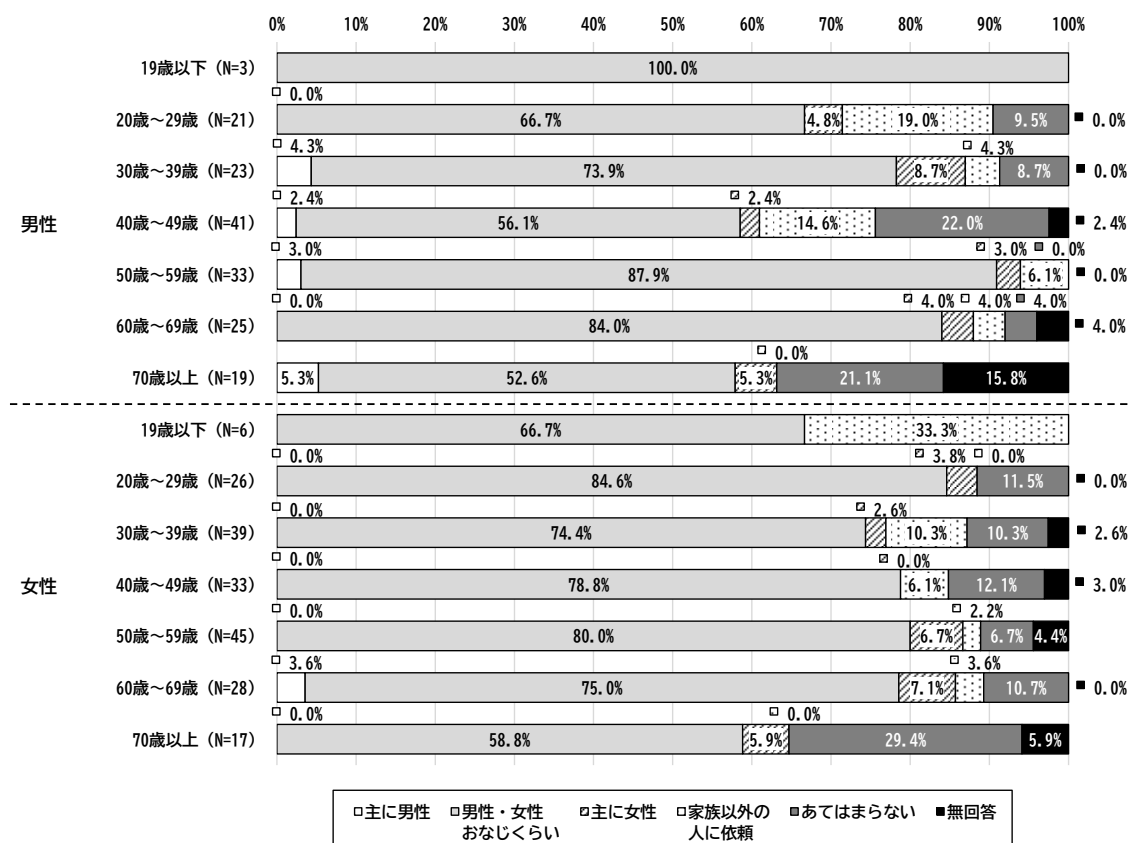
② 炊事・洗濯・掃除



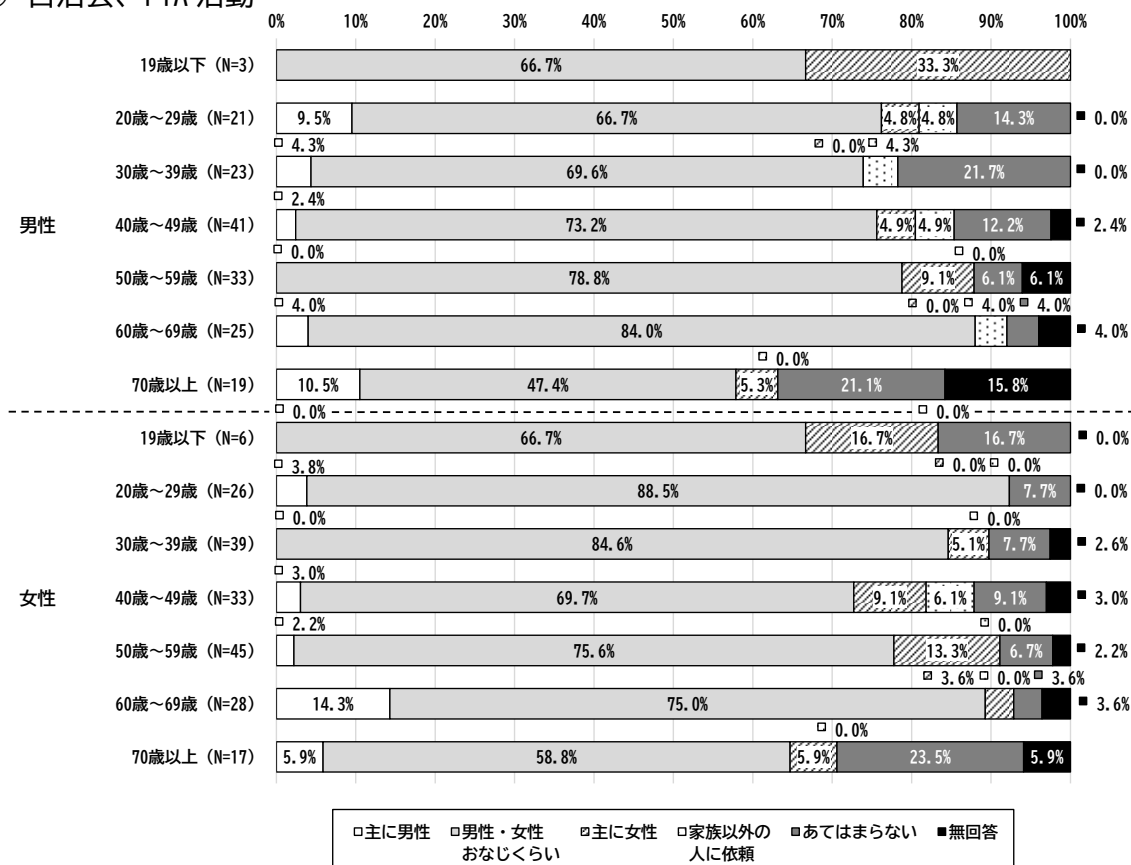
③ 子育て（しつけ、教育、学校行事）



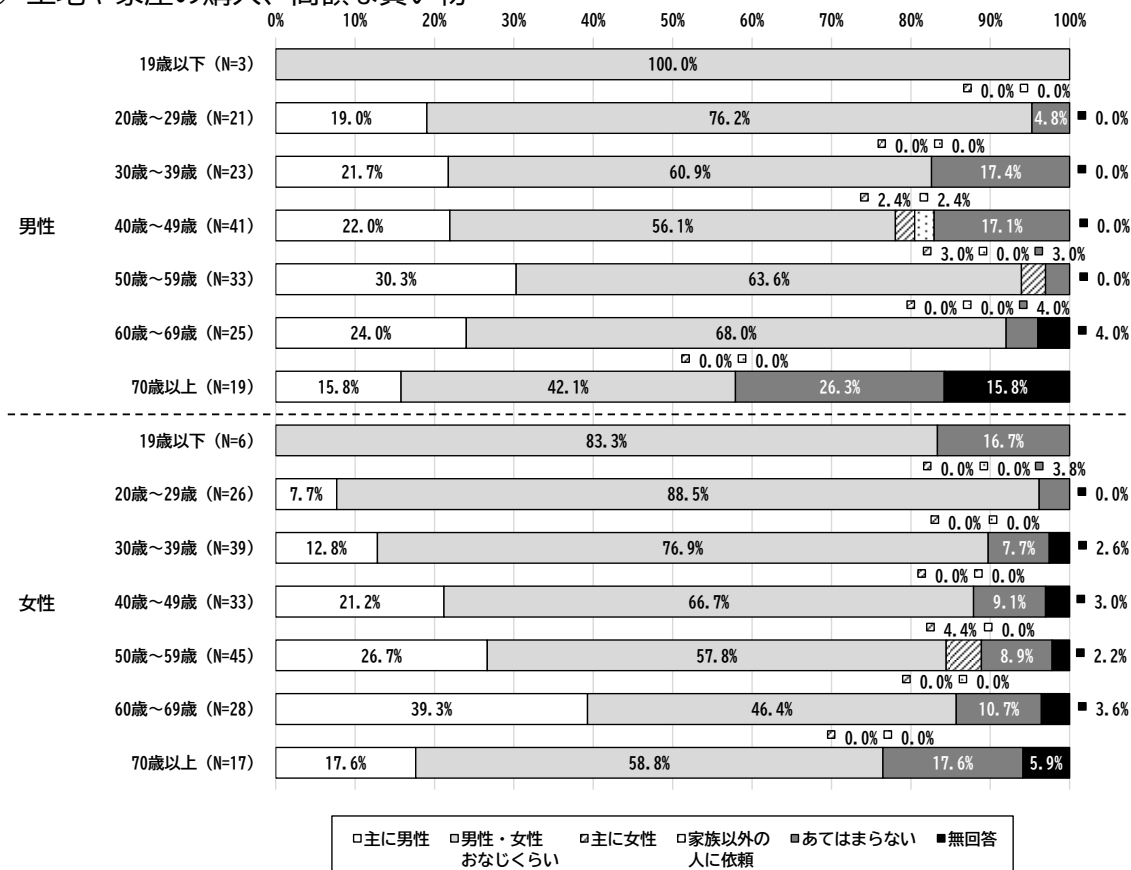
④ 家族の介護



⑤ 自治会、PTA 活動



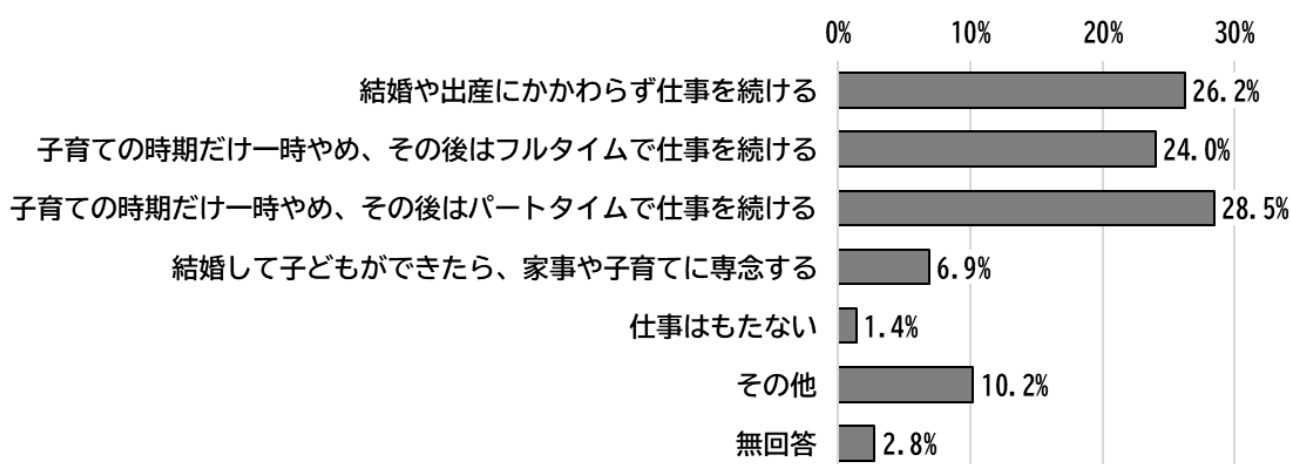
⑥ 土地や家屋の購入、高額な買い物



4. 就業について

問 10 あなたは、女性の働き方について、理想はどうあるべきだと思いますか。（回答は、1つ）

女性の働き方について、理想はどうあるべきかでは、「子育ての時期だけ一時やめ、その後はパートタイムで仕事を続ける」が28.5%と最も高く、次いで「結婚や出産にかかわらず仕事を続ける」が26.2%、「子育ての時期だけ一時やめ、その後はフルタイムで仕事を続ける」が24.0%となっています。



項目	人数（人）	比率（%）
結婚や出産にかかわらず仕事を続ける	95	26.2
子育ての時期だけ一時やめ、その後はフルタイムで仕事を続ける	87	24.0
子育ての時期だけ一時やめ、その後はパートタイムで仕事を続ける	103	28.5
結婚して子どもができれば、家事や子育てに専念する	25	6.9
仕事はもたない	5	1.4
その他	37	10.2
無回答	10	2.8
合計	362	100.0

【その他の記述】

◆「話し合う」とする回答 計4件

・話し合う	・家庭ごとに話し合う	・家族で話し合い決定
・その時の状況や環境、パートナーの人間性もあるので話し合って決める		

◆「状況に応じる」とする回答 計4件

・夫婦のかたちによる	・家庭それぞれの形があるはず
・各家庭の都合	
・状況によって変わると思うのでわかりません	

◆「本人の意思を尊重する」とする回答 計 19 件

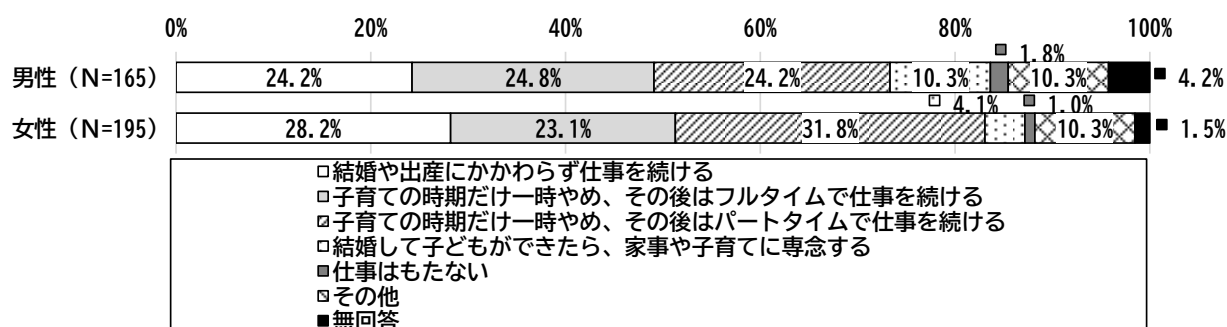
・その人に合った働き方	・本人の意思及び家庭の状況次第
・自身の考えによる	・本人次第
・個人でそれぞれ	・自由にすれば良いと思う
・本人の考えによる	・個人の意思を尊重する
・本人の意思に沿う	・本人と自分の稼ぎ次第
・女性がどのように生活したいかによる	・理想はなく、本人の意思にまかせる
・本人の意思と家族の状況によるのでは	
・人それぞれのライフスタイルがあるので、それに合わせるべき	
・その人、その時の状況等で考えればいいのでは	
・女性本人の希望が尊重される（理想はそれぞれなので。）	
・産後、子育て後に仕事に復帰するかどうか個々人が自身の意思のみで選べると良い	
・女性の働き方について、理想はどうあるべきか問うこと自体おかしい。個人の自由ではないか	
・本人の自由にしたら良いと思います。設問のどうあるべきかは、別にこうあるべきという概念にとらわれるのはどこか違う気がします	

◆その他の回答 計 6 件

・理想は1ですが、学校行事や地区活動の参加や、子どもの休みの対応など夫婦や家族で分担が出来なければ難しい。また、会社の理解がないと難しい
・出産育児のために仕事を辞めたとしても金銭的な心配をせずに生活できる制度がある
・結婚、出産関係無く、一時辞めでは無く、一時休暇という形で、同じ仕事に復帰が出来て、でも子供の体調不良の時等は嫌味や文句等言われずに帰れたり休めたりするのが良いと思う
・現在の公務員の形、産休、育休が取れ、フルタイムで①かも？
・子どもがいないので考えていない
・わからない

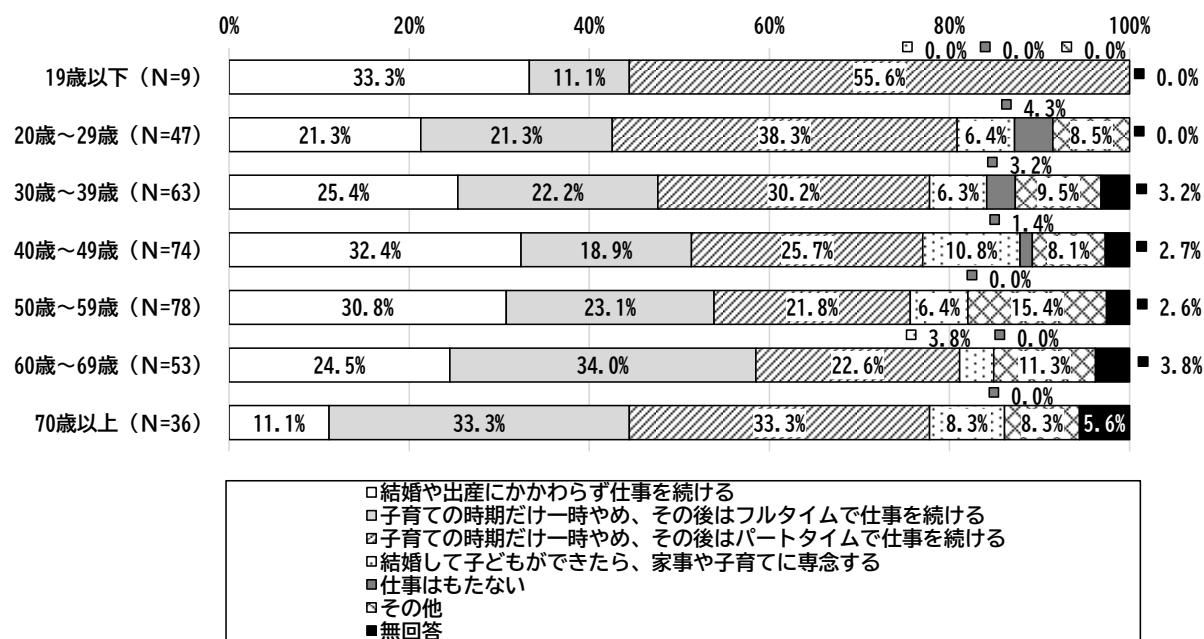
【性別】

性別でみると、「結婚や出産にかかわらず仕事を続ける」及び「子育ての時期だけ一時やめ、その後はパートタイムで仕事を続ける」と回答する女性の割合が高くなっている一方で、「子育ての時期だけ一時やめ、その後はフルタイムで仕事を続ける」及び「結婚して子供ができれば、家事や子育てに専念する」と回答する男性の割合が高くなっています。



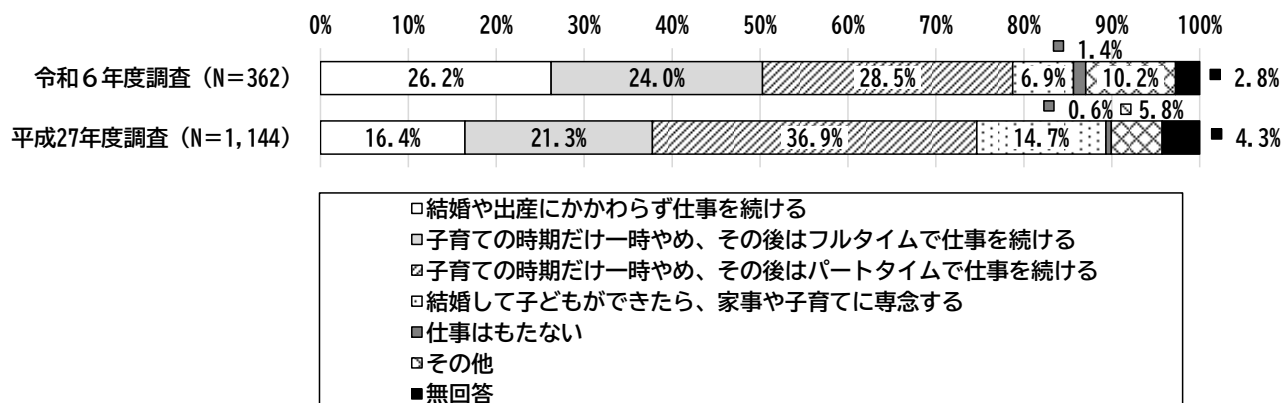
【年代別】

年代別でみると、40歳代及び50歳代において、「結婚や出産にかかわらず仕事を続ける」と回答する割合が最も高くなっています。その他の年代では、「子育ての時期だけ一時やめ、その後はフルタイム、またはパートタイムで仕事を続けたい」とする割合が高くなっています。



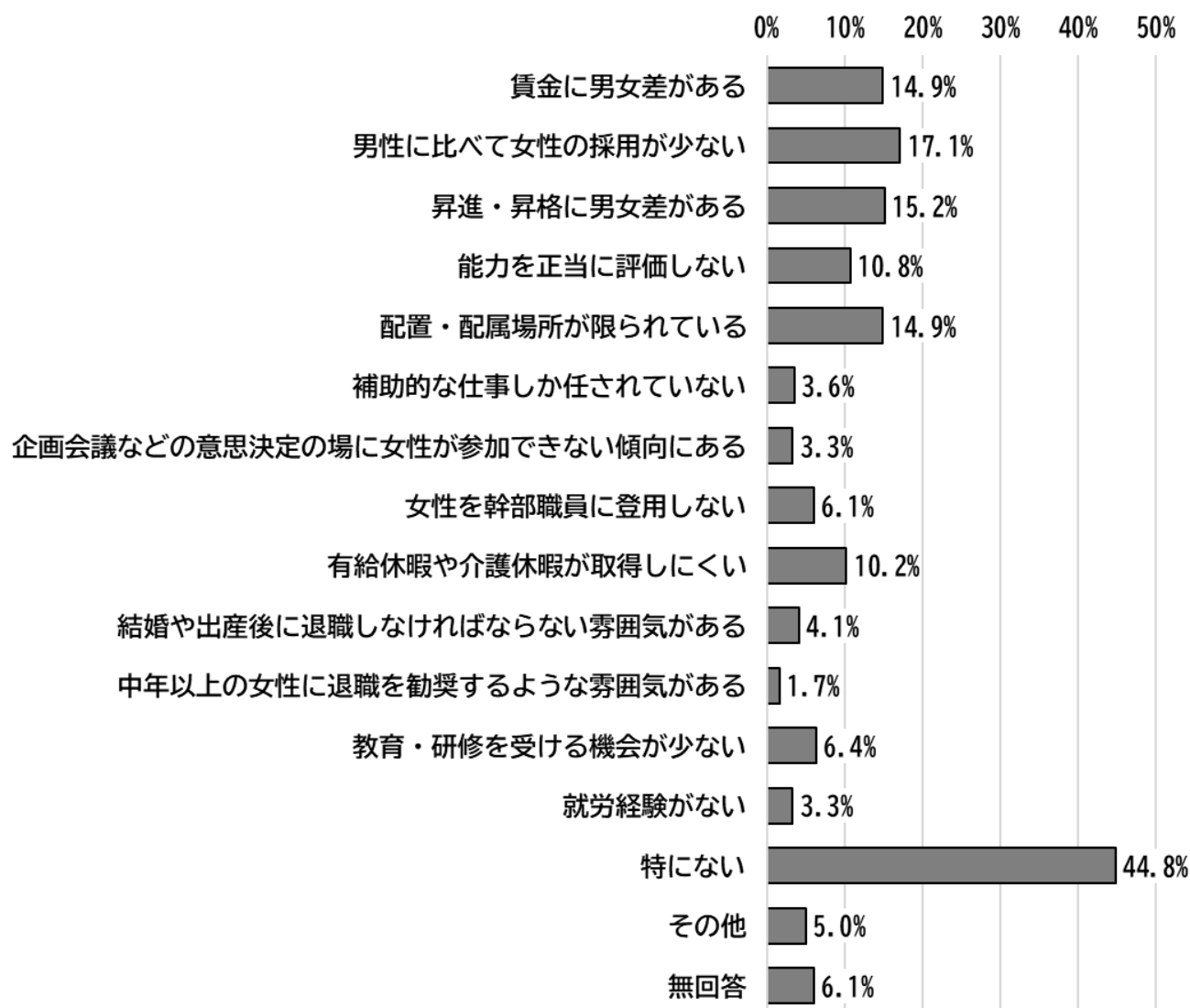
【平成 27 年度調査との比較】

平成 27 年度調査結果と比較すると、令和 6 年度調査では、「結婚や出産にかかわらず仕事を続ける」及び「子育ての時期だけ一時やめ、その後はフルタイムで仕事を続ける」の回答割合が増加している一方で、「子育ての時期だけ一時やめ、その後はパートタイムで仕事を続ける」及び「結婚して子どもができれば、家事や子育てに専念する」の回答割合は減少しています。



問 11 あなたの職場では、仕事の内容や待遇において女性に対して次のようなことがありますか。(回答は、いくつでも)

女性に対しての仕事の内容や待遇では、「男性に比べて女性の採用が少ない」が 17.1%と最も高く、次いで「昇進・昇格に男女差がある」が 15.2%、「賃金に男女差がある」及び「配置・配属場所が限られている」が 14.9%となっています。



項目	人数（人）	比率（％）
賃金に男女差がある	54	14.9
男性に比べて女性の採用が少ない	62	17.1
昇進・昇格に男女差がある	55	15.2
能力を正當に評価しない	39	10.8
配置・配属場所が限られている	54	14.9
補助的な仕事しか任されていない	13	3.6
企画会議などの意思決定の場に女性が参加できない傾向にある	12	3.3
女性を幹部職員に登用しない	22	6.1
有給休暇や介護休暇が取得しにくい	37	10.2
結婚や出産後に退職しなければならない雰囲気がある	15	4.1
中年以上の女性に退職を勧奨するような雰囲気がある	6	1.7
教育・研修を受ける機会が少ない	23	6.4
就労経験がない	12	3.3
特になし	162	44.8
その他	18	5.0
無回答	22	6.1
回答者数	362	

【その他の記述】

◆「就労していないため該当しない」とする回答 計7件

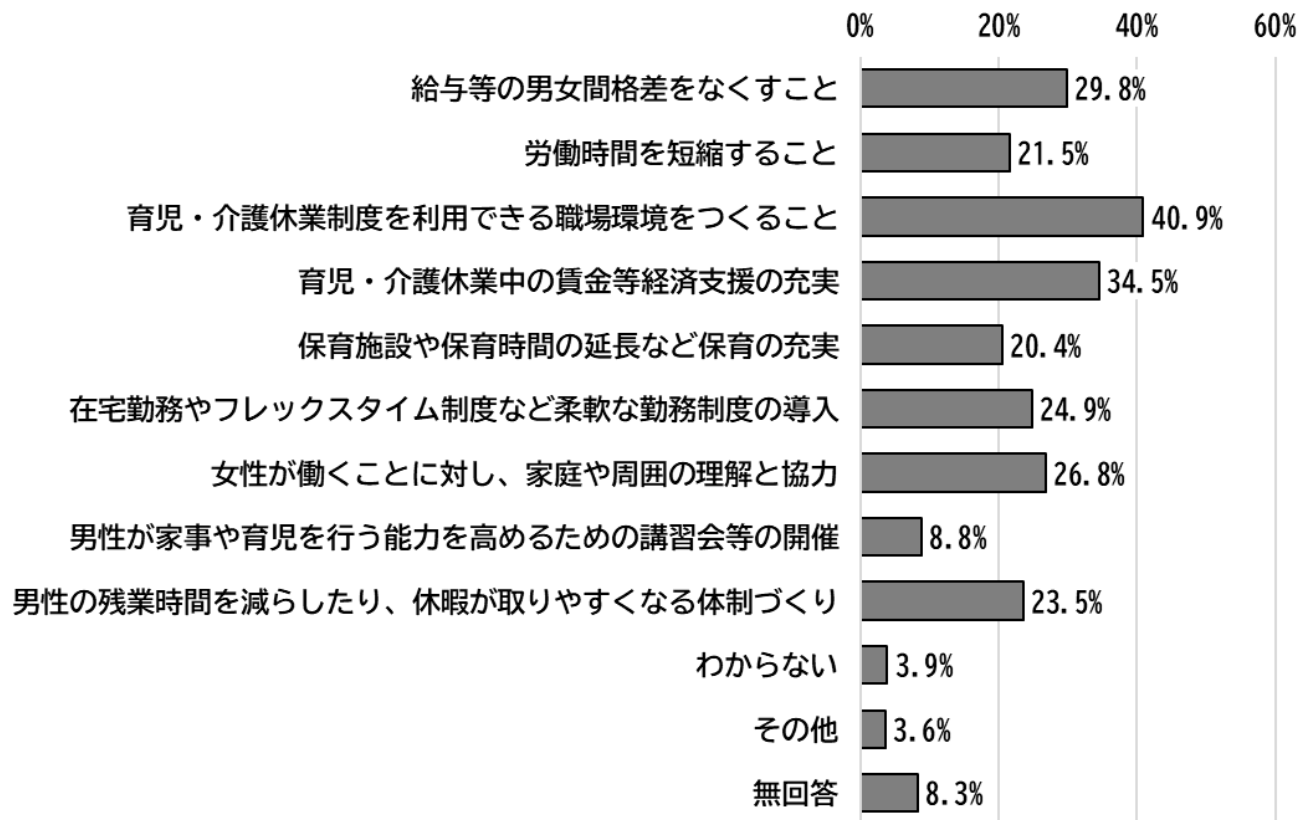
・年金者	・学生	・職場がない	・無職
・仕事はしていない	・現在仕事をしていない	・今自分は仕事をしていない	

◆その他の回答 計7件

・力仕事のため仕方ない	・休日が少ない
・今の職業はパートのため男女差は感じない	
・介護職ですが、女性の利用者に男性職員が対応できないので女性職員の負担が多い	
・看護師なので業務に対する差は少ない。ただ出産を機に異動があるなど就労継続への理解は少ないと感じる	
・自営業で収入も少ないので、配偶者に専業主婦としか認められていない	
・現在は就労していないが過去に働いたところではそういうのがありました	

問 12 あなたは、男性・女性がともに仕事と家庭を両立していくための条件として、どのようなことが必要だと思いますか。（回答は、3つまで）

男性・女性がともに仕事と家庭を両立していくための条件では、「育児・介護休業制度を利用できる職場環境をつくること」が40.9%と最も高く、次いで「育児・介護休業中の賃金等経済支援の充実」が34.5%、「給与等の男女間格差をなくすこと」が29.8%となっています。



項目	人数（人）	比率（%）
給与等の男女間格差をなくすこと	108	29.8
労働時間を短縮すること	78	21.5
育児・介護休業制度を利用できる職場環境をつくること	148	40.9
育児・介護休業中の賃金等経済支援の充実	125	34.5
保育施設や保育時間の延長など保育の充実	74	20.4
在宅勤務やフレックスタイム制度など柔軟な勤務制度の導入	90	24.9
女性が働くことに対し、家庭や周囲の理解と協力	97	26.8
男性が家事や育児を行う能力を高めるための講習会等の開催	32	8.8
男性の残業時間を減らしたり、休暇が取りやすくなる体制づくり	85	23.5
わからない	14	3.9
その他	13	3.6
無回答	30	8.3
回答者数	362	

【その他の記述】

◆「給与」に関する回答 計4件

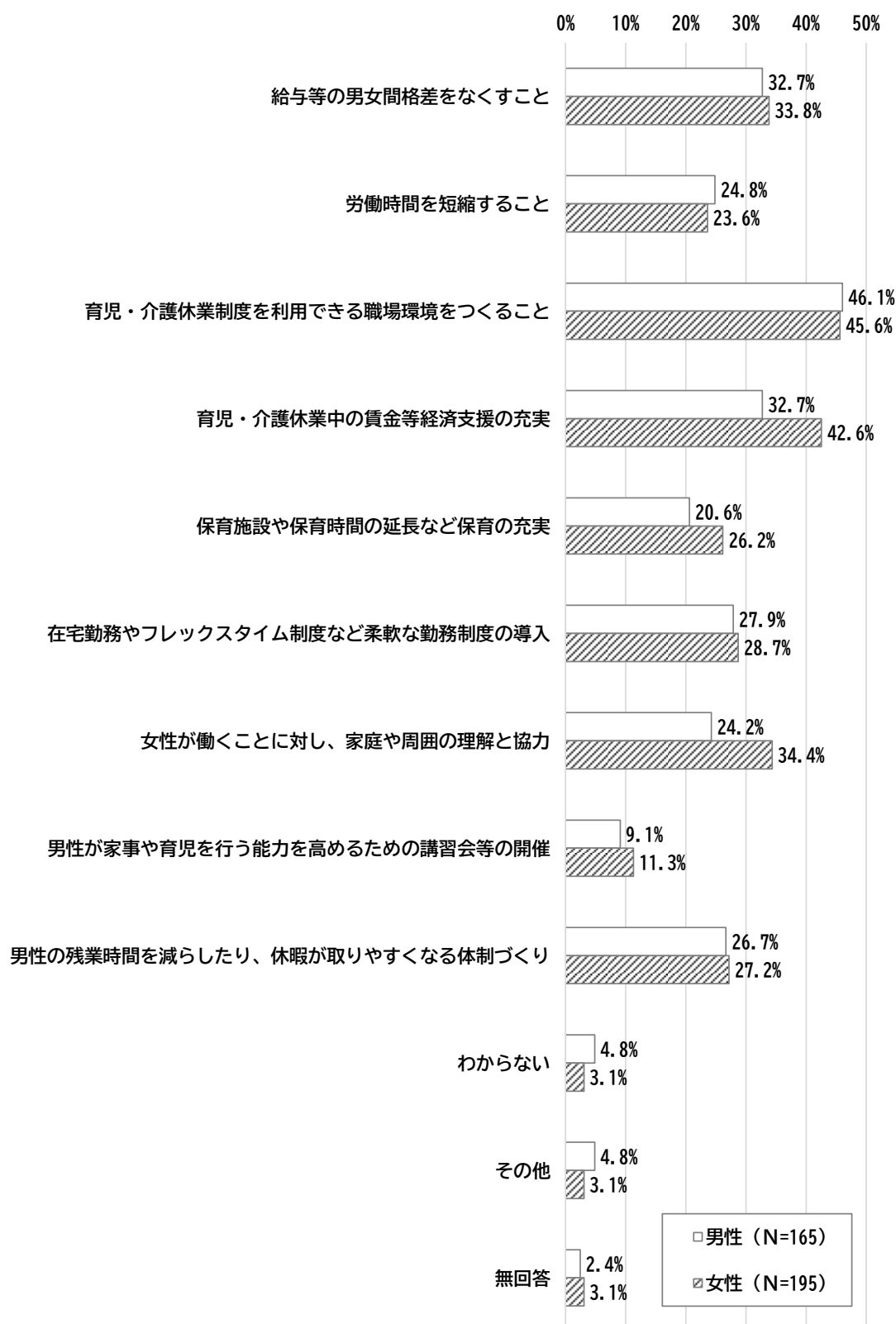
・基本賃金の賃上げ	・お金
・金銭的余裕があれば解消される	
・そもそも賃金が全体的に低いので、それからどうにかすべき	

◆その他の回答 計9件

・相互理解	・三世代世帯を増やす	・個人間の問題
・そもそも男性、女性とか言わない		
・休業中、仕事の穴をあける人材確保で安心して休める環境		
・どこまでの両立を求めているのかわからない。各家庭、各職場の環境によって違うし、個人の社会への考え方による		
・男性が、家事や育児を行うことに対しての社会や周囲の理解と協力		
・世間体や今までの常識だとされるものに囚われない考え方		
・休業中の人員削減にも対応できる職場環境の人員配置（補填要員の確保等）		

【性別】

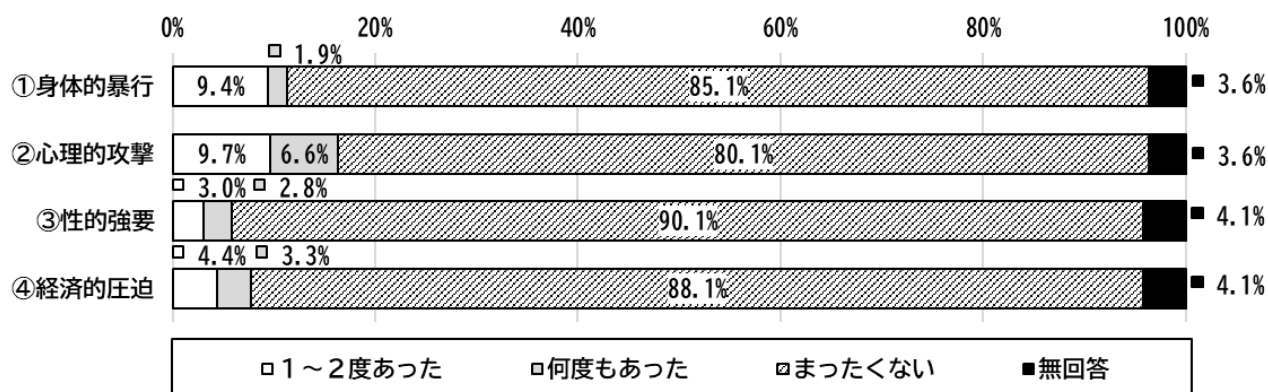
性別でみると、「育児・介護休業中の賃金等経済支援の充実」、「保育施設や保育時間の延長など保育の充実」及び「女性が働くことに対し、家庭や周囲の理解と協力」と回答する女性の割合が顕著に高く表れています。



5. 暴力について

問 13 あなたは、夫や妻（事実婚や別居中、離婚後を含む）、婚約者、恋人などの相手から次のようなことをされたことがありますか。（回答は、それぞれ1つ）

夫や妻（事実婚や別居中、離婚後を含む）、婚約者、恋人などの相手からされたことについて、「1～2度あった」の回答では、「②心理的攻撃」が9.7%と最も高く、次いで「①身体的暴行」が9.4%となっています。「何度もあった」の回答では、「②心理的攻撃」が6.6%と最も高く、次いで「④経済的圧迫」が3.3%となっています。

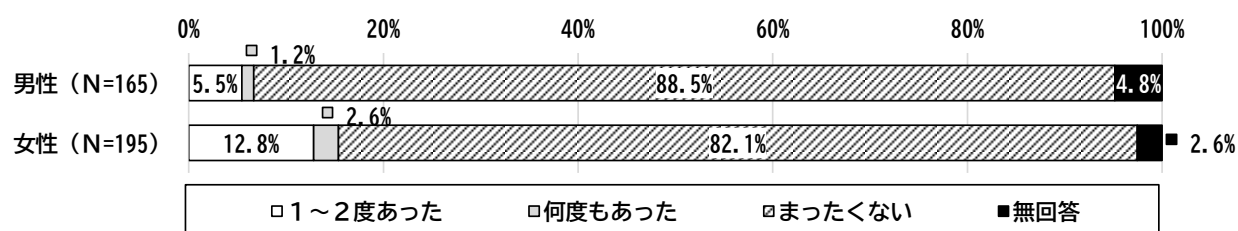


項目	1 ～ 2 度 あ っ た	何 度 も あ っ た	ま っ た く な い	無 回 答	合 計
①身体的暴行	34	7	308	13	362
	9.4%	1.9%	85.1%	3.6%	100.0%
②心理的攻撃	35	24	290	13	362
	9.7%	6.6%	80.1%	3.6%	100.0%
③性的強要	11	10	326	15	362
	3.0%	2.8%	90.1%	4.1%	100.0%
④経済的圧迫	16	12	319	15	362
	4.4%	3.3%	88.1%	4.1%	100.0%

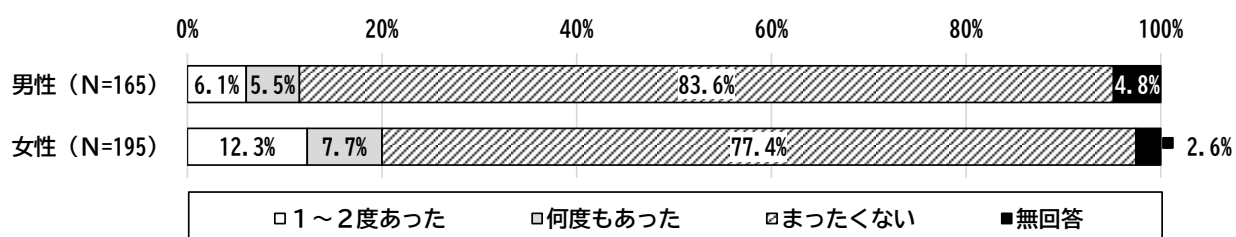
【性別】

各項目を性別でみると、「1～2度あった」及び「何度もあった」のどちらの回答においても女性の回答割合が高くなっています。

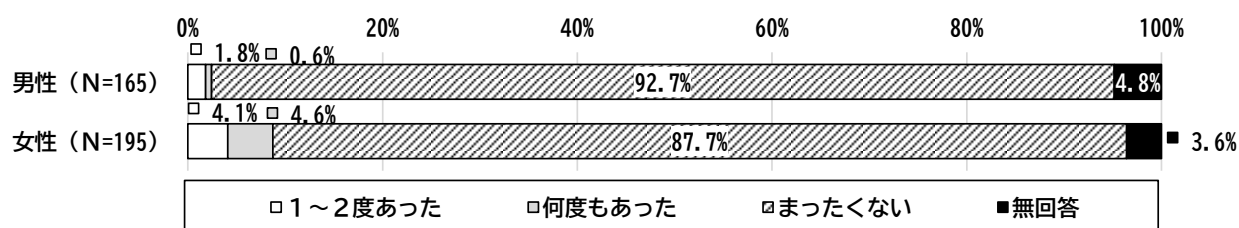
①身体的暴行



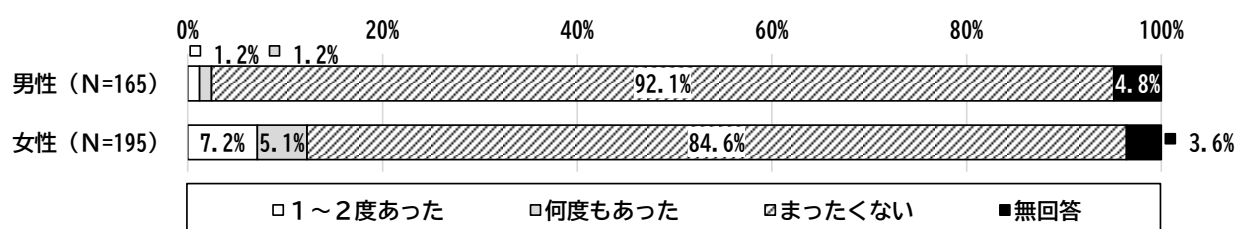
②心理的攻撃



③性的強要

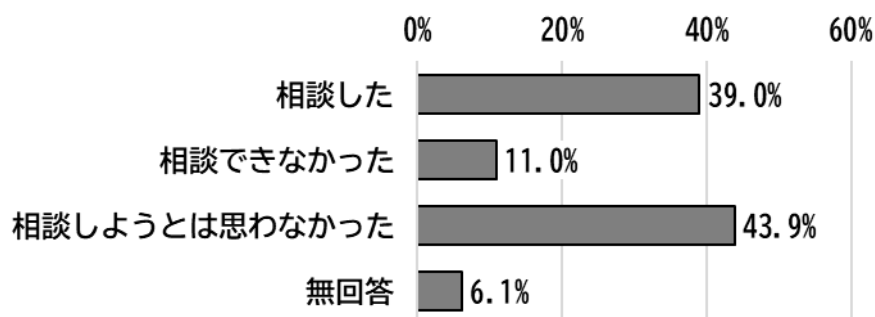


④経済的圧迫



問 13-1 問 13 で「1～2度あった」または「何度もあった」に1つでも回答された方にうかがいます。相手から受けた行為について、誰かに打ち明けたり、相談したりしましたか。(回答は、1つ)

相手から受けた行為について、誰かに打ち明けたり、相談したりしたかでは、「相談しようとは思わなかった」が43.9%と最も高く、次いで「相談した」が39.0%、「相談できなかった」が11.0%となっています。



項目	人数 (人)	比率 (%)
相談した	32	39.0
相談できなかった	9	11.0
相談しようとは思わなかった	36	43.9
無回答	5	6.1
回答者数	82	100.0

問 13-2 問 13-1 で「相談した」と回答された方にうかがいます。相談した人や場所を教えてください。(回答は、いくつでも)

相談した人や場所では、「家族・親戚」が 32 件中 21 件と最も多く、次いで「友人・知人」が 13 件、「警察」が 4 件となっています。

項目	人数 (人)	比率 (%)
家族・親戚	21	65.6
友人・知人	13	40.6
警察	4	12.5
医師・カウンセラー	1	3.1
弁護士	3	9.4
民間の相談施設	1	3.1
町の相談窓口	1	3.1
その他の公共機関	1	3.1
その他	1	3.1
無回答	0	0.0
回答者数	32	

※回答者数が少ないため表のみ掲載

【その他の記述】

・夫会社の上司

問 13-3 問 13-1 で「相談できなかった」「相談しようとは思わなかった」と回答された方にうかがいます。それはなぜですか。(回答は、いくつでも)

相談できなかった、または相談しようとは思わなかった理由は、「相談しても無駄だと思った」が 45 件中 20 件と最も多く、次いで「自分さえ我慢すればこのままやっていくことができると思った」及び「相談するほどのことでもないと思った」が 13 件、「思い出したくなかった」が 12 件となっています。

項目	人数 (人)	比率 (%)
誰 (どこ) に相談したらよいかわからなかった	11	24.4
恥ずかしくて誰にも言えなかった	6	13.3
相談しても無駄だと思った	20	44.4
相談したことが分かった、もっとひどい暴力を受けると思った	3	6.7
自分さえ我慢すればこのままやっていくことができると思った	13	28.9
思い出したくなかった	12	26.7
相談するほどのことでもないと思った	13	28.9
自分にも悪いところがあると思った	11	24.4
世間体が悪い	2	4.4
その他	5	11.1
無回答	0	0.0
回答者数	45	

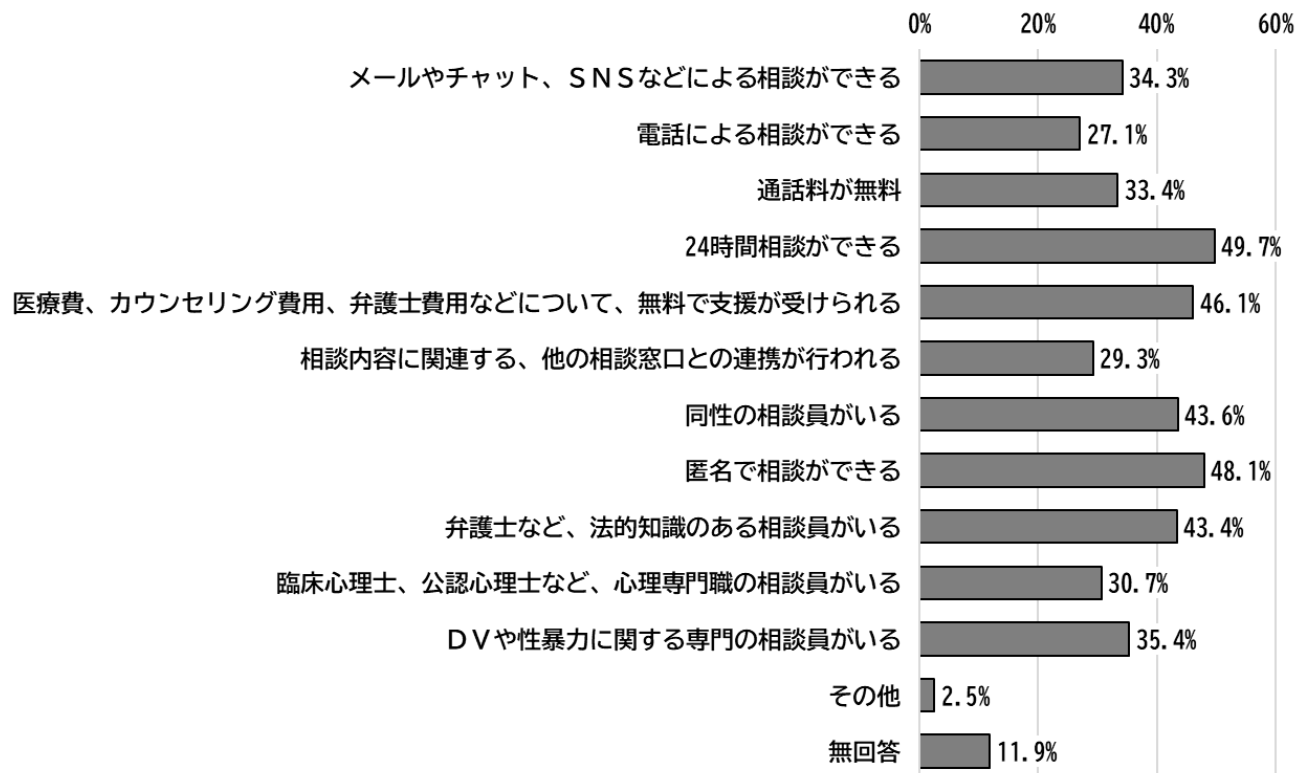
※回答者数が少ないため表のみ掲載

【その他の記述】

・ 本人に直接話した	・ 自分の中で対応方法がわかっていたため
・ 相談を受けた人が悲しむと思った	

問 14 あなたは、女性に対する暴力や様々な悩みなどに関する相談窓口などで配慮してほしいと思うことは何ですか。（回答は、いくつでも）

女性に対する暴力や様々な悩みなどに関する相談窓口などで配慮してほしいことでは、「24時間相談ができる」が49.7%と最も高く、次いで「匿名で相談ができる」が48.1%、「医療費、カウンセリング費用、弁護士費用などについて、無料で支援が受けられる」が46.1%となっています。



項目	人数（人）	比率（%）
メールやチャット、SNSなどによる相談ができる	124	34.3
電話による相談ができる	98	27.1
通話料が無料	121	33.4
24時間相談ができる	180	49.7
医療費、カウンセリング費用、弁護士費用などについて、無料で支援が受けられる	167	46.1
相談内容に関連する、他の相談窓口との連携が行われる	106	29.3
同性の相談員がいる	158	43.6
匿名で相談ができる	174	48.1
弁護士など、法的知識のある相談員がいる	157	43.4
臨床心理士、公認心理士など、心理専門職の相談員がいる	111	30.7
DVや性暴力に関する専門の相談員がいる	128	35.4
その他	9	2.5
無回答	43	11.9
回答者数	362	

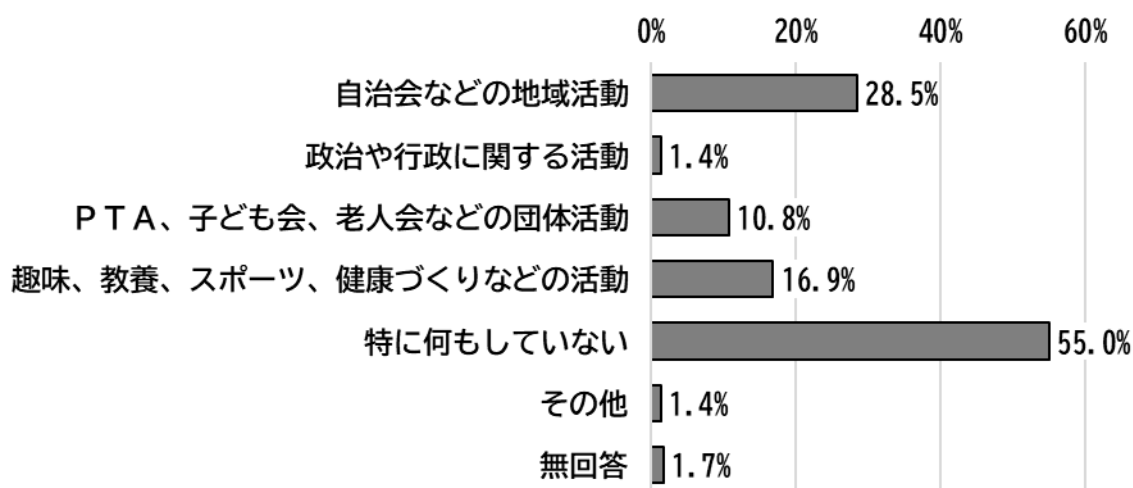
【その他の記述】

・無神経な発言をしない相談員がいる	
・相談だけで終わらず、対応まで行える仕組みが必要	
・すべてできると良いと思う。無料にはしなくていいとも思う（医療費など）	
・考えたことがない	・特になし

6. 社会参加について

問 15 あなたは、現在、次のような地域での活動に参加していますか。（回答は、いくつでも）

地域での活動に参加しているかでは、「自治会などの地域活動」が 28.5%と最も高く、次いで「趣味、教養、スポーツ、健康づくりなどの活動」が 16.9%、「PTA、子ども会、老人会などの団体活動」が 10.8%となっています。



項目	人数（人）	比率（%）
自治会などの地域活動	103	28.5
政治や行政に関する活動	5	1.4
PTA、子ども会、老人会などの団体活動	39	10.8
趣味、教養、スポーツ、健康づくりなどの活動	61	16.9
特に何もしていない	199	55.0
その他	5	1.4
無回答	6	1.7
回答者数	362	

【その他の記述】

◆具多的な活動の回答 計 2 件

・交通安全母の会役員	・坂戸の消防団員
------------	----------

【性別】

性別でみると、「自治会などの地域活動」及び「趣味、教養、スポーツ、健康づくりなどの活動」では、男性の回答割合が高く、「PTA、子ども会、老人会などの団体活動」では、女性の回答割合が高くなっています。

性別	動自治会などの地域活	活政治や行政に関する	動老人会、PTA、子ども会などの団体活	のツ趣味、健康づくりなどの活動	特に何もしていない	その他	無回答	回答者数
男性	52	3	10	30	91	3	3	165
	31.5%	1.8%	6.1%	18.2%	55.2%	1.8%	1.8%	
女性	51	2	28	30	108	2	3	195
	26.2%	1.0%	14.4%	15.4%	55.4%	1.0%	1.5%	
その他	0	0	0	1	0	0	0	1
	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	

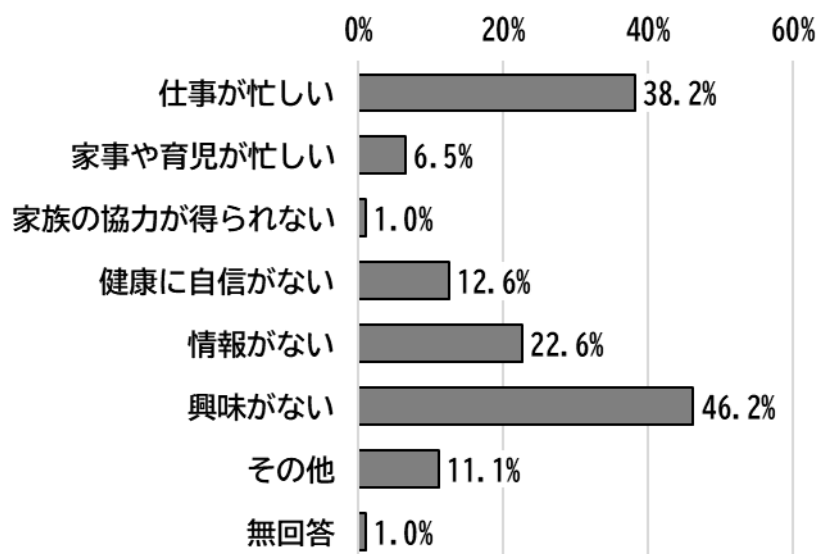
【年代別】

年代別でみると、「自治会などの地域活動」及び「趣味、教養、スポーツ、健康づくりなどの活動」では、年代が上がるにつれ参加割合も増加しています。「PTA、子ども会、老人会などの団体活動」では、子育て世代にあたる 30 歳代及び 40 歳代の割合が高くなっています。

年代	動自治会などの地域活	活政治や行政に関する	動老人会、PTA、子ども会などの団体活	のツ趣味、健康づくりなどの活動	特に何もしていない	その他	無回答	回答者数
19歳以下	0	0	0	0	8	1	0	9
	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	88.9%	11.1%	0.0%	
20歳～29歳	2	1	1	6	39	0	0	47
	4.3%	2.1%	2.1%	12.8%	83.0%	0.0%	0.0%	
30歳～39歳	14	1	9	9	36	0	1	63
	22.2%	1.6%	14.3%	14.3%	57.1%	0.0%	1.6%	
40歳～49歳	20	0	18	11	44	1	0	74
	27.0%	0.0%	24.3%	14.9%	59.5%	1.4%	0.0%	
50歳～59歳	28	2	8	14	38	0	2	78
	35.9%	2.6%	10.3%	17.9%	48.7%	0.0%	2.6%	
60歳～69歳	21	0	2	11	22	2	2	53
	39.6%	0.0%	3.8%	20.8%	41.5%	3.8%	3.8%	
70歳以上	18	1	0	9	12	1	1	36
	50.0%	2.8%	0.0%	25.0%	33.3%	2.8%	2.8%	

問 16 問 15 で「特に何もしていない」と回答された方にうかがいます。それはどのような理由からですか。(回答は、3つまで)

「特に何もしていない」の理由では、「興味がない」が46.2%と最も高く、次いで「仕事が忙しい」が38.2%、「情報がない」が22.6%となっています。



項目	人数 (人)	比率 (%)
仕事が忙しい	76	38.2
家事や育児が忙しい	13	6.5
家族の協力が得られない	2	1.0
健康に自信がない	25	12.6
情報がない	45	22.6
興味がない	92	46.2
その他	22	11.1
無回答	2	1.0
回答者数	199	

【その他の記述】

◆「学業を優先したい」とする回答 計2件

・学業を優先しているため	・学校の勉強で忙しい
--------------	------------

◆「病気または介護のため」とする回答 計7件

・介護が忙しい	・介護（主人の）をしている	・病気
・療養中	・介護	・介護施設でリハビリ中
・病気の後遺症の為、あまり歩けない		

◆その他の回答 計 10 件

・合うものがない	・今は特に必要でないため	・人間関係がうまく行かなそう
・父母が主に活動している	・主人に参加してもらっている	・大学で活動している
・今まですべての役員等はしてきた	・アパートなので自治会に入っていない	
・自分の空き時間を有効活用できている	・活動できる状況ではないため	

【性別】

性別でみると、男性より女性の方が「仕事が忙しい」と回答する割合が 9.6 ポイント高くなっています。また、女性より男性の方が「興味がない」と回答する割合が 18 ポイント高くなっています。

性別	仕事が忙しい	家事や育児が忙しい	い家族の協力が得られない	健康に自信がない	情報がない	興味がない	その他	無回答	回答者数
男性	30	0	0	10	20	51	6	1	91
	33.0%	0.0%	0.0%	11.0%	22.0%	56.0%	6.6%	1.1%	
女性	46	13	2	15	25	41	16	1	108
	42.6%	12.0%	1.9%	13.9%	23.1%	38.0%	14.8%	0.9%	
その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	

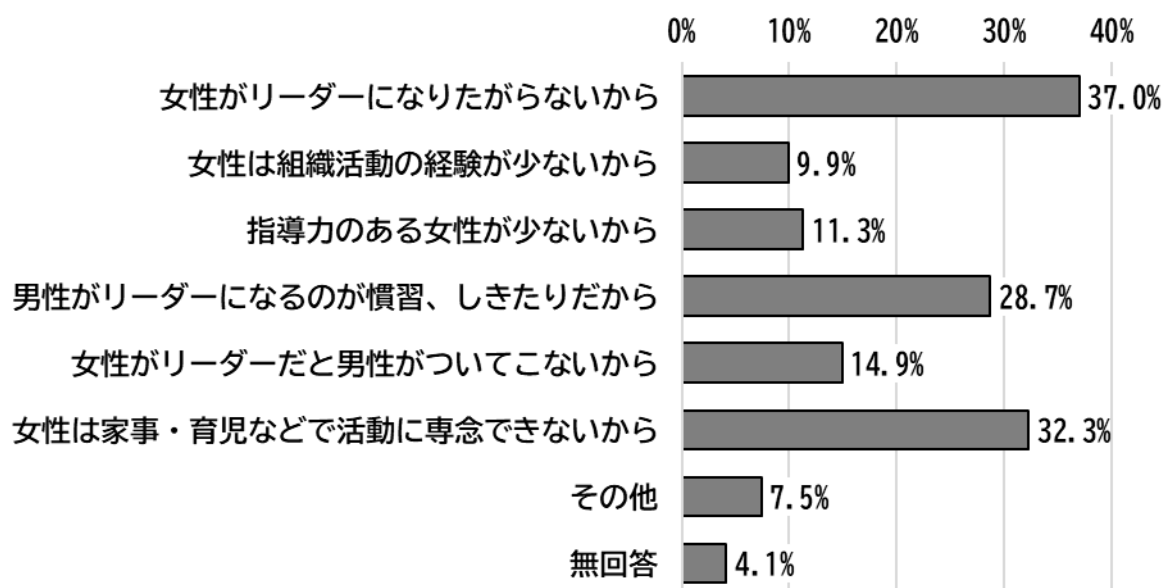
【年代別】

年代別でみると、「仕事が忙しい」では広い年代層において回答割合が高くなっており、特に 40 歳代では半数以上の方が回答しています。また、70 歳以上の「情報がない」、10 代から 30 歳代の「興味がない」と回答した方が、半数以上を占めています。

年代	仕事が忙しい	家事や育児が忙しい	家族の協力が得られない	健康に自信がない	情報がない	興味がない	その他	無回答	回答者数
19歳以下	2	0	0	1	2	4	1	0	8
	25.0%	0.0%	0.0%	12.5%	25.0%	50.0%	12.5%	0.0%	
20歳～29歳	16	2	0	1	11	23	3	0	39
	41.0%	5.1%	0.0%	2.6%	28.2%	59.0%	7.7%	0.0%	
30歳～39歳	14	7	0	3	8	22	2	0	36
	38.9%	19.4%	0.0%	8.3%	22.2%	61.1%	5.6%	0.0%	
40歳～49歳	23	2	1	5	7	20	5	1	44
	52.3%	4.5%	2.3%	11.4%	15.9%	45.5%	11.4%	2.3%	
50歳～59歳	12	1	1	7	7	15	5	0	38
	31.6%	2.6%	2.6%	18.4%	18.4%	39.5%	13.2%	0.0%	
60歳～69歳	7	1	0	8	4	6	3	0	22
	31.8%	4.5%	0.0%	36.4%	18.2%	27.3%	13.6%	0.0%	
70歳以上	2	0	0	0	6	2	3	1	12
	16.7%	0.0%	0.0%	0.0%	50.0%	16.7%	25.0%	8.3%	

問 17 あなたは、地域での活動の会長やリーダーに、女性が少ない傾向にある原因は何だと思いますか。(回答は、2つまで)

地域での活動の会長やリーダーに、女性が少ない傾向にある原因では、「女性がリーダーになりたがらないから」が 37.0%と最も高く、次いで「女性は家事・育児などで活動に専念できないから」が 32.3%、「男性がリーダーになるのが慣習、しきたりだから」が 28.7%となっています。



項目	人数 (人)	比率 (%)
女性がリーダーになりたがらないから	134	37.0
女性は組織活動の経験が少ないから	36	9.9
指導力のある女性が少ないから	41	11.3
男性がリーダーになるのが慣習、しきたりだから	104	28.7
女性がリーダーだと男性がついてこないから	54	14.9
女性は家事・育児などで活動に専念できないから	117	32.3
その他	27	7.5
無回答	15	4.1
回答者数	362	

【その他の記述】

◆「女性が少ない傾向にあるとは思わない」とする回答 計2件

・そんなことはない	・少ない傾向にあるとは思っていません
-----------	--------------------

◆その他の回答 計14件

・大変だから	・仕事が忙しい
・負担が大きいから	・興味がないと感じる
・そもそも誰の能力が高いのかわからない	
・男女ともにリーダーになりたがらない。経験が多い人に任せようと思うと男性が多くなると思う	
・どんどん女性が手を挙げてリーダーになってほしい	
・女性がリーダーになりやすい時代だと思います。現に、女性らしい社会になっていっている	
・そもそも、地域活動への女性の参加が少ないのでは？ 比率の問題では	
・仕事と家事と子育て・介護で忙しい中、時間を確保することが困難なため	
・女性が会長にしやすい環境にできていないから。その事について男性の意識が低いから	
・家庭単位で役割があてられた場合、男性が代表になる傾向がある	
・現代の地域活動では男女関係なく率先して会長等に名乗り出る人が殆ど居ない。会長の立候補者が居れば有難く任せるし、立候補者が居なければくじ引きで決める事もある。女性の会長が少ないのは、役職を決める話し合いの際に会長を断固拒否する女性が多いからだと思う	
・共働き世帯が多く、仕事と家庭の両立ですでに負担が大きいから	

上記のほか、「わからない」、「知らない」、「考えられない」とする回答が7件となっています。

【性別】

性別でみると、「女性がリーダーになりたがらないから」が男性の回答割合が高くなっている一方で、「女性がリーダーだと男性がついてこないから」及び「女性は家事・育児などで活動に専念できないから」が女性の回答割合が高くなっています。

性別	女性がリーダーになりたがらないから	女性が少ないから組織活動の経験が少なすぎる	指導力のある女性が少ないから	男性の慣習、意識の問題	男性がリーダーになりたがらないから	女性も家事・育児など活動に専念できないから	その他	無回答	回答者数
男性	73	17	16	48	11	42	16	8	165
	44.2%	10.3%	9.7%	29.1%	6.7%	25.5%	9.7%	4.8%	
女性	59	20	25	57	43	76	11	6	195
	30.3%	10.3%	12.8%	29.2%	22.1%	39.0%	5.6%	3.1%	
その他	1	0	0	0	0	0	0	0	1
	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	

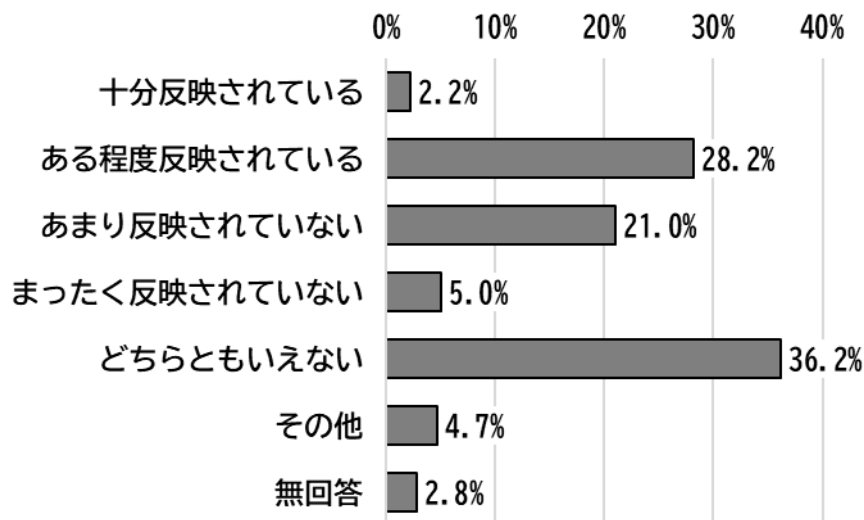
【年代別】

年代別でみると、「男性がリーダーになるのが慣習、しきたりだから」では、30 歳代及び 50 歳代の回答割合がやや下がるものの、概ね年代が下がるにつれ回答割合が高くなっています。また、「女性は家事・育児などで活動に専念できないから」では、子育て世代にあたる 30 歳代の回答割合が高くなっています。

年代	り女性 たが ら ない ダ ー か ら な い	験女性 が 少 な い 組 織 か ら 活 動 の 経	少指 導 力 か ら あ る 女 性 が	り男 性 が ら 慣 習 、 し き に た な	か男 性 が ら つ い て ダ ー こ な い	など女 性 が 活 動 に 事 専 ・ 育 児 き な	そ の 他	無 回 答	回 答 者 数
19歳以下	2	1	2	4	1	3	1	0	9
	22.2%	11.1%	22.2%	44.4%	11.1%	33.3%	11.1%	0.0%	
20歳～29歳	20	3	4	17	8	10	3	0	47
	42.6%	6.4%	8.5%	36.2%	17.0%	21.3%	6.4%	0.0%	
30歳～39歳	23	8	4	18	6	29	5	3	63
	36.5%	12.7%	6.3%	28.6%	9.5%	46.0%	7.9%	4.8%	
40歳～49歳	27	4	5	23	15	22	9	2	74
	36.5%	5.4%	6.8%	31.1%	20.3%	29.7%	12.2%	2.7%	
50歳～59歳	31	8	15	16	11	23	3	3	78
	39.7%	10.3%	19.2%	20.5%	14.1%	29.5%	3.8%	3.8%	
60歳～69歳	21	6	5	16	8	20	3	4	53
	39.6%	11.3%	9.4%	30.2%	15.1%	37.7%	5.7%	7.5%	
70歳以上	9	7	6	10	4	11	3	2	36
	25.0%	19.4%	16.7%	27.8%	11.1%	30.6%	8.3%	5.6%	

問 18 あなたは、地方自治体（県や町）などの施策について、女性の意見や考え方がどの程度反映されていると思いますか。（回答は、1つ）

地方自治体における施策への女性の考え方の反映度合いについて、「十分反映されている」と「ある程度反映されている」を合わせた『反映されている（以下同様）』の回答は、30.4%である一方で、「あまり反映されていない」と「まったく反映されていない」を合わせた『反映されていない（以下同様）』の回答は、26.0%となっています。



項目	人数（人）	比率（%）
十分反映されている	8	2.2
ある程度反映されている	102	28.2
あまり反映されていない	76	21.0
まったく反映されていない	18	5.0
どちらともいえない	131	36.2
その他	17	4.7
無回答	10	2.8
合計	362	100.0

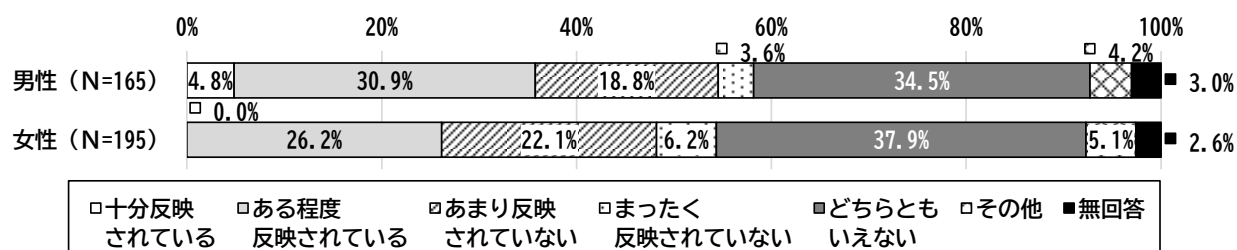
【その他の記述】

・女性の意見と言う質問自体が差別のように聞こえる	
・女性が言ったことと、男性が言ったことと、自治会で取り上げられているのかわからない	
・女性の意見を求められることがない	
・去年の夏にこの地域に来たばかりなのでよくわからない	
・施策がわからない	・知りたくもない

上記の記述のほか、「わからない」、「知らない」とする回答が9件となっています。

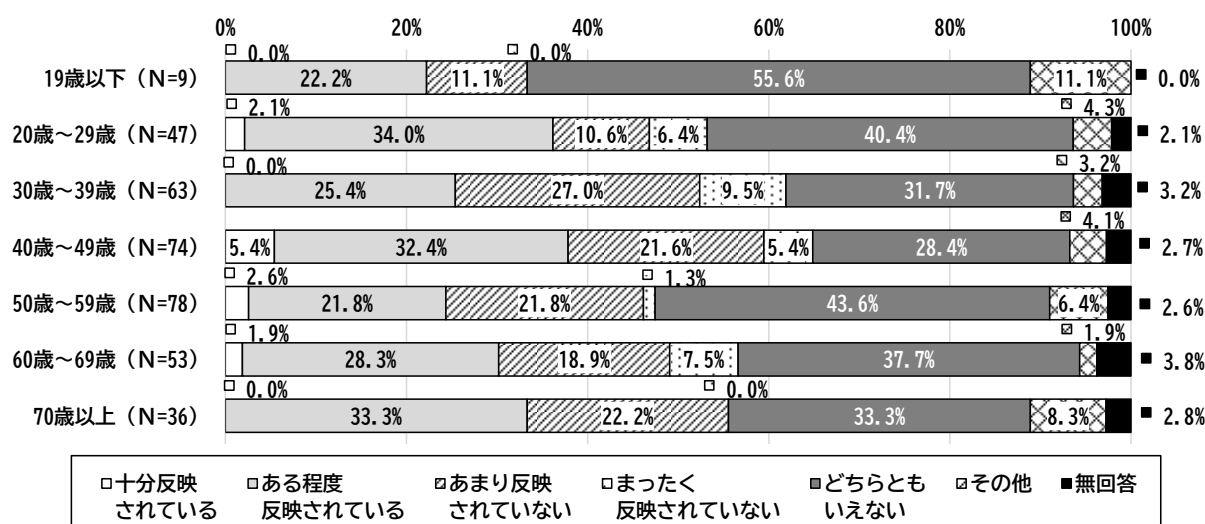
【性別】

性別でみると、『反映されている』と回答する男性は、女性よりも高い割合にあります。なお、「十分反映されている」と回答する女性はおらず、『反映されていない』と回答する女性は、男性よりも高い割合にあります。



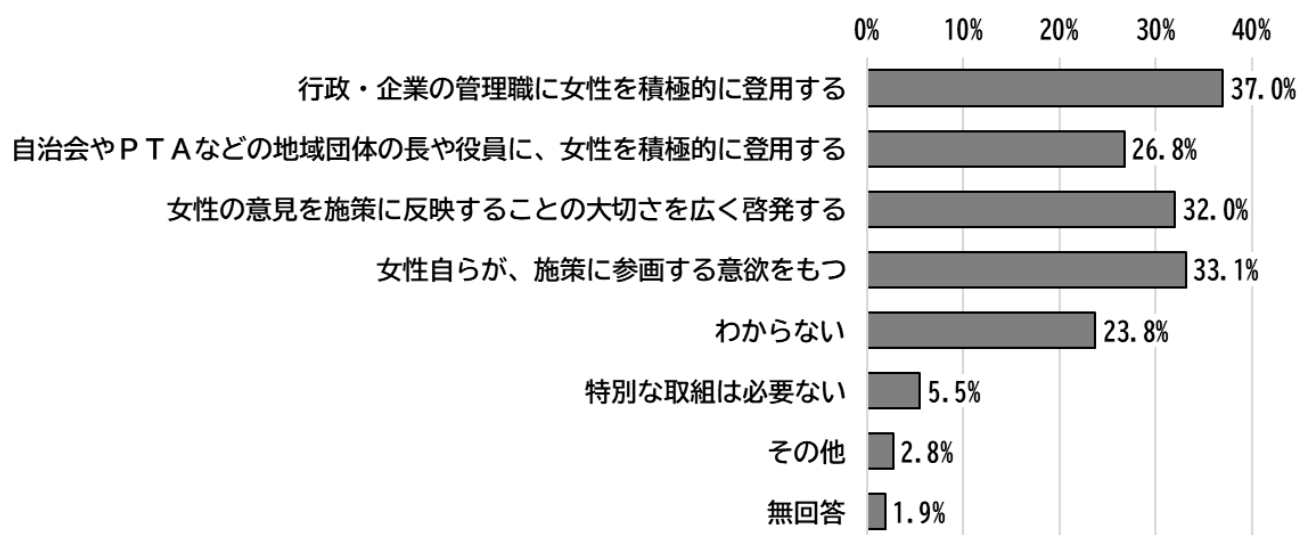
【年代別】

年代別でみると、30歳代において『反映されている』よりも『反映されていない』と回答する割合が高くなっています。



問 19 あなたは、地方自治体（県や町）などの施策に女性の意見を反映するためには、どのようなことが必要だと思いますか。（回答は、3つまで）

地方自治体（県や町）などの施策に女性の意見を反映するために必要なことは、「行政・企業の管理職に女性を積極的に登用する」が 37.0%と最も高く、次いで「女性自らが、施策に参画する意欲をもつ」が 33.1%、「女性の意見を施策に反映することの大切さを広く啓発する」が 32.0%となっています。



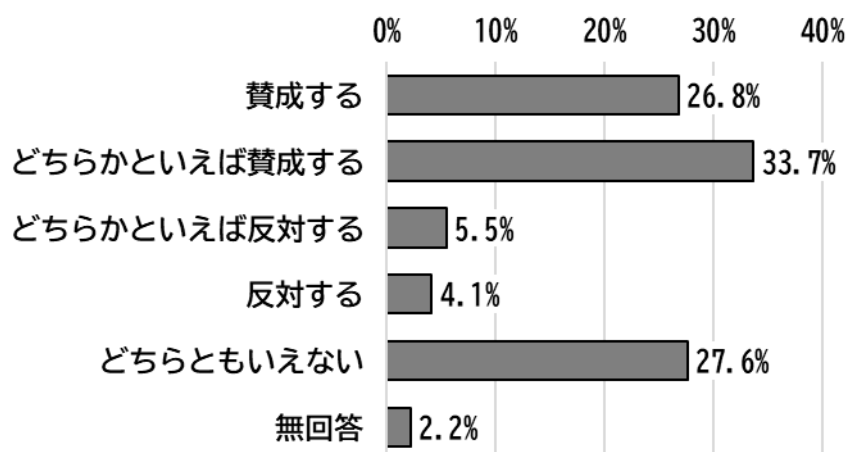
項目	人数（人）	比率（%）
行政・企業の管理職に女性を積極的に登用する	134	37.0
自治会やPTAなどの地域団体の長や役員に、女性を積極的に登用する	97	26.8
女性の意見を施策に反映することの大切さを広く啓発する	116	32.0
女性自らが、施策に参画する意欲をもつ	120	33.1
わからない	86	23.8
特別な取組は必要ない	20	5.5
その他	10	2.8
無回答	7	1.9
回答者数	362	

【その他の記述】

・施策へ女性の意見を取り入れるための質問であれば、施策等に興味関心のない大部分の住民が日々抱いているニーズを地方自治体側から把握しに行く活動が必要だと思う。把握したニーズを施策へ反映させる際に女性視点の見方考え方が必要になるため、地方自治体に女性の管理職が必要になると思う	
・テレビ等を見ている、男性が威圧的に物を言ったりして、女性の言っている事に対して聞く耳を持っていないように感じる、女性が言っている事に対してもちゃんと耳を傾け、全部聞いた上で威圧的ではなく冷静に意見を言ったり、提案をしたりすれば女性も自分の考え等を言い易くなるのではないのでしょうか？	
・意見をそのまま反映させればいい。歪曲して捉えすぎ	
・法の基の平等とは、行政を行う人が充分に考える	
・意思決定層の高齢男性が女性の意見を真剣に聞く	
・3の女性の意見を～といっていることが、すでに男女平等ではないと思います	
・女性だけの会議をし、女性の意見を出し、提出する	
・女性の発言に耳を傾ける意識	・特に何もない

問 20 「男女の不平等を是正するため、女性が進出していない分野で一時的に女性の優先枠を設けるなどして男女の実質的な機会の均等を確保すべき」という考え方（ポジティブ・アクション）があります。あなたはこの考え方についてどのように感じますか。（回答は、1つ）

ポジティブ・アクションについて、「賛成する」と「どちらかといえば賛成する」を合わせた『賛成する』の回答は60.5%である一方で、「どちらかといえば反対する」と「反対する」を合わせた『反対する』の回答は9.6%となっています。

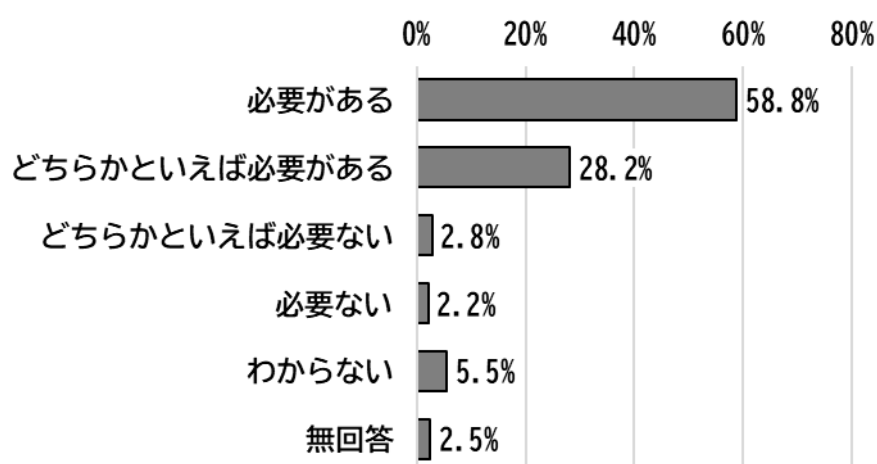


項目	人数（人）	比率（%）
賛成する	97	26.8
どちらかといえば賛成する	122	33.7
どちらかといえば反対する	20	5.5
反対する	15	4.1
どちらともいえない	100	27.6
無回答	8	2.2
合計	362	100.0

7. 防災について

問 21 あなたは、防災・災害復興対策に、男女の性別に配慮した対応がとられる必要があると思いますか。(回答は、1つ)

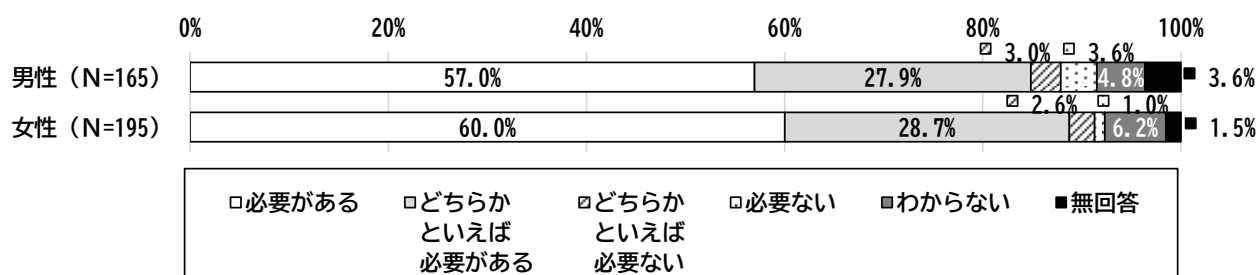
防災・災害復興対策への性別に配慮した対応の必要有無では、「必要がある」と「どちらかといえば必要がある」を合わせた『必要がある（以下同様）』の回答は87.0%である一方で、「どちらかといえば必要ない」と「必要ない」を合わせた『必要ない（以下同様）』の回答は5.0%となっています。



項目	人数（人）	比率（%）
必要がある	213	58.8
どちらかといえば必要がある	102	28.2
どちらかといえば必要ない	10	2.8
必要ない	8	2.2
わからない	20	5.5
無回答	9	2.5
合計	362	100.0

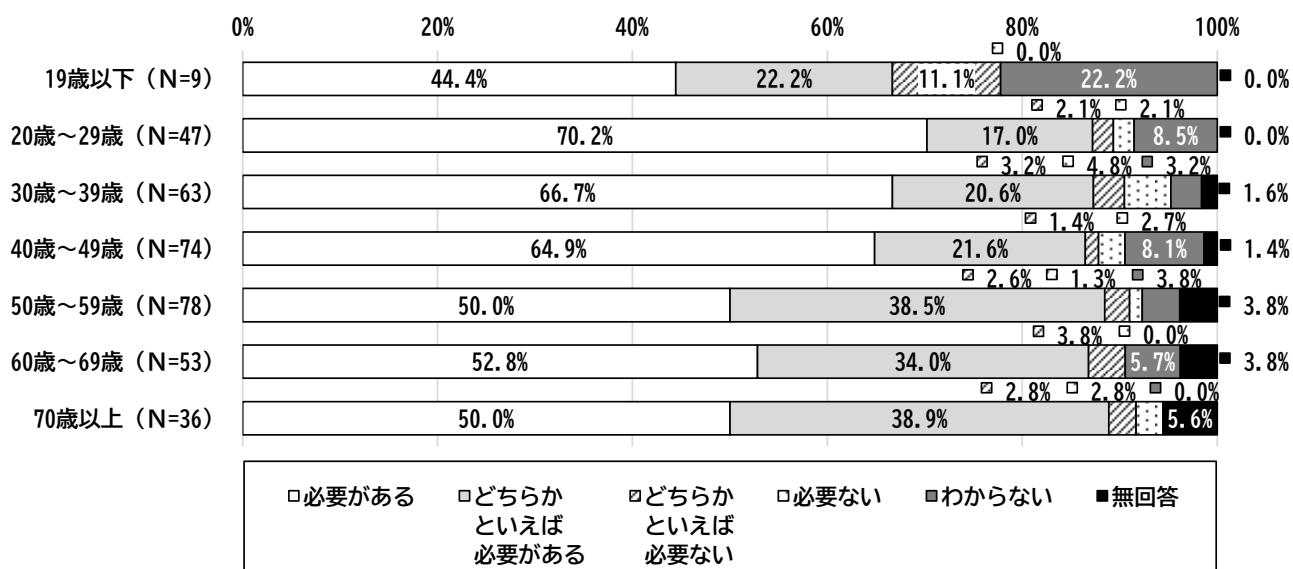
【性別】

性別でみると、男性より女性の方が『必要がある』とする回答がやや高くなっています。



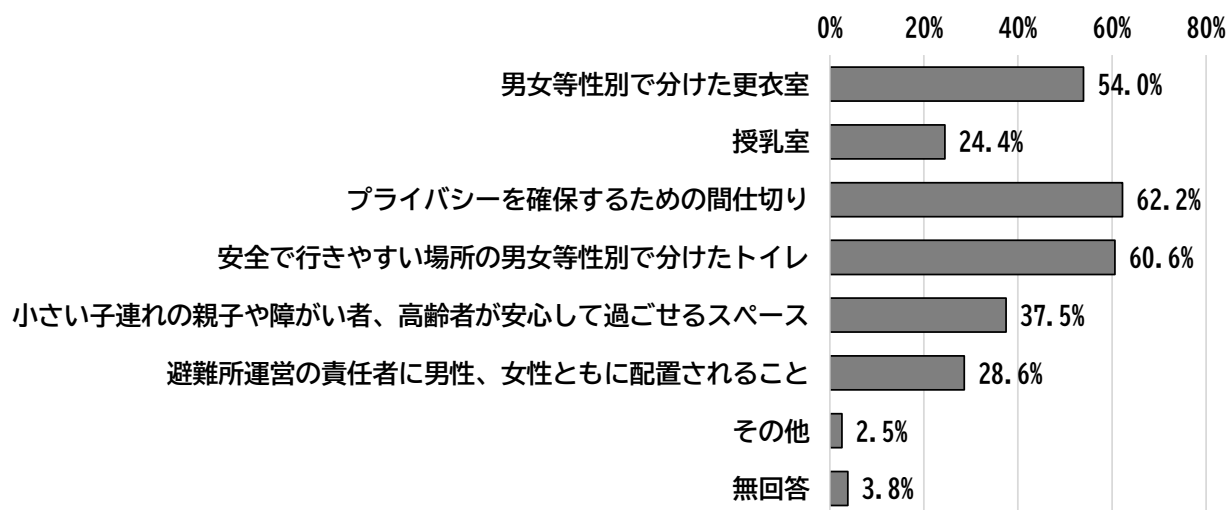
【年代別】

年代別でみると、全ての年代において「必要がある」とする回答割合が高く、特に20歳代～40歳代では6割以上を占めています。



問 21-1 問 21 で「必要がある」または「どちらかといえば必要がある」と回答した方にうかがいます。防災・災害復興時、避難所にはどのようなことが大切だと思いますか。（回答は、3つまで）

防災・災害復興時、避難所にはどのようなことが大切だと思うかでは、「プライバシーを確保するための間仕切り」が 62.2%と最も高く、次いで「安全で行きやすい場所の男女等性別で分けたトイレ」が 60.6%、「男女等性別で分けた更衣室」が 54.0%となっています。



項目	人数（人）	比率（%）
男女等性別で分けた更衣室	170	54.0
授乳室	77	24.4
プライバシーを確保するための間仕切り	196	62.2
安全で行きやすい場所の男女等性別で分けたトイレ	191	60.6
小さい子連れの親子や障がい者、高齢者が安心して過ごせるスペース	118	37.5
避難所運営の責任者に男性、女性ともに配置されること	90	28.6
その他	8	2.5
無回答	12	3.8
回答者数	315	

【その他の記述】

◆「すべて必要である」とする回答 計4件

・1～6 は、もちろんのことだと思っている。	・すべて大切だと感じる
・必要があるとかではなく、当たり前のことではないかと思います	
・何故回答が3つまでなのか、全て大切だと思うのだが	

◆その他の回答 計4件

・性差別、尊重されるべき。そこに平等が
・女性は生理があるので、その辺の配慮が欲しい
・そもそも部屋も分け、その中にトイレも設置する
・生理用品の確保など、災害時の避難所で問題なるとよく見聞きするので配慮してほしい

【性別】

性別でみると、「小さい子連れの親子や障がい者、高齢者が安心して過ごせるスペース」と回答する女性の割合は、男性より 18.4 ポイント高くなっています。

また、「授乳室」と回答する男性の割合は、女性より 7.8 ポイント高くなっています。

性別	室男女 等性別 で分けた 更衣	授乳室	たプ めの ライ 間バ 仕シ ーを 確保 する	レ男安 女全 等で 性行 きで 分す けた 場ト 所の	てが小 過いさ ご者、 せ子連 る高 ス連 ペれの ースが 親子 や安 し障	る性避 こと、 女難 所運 営の 責配 任者 に男	その他	無回答	回答者数
男性	83	45	89	86	43	43	2	0	140
	59.3%	32.1%	63.6%	61.4%	30.7%	30.7%	1.4%	0.0%	
女性	99	42	116	116	85	51	8	0	173
	57.2%	24.3%	67.1%	67.1%	49.1%	29.5%	4.6%	0.0%	
その他	0	0	0	0	0	1	0	0	1
	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	

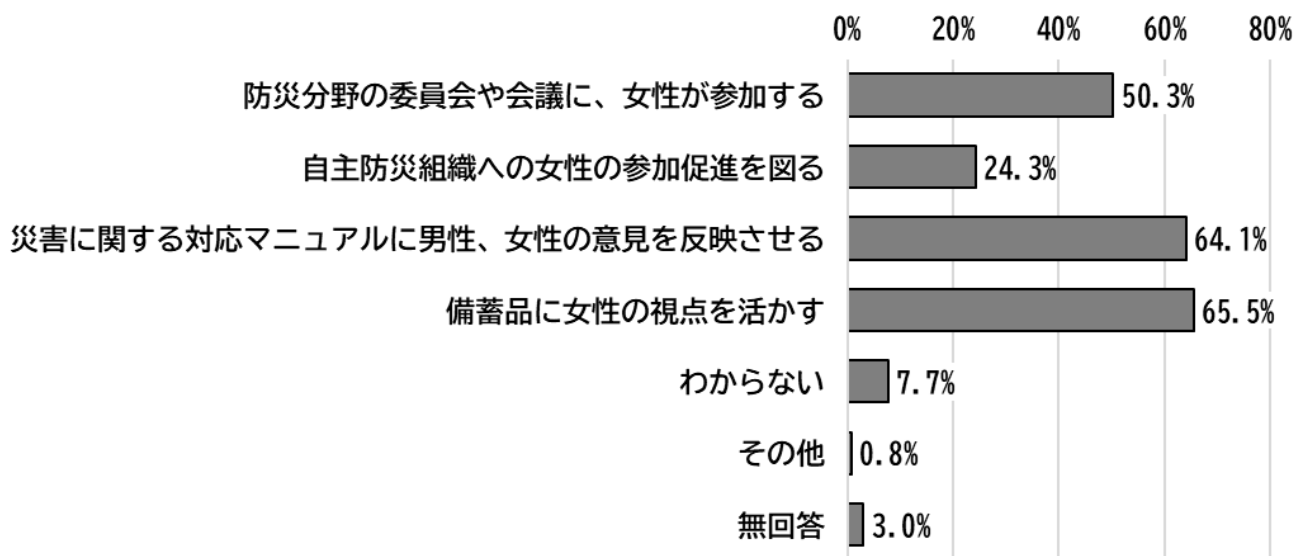
【年代別】

年代別でみると、「授乳室」では、子育て世代にあたる 30 歳代の回答割合が高くなっています。また、「小さい子連れの親子や障がい者、高齢者が安心して過ごせるスペース」では、概ね年代が高くなるとともに回答割合が高くなっています。

年代	室男女 等性別 で分けた 更衣	授乳室	たプ めの ライ 間バ 仕シ ーを 確保 する	レ男安 女全 等で 性行 きで 分す けた 場ト 所の	てが小 過いさ ご者、 せ子連 る高 ス連 ペれの ースが 親子 や安 し障	る性避 こと、 女難 所運 営の 責配 任者 に男	その他	無回答	回答者数
19歳以下	4	2	4	5	1	2	0	0	6
	66.7%	33.3%	66.7%	83.3%	16.7%	33.3%	0.0%	0.0%	
20歳～29歳	23	12	25	26	12	12	2	0	41
	56.1%	29.3%	61.0%	63.4%	29.3%	29.3%	4.9%	0.0%	
30歳～39歳	36	23	32	37	22	13	2	0	55
	65.5%	41.8%	58.2%	67.3%	40.0%	23.6%	3.6%	0.0%	
40歳～49歳	42	20	46	37	21	20	3	0	64
	65.6%	31.3%	71.9%	57.8%	32.8%	31.3%	4.7%	0.0%	
50歳～59歳	39	17	44	46	32	17	0	0	69
	56.5%	24.6%	63.8%	66.7%	46.4%	24.6%	0.0%	0.0%	
60歳～69歳	24	7	33	34	23	15	2	0	46
	52.2%	15.2%	71.7%	73.9%	50.0%	32.6%	4.3%	0.0%	
70歳以上	13	6	20	16	17	16	1	0	32
	40.6%	18.8%	62.5%	50.0%	53.1%	50.0%	3.1%	0.0%	

問 22 あなたは、災害に備える体制整備にあたり、男女共同参画の視点を活かすためにはどのようなことが必要だと思いますか。（回答は、3つまで）

男女共同参画の視点を活かした災害対策に必要なことでは、「備蓄品に女性の視点を活かす」が 65.5%と最も高く、次いで「災害に関する対応マニュアルに男性、女性の意見を反映させる」が 64.1%、「防災分野の委員会や会議に、女性が参加する」が 50.3%となっています。



項目	人数（人）	比率（%）
防災分野の委員会や会議に、女性が参加する	182	50.3
自主防災組織への女性の参加促進を図る	88	24.3
災害に関する対応マニュアルに男性、女性の意見を反映させる	232	64.1
備蓄品に女性の視点を活かす	237	65.5
わからない	28	7.7
その他	3	0.8
無回答	11	3.0
回答者数	362	

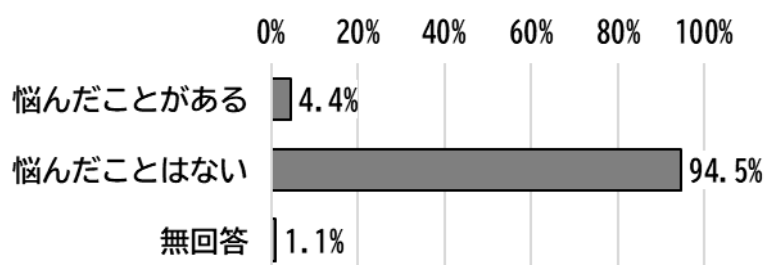
【その他の記述】

- ・選択肢に女性女性とあるのが、意中に差別が
- ・根本的な性教育を小中学生からしっかりすること

8. 性の多様性について

問 23 あなたは、自分自身の性（性的指向、性自認等）について悩んだ経験はありますか。

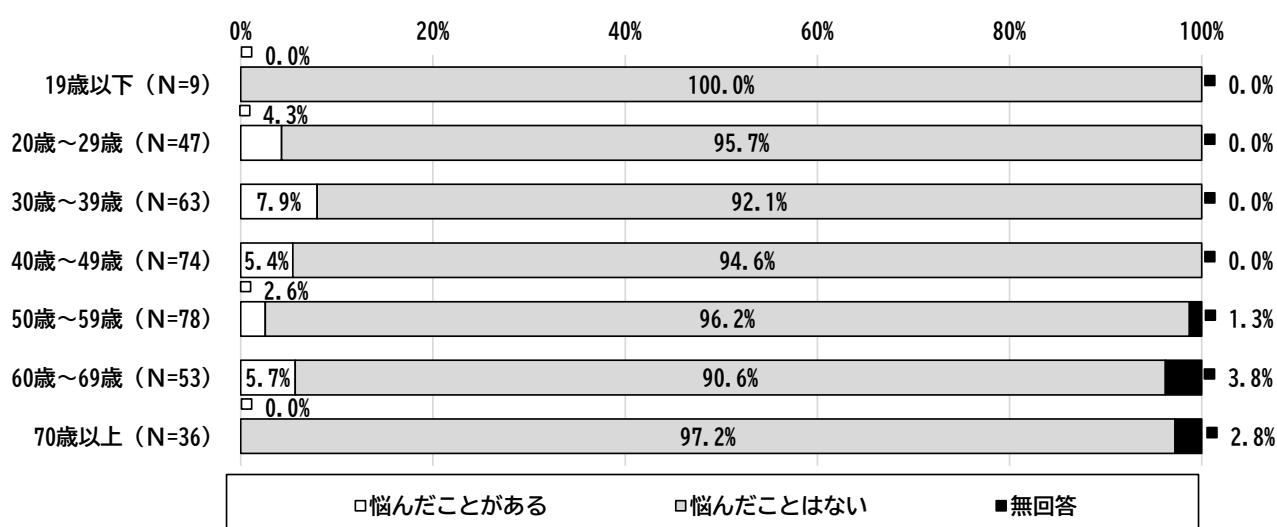
自分自身の性について悩んだ経験では、「悩んだことはない」が 94.5%、「悩んだことがある」が 4.4%となっています。



項目	人数 (人)	比率 (%)
悩んだことがある	16	4.4
悩んだことはない	342	94.5
無回答	4	1.1
合計	362	100.0

【年代別】

年代別でみると、「悩んだことがある」と回答した方が、広い年代層で一定数いることがわかります。



問 23-1 問 23 で「悩んだことがある」と回答された方にうかがいます。相談した人や場所を教えてください。（回答は、いくつでも）

相談した人や場所では、「性的マイノリティでない友人・知人」が 16 件中 2 件と最も多く、次いで「医師・カウンセラー」、「職場の上司・同僚」、「家族・親族」がそれぞれ 1 件となっています。

一方、「誰にも相談しなかった」が 16 件中 13 件となっています。

項目	人数（人）	比率（％）
役場などの公的な相談機関	0	0.0
民間の相談機関	0	0.0
医師・カウンセラー	1	6.3
学校の先生・スクールカウンセラー	0	0.0
職場の上司・同僚	1	6.3
家族・親族	1	6.3
性的マイノリティの友人・知人	0	0.0
性的マイノリティでない友人・知人	2	12.5
誰にも相談しなかった	13	81.3
その他	1	6.3
無回答	0	0.0
回答者数	16	

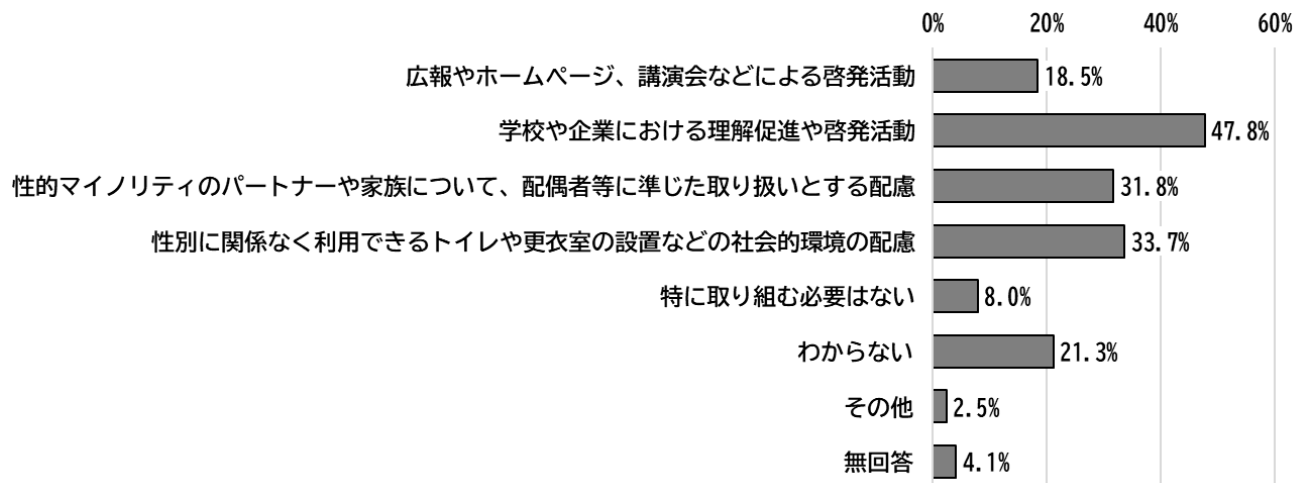
※回答者数が少ないため表のみ掲載

【その他の記述】

該当する回答者に記述がありませんでした。

問 24 あなたは、性的マイノリティ（L G B T Q）の方々への支援として、どのような取組が必要だと思いますか。（回答は、いくつでも）

性的マイノリティ（L G B T Q）の方々への支援では、「学校や企業における理解促進や啓発活動」が 47.8%と最も高く、次いで「性別に関係なく利用できるトイレや更衣室の設置などの社会的環境の配慮」が 33.7%、「性的マイノリティのパートナーや家族について、配偶者等に準じた取り扱いとする配慮」が 31.8%となっています。



項目	人数（人）	比率（%）
広報やホームページ、講演会などによる啓発活動	67	18.5
学校や企業における理解促進や啓発活動	173	47.8
性的マイノリティのパートナーや家族について、配偶者等に準じた取り扱いとする配慮	115	31.8
性別に関係なく利用できるトイレや更衣室の設置などの社会的環境の配慮	122	33.7
特に取り組む必要はない	29	8.0
わからない	77	21.3
その他	9	2.5
無回答	15	4.1
回答者数	362	

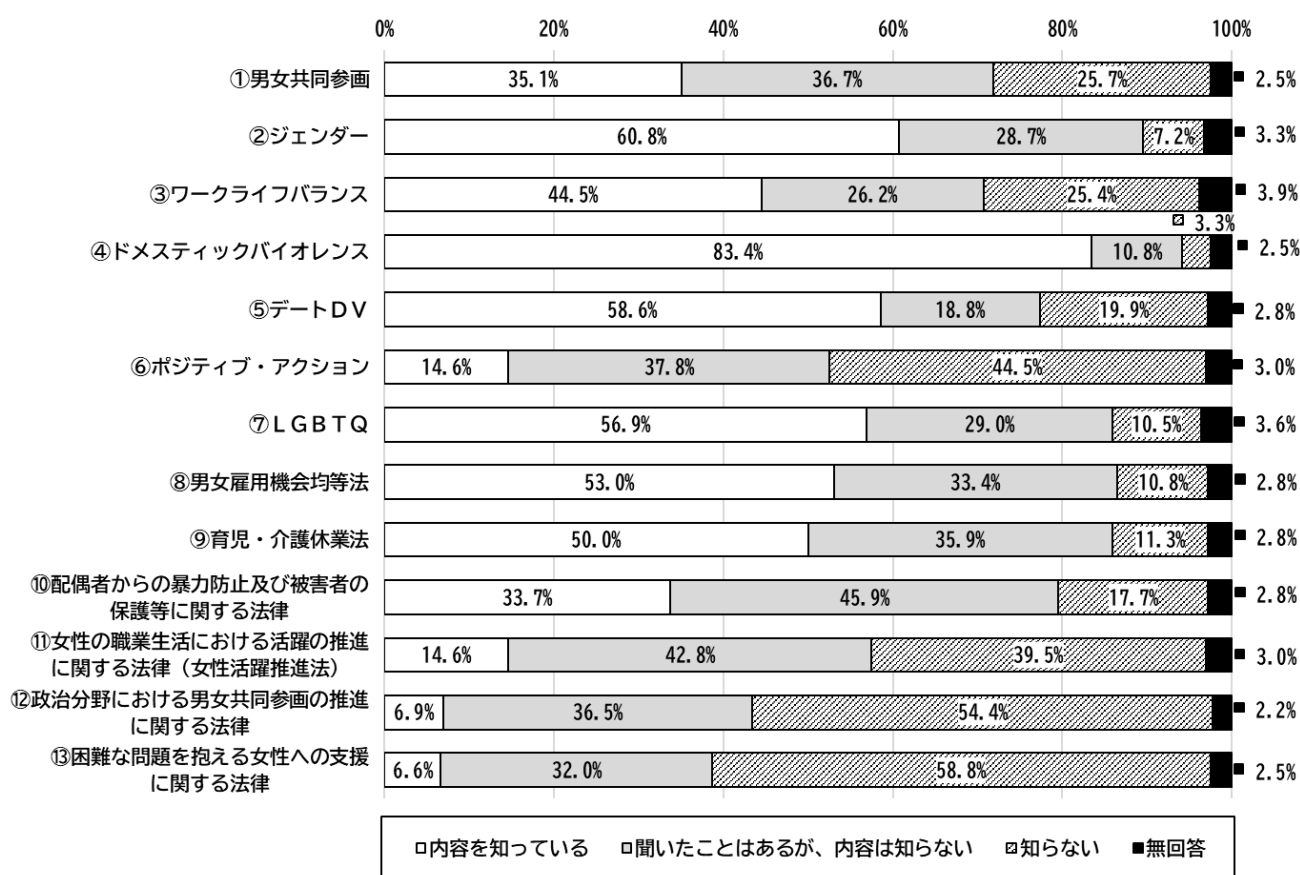
【その他の記述】

・正しい知識、情報の拡散	・女性の配慮に欠ける行為と感じる
・排斥せず、あるがままに受け止めること	
・正しい知識と理解が必要。興味本位はどうかと思う	
・支援は必要ないと思う。性別で損得があってはいけない	
・普通に話したりすること。特別なことではないと思う	
・マイノリティへの配慮は当然必要と感じる。ただ女性専用のトイレがなくなるなど、女性の立場が脅かされないのが大前提でお願いしたい	
・性的マイノリティに対しては、見せかけの取り組みだけになってしまわないか慎重に議論する必要があると思います	

9. 男女共同参画について

問 25 あなたは、次の言葉について、見たか聞いたか、聞いたことあるが内容は知らないか、知らないか、それ以外か。（回答は、それぞれ1つ）

各項目の認知度について、「内容を知っている」の回答では、「④ドメスティックバイオレンス」が83.4%と最も高く、次いで「②ジェンダー」が60.8%となっています。「聞いたことあるが、内容は知らない」の回答では、「⑩配偶者からの暴力防止及び被害者の保護等に関する法律」が45.9%と最も高く、次いで「⑪女性の職業生活における活躍の推進に関する法律」が42.8%となっています。「知らない」の回答では、「⑬困難な問題を抱える女性への支援に関する法律」が58.8%と最も高く、次いで「⑫政治分野における男女共同参画の推進に関する法律」が54.4%となっています。

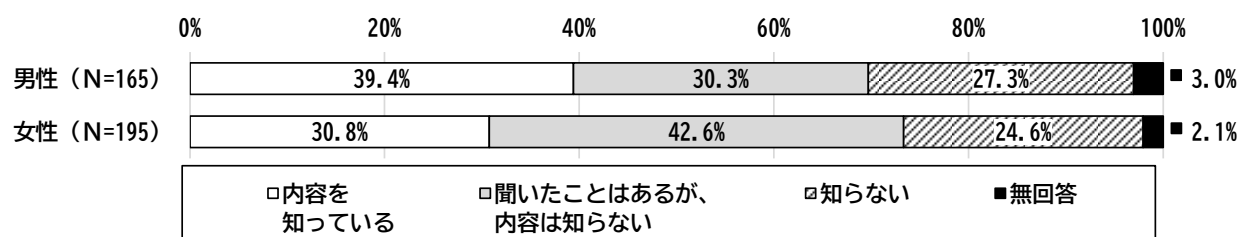


項目	内容を 知っている	聞いた ことは あるが、 内容は 知らない	知らない	無 回 答	合 計
①男女共同参画	127 35.1%	133 36.7%	93 25.7%	9 2.5%	362 100.0%
②ジェンダー（社会的性別）	220 60.8%	104 28.7%	26 7.2%	12 3.3%	362 100.0%
③ワークライフバランス （仕事と生活の調和）	161 44.5%	95 26.2%	92 25.4%	14 3.9%	362 100.0%
④ドメスティックバイオレンス （DV）	302 83.4%	39 10.8%	12 3.3%	9 2.5%	362 100.0%
⑤デートDV （交際相手からの暴力）	212 58.6%	68 18.8%	72 19.9%	10 2.8%	362 100.0%
⑥ポジティブ・アクション （積極的格差是正措置）	53 14.6%	137 37.8%	161 44.5%	11 3.0%	362 100.0%
⑦LGBTQ （性的マイノリティ）	206 56.9%	105 29.0%	38 10.5%	13 3.6%	362 100.0%
⑧男女雇用機会均等法	192 53.0%	121 33.4%	39 10.8%	10 2.8%	362 100.0%
⑨育児・介護休業法	181 50.0%	130 35.9%	41 11.3%	10 2.8%	362 100.0%
⑩配偶者からの暴力防止及び被害者の 保護等に関する法律（DV防止法）	122 33.7%	166 45.9%	64 17.7%	10 2.8%	362 100.0%
⑪女性の職業生活における活躍の推進に関する 法律（女性活躍推進法）	53 14.6%	155 42.8%	143 39.5%	11 3.0%	362 100.0%
⑫政治分野における男女共同参画の推進に 関する法律	25 6.9%	132 36.5%	197 54.4%	8 2.2%	362 100.0%
⑬困難な問題を抱える女性への支援に関する 法律	24 6.6%	116 32.0%	213 58.8%	9 2.5%	362 100.0%

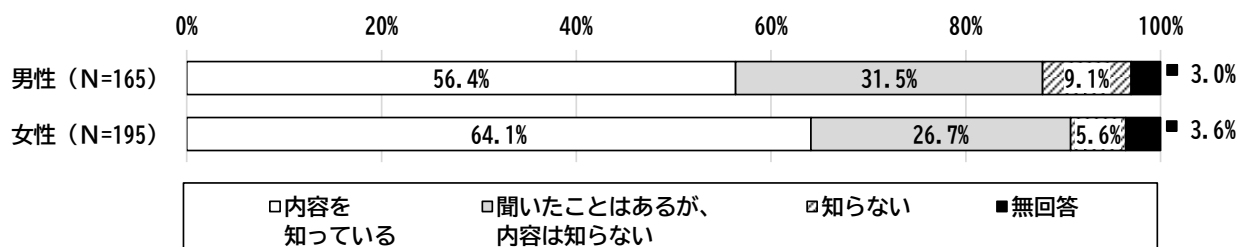
【性別】

性別でみると、女性より男性の方が「①男女共同参画」と回答する割合が 8.6 ポイント高くなっています。また、男性より女性の方が「②ジェンダー（社会的性別）」と回答する割合が 7.7 ポイント、「⑦LGBTQ（性的マイノリティ）」と回答する割合が 9.5 ポイント高くなっています。

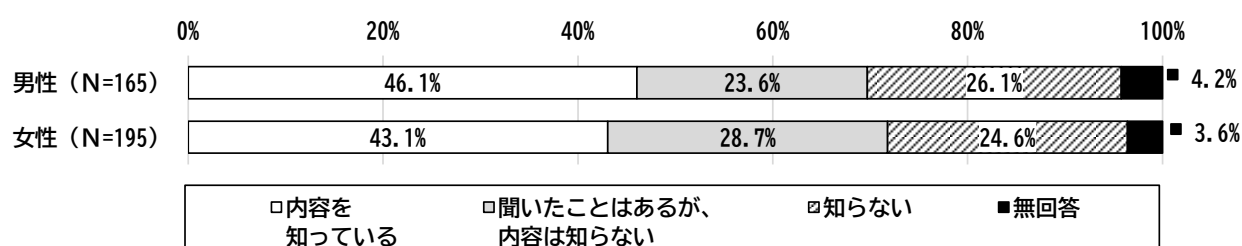
①男女共同参画



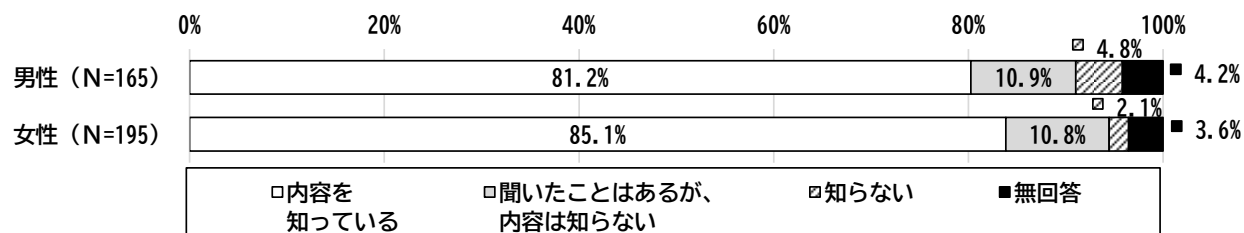
②ジェンダー（社会的性別）



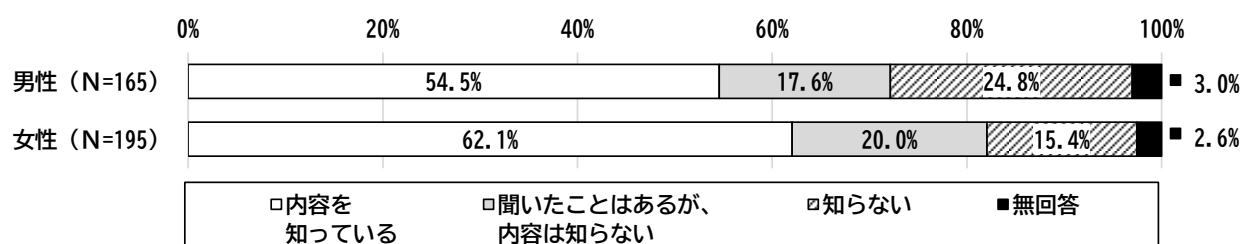
③ワークライフバランス（仕事と生活の調和）



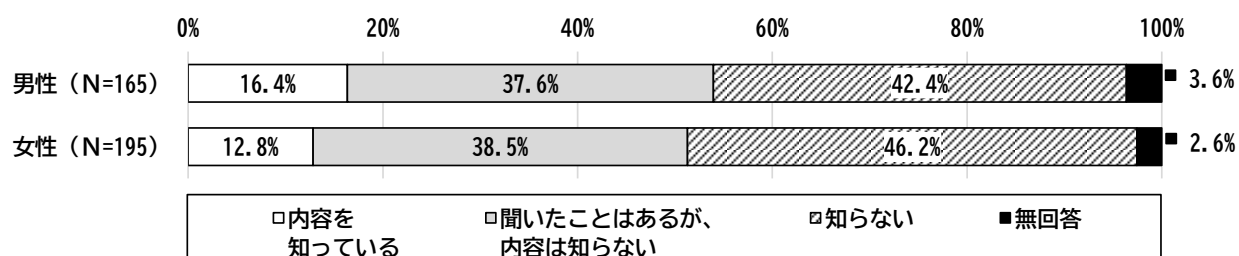
④ドメスティックバイオレンス（DV）



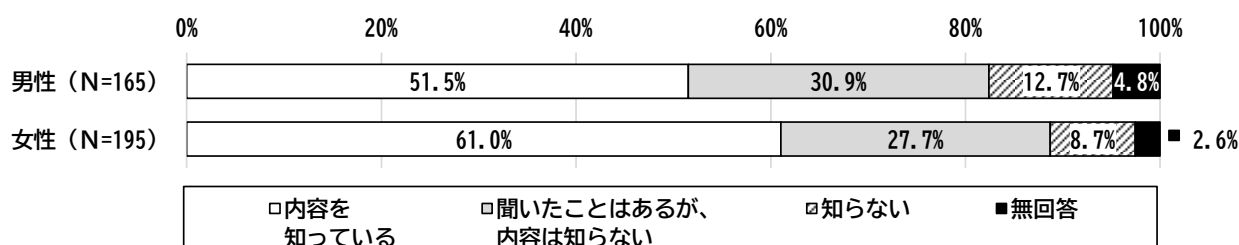
⑤デートDV（交際相手からの暴力）



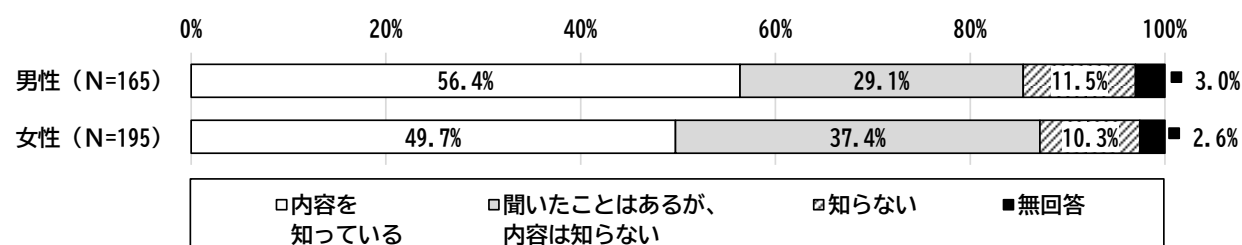
⑥ポジティブ・アクション（積極的格差是正措置）



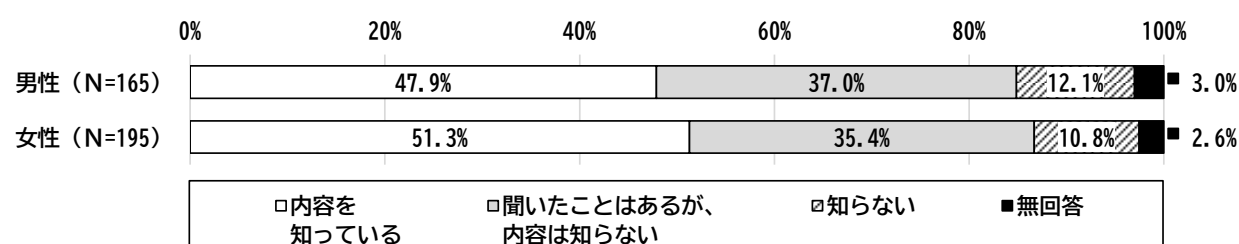
⑦LGBTQ（性的マイノリティ）



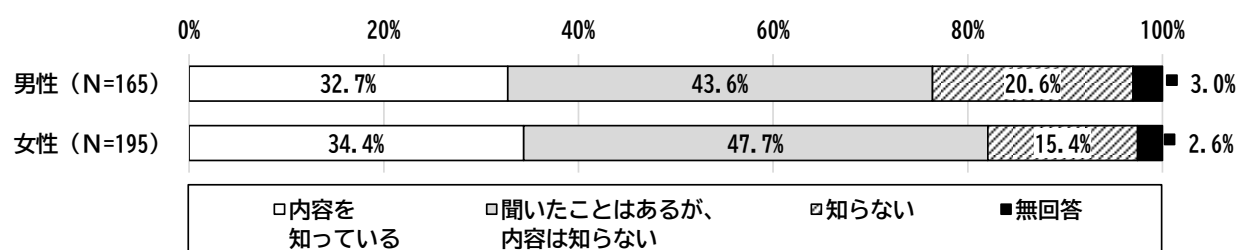
⑧男女雇用機会均等法



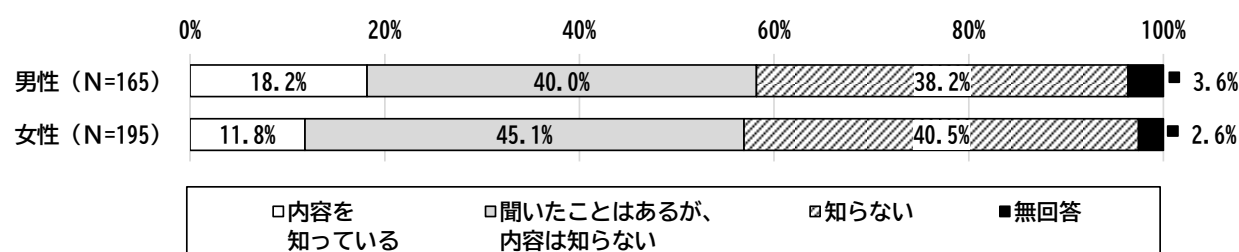
⑨育児・介護休業法



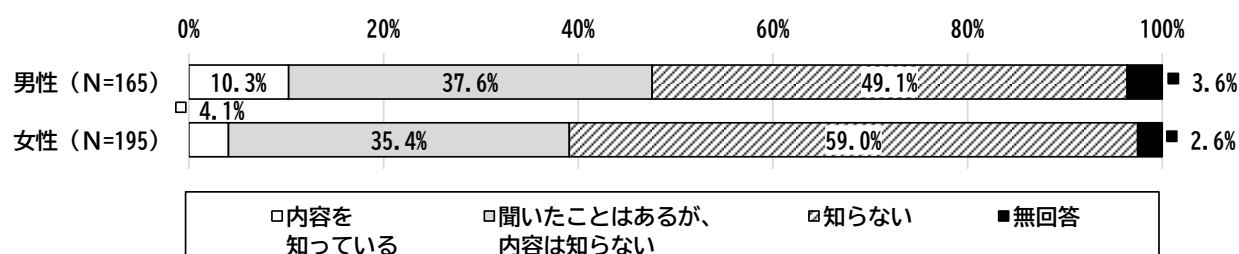
⑩配偶者からの暴力防止及び被害者の保護等に関する法律（DV防止法）



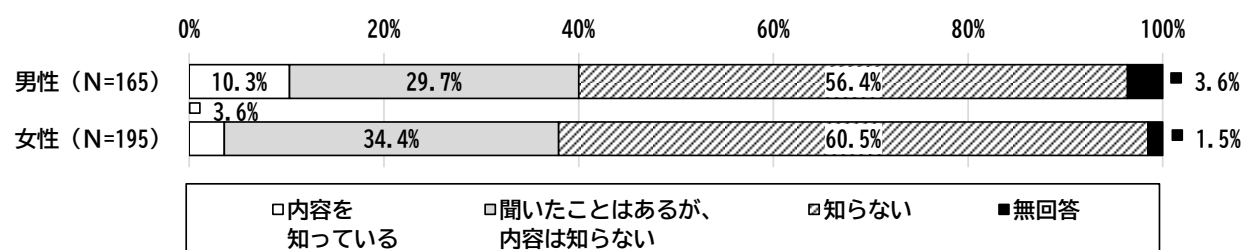
⑪女性の職業生活における活躍の推進に関する法律（女性活躍推進法）



⑫政治分野における男女共同参画の推進に関する法律



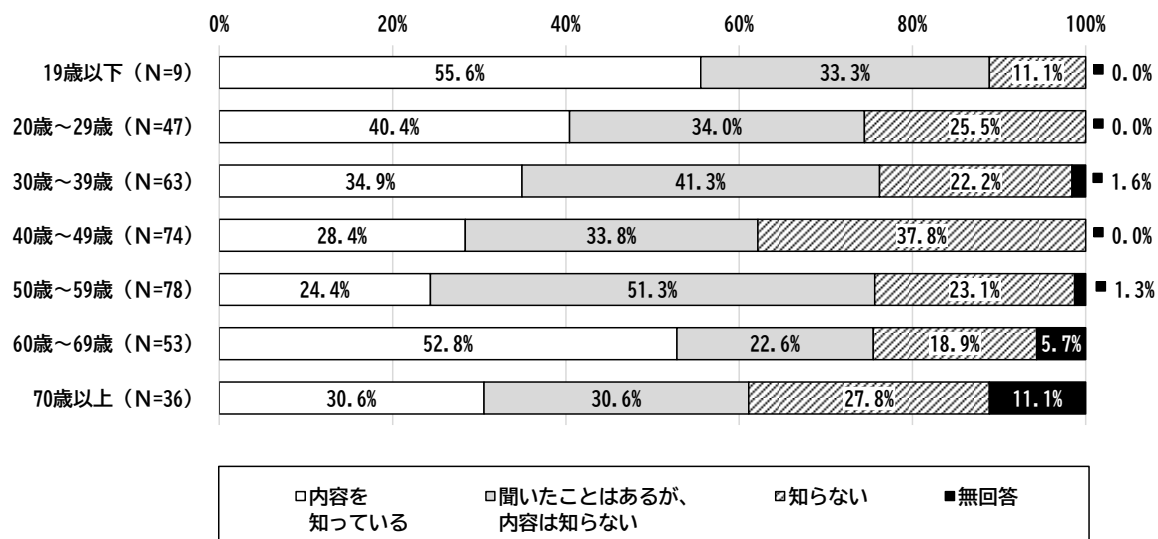
⑬困難な問題を抱える女性への支援に関する法律



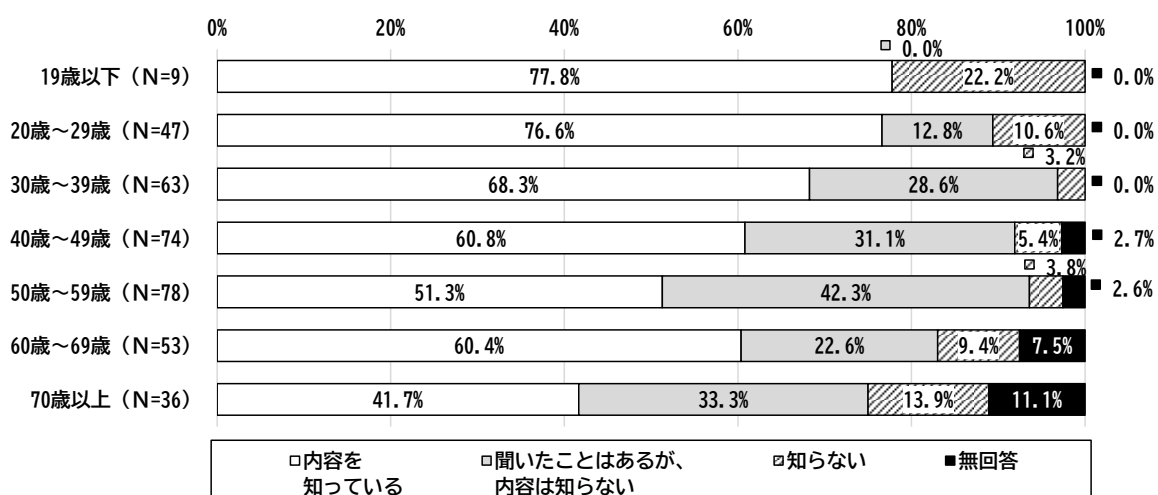
【年代別】

年代別でみると、①～⑦の単語の認知度を問う項目では、ほとんどの項目において年代が低いほど認知度が高い傾向となっています。また、⑧～⑬の法律の認知度を問う項目では、「女性の職業生活における活躍の推進に関する法律」、「政治分野における男女共同参画の推進に関する法律」、「困難な問題を抱える女性への支援に関する法律」は、年代に寄らず認知度が低い傾向にあります。

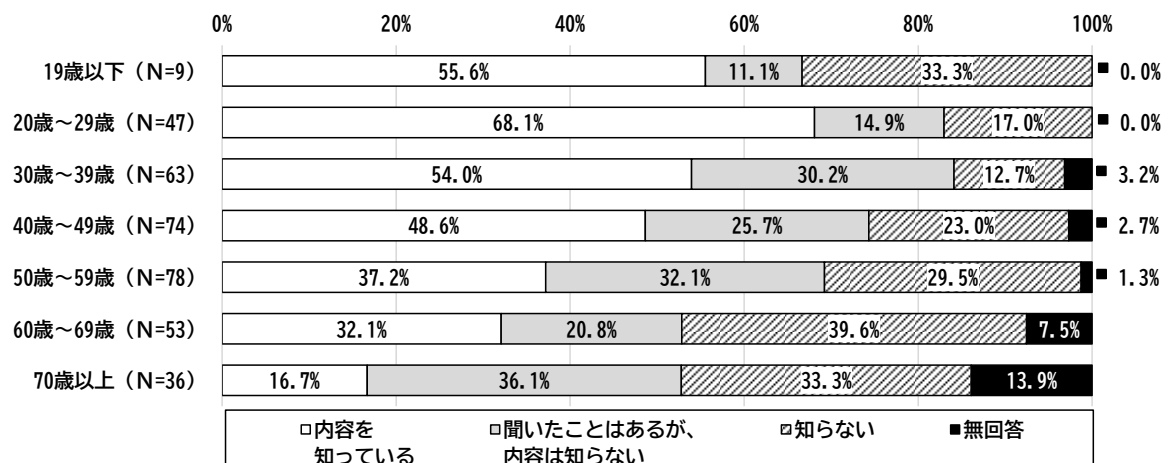
①男女共同参画



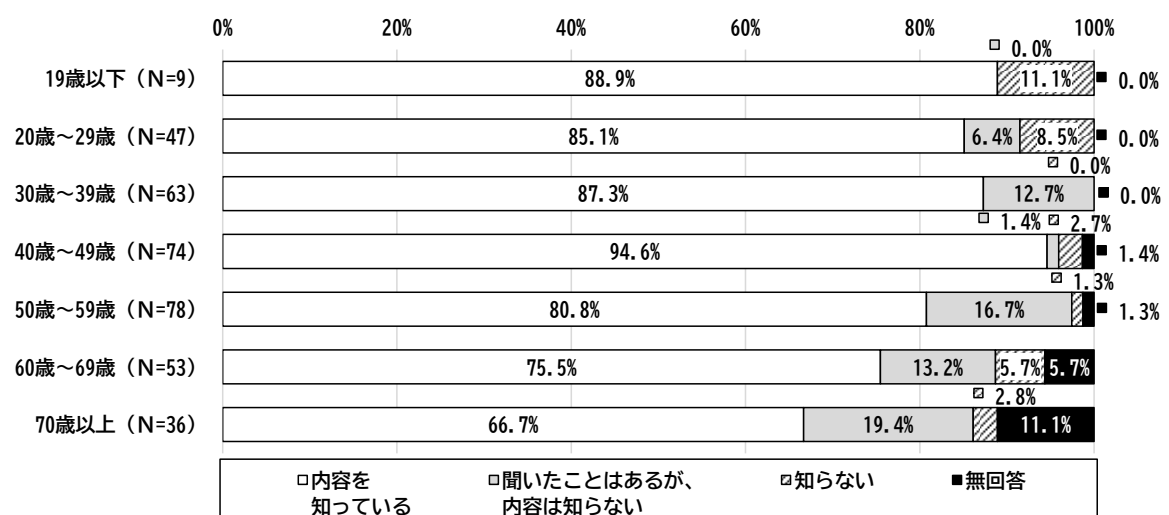
②ジェンダー（社会的性別）



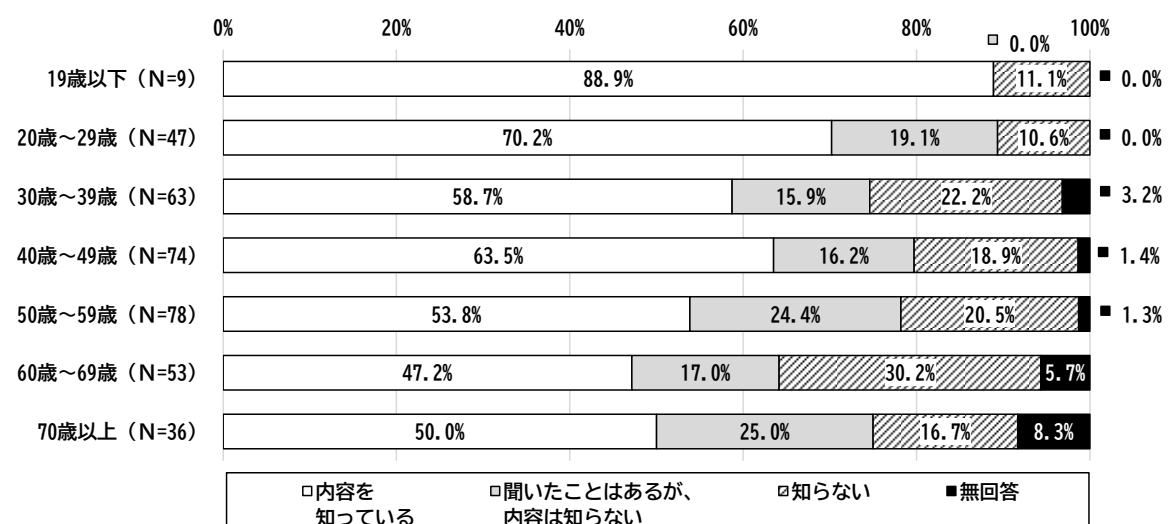
③ワークライフバランス（仕事と生活の調和）



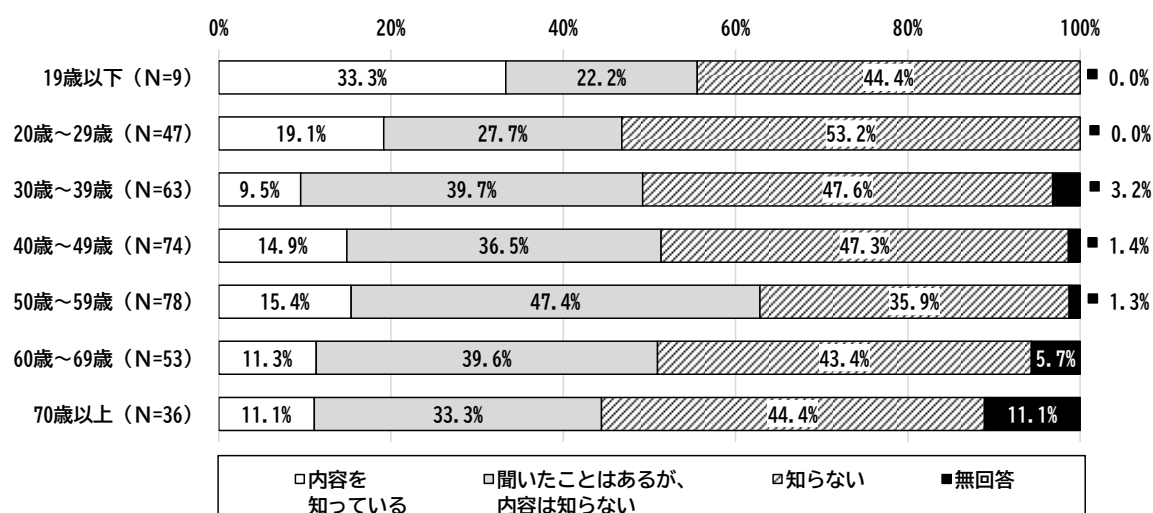
④ドメスティックバイオレンス（DV）



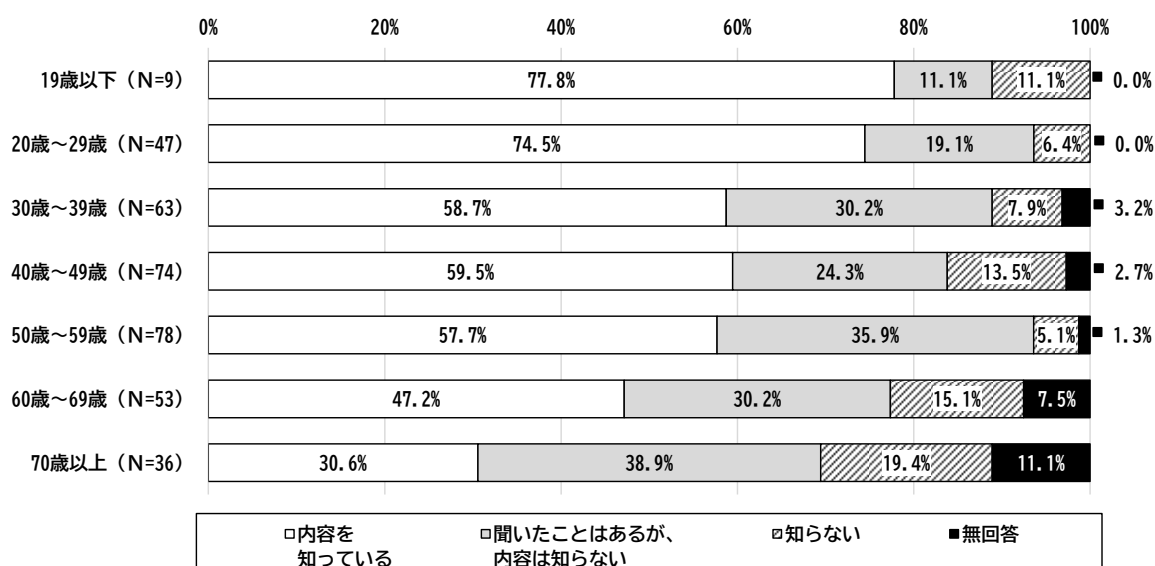
⑤デートDV（交際相手からの暴力）



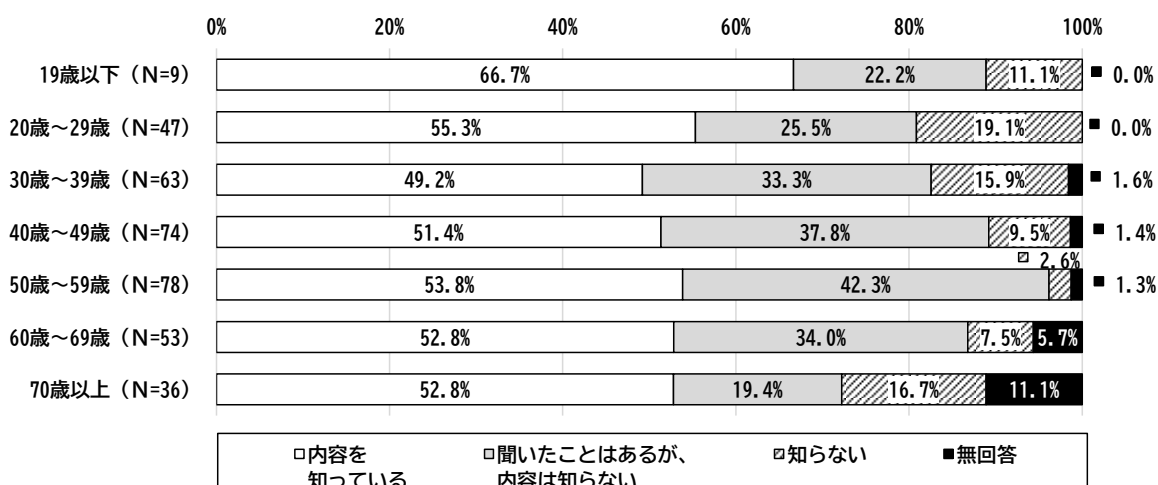
⑥ ポジティブ・アクション（積極的格差是正措置）



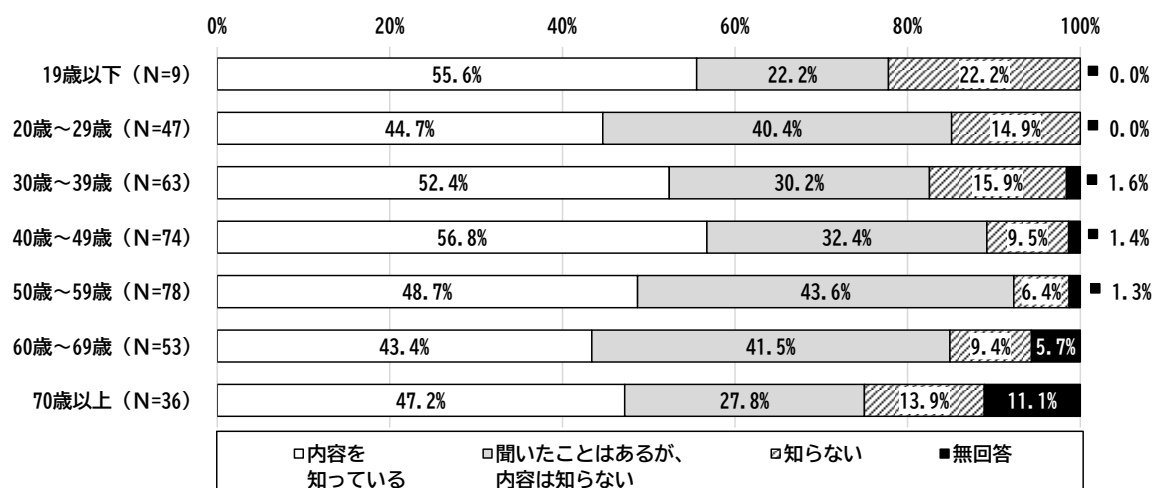
⑦ LGBTQ（性的マイノリティ）



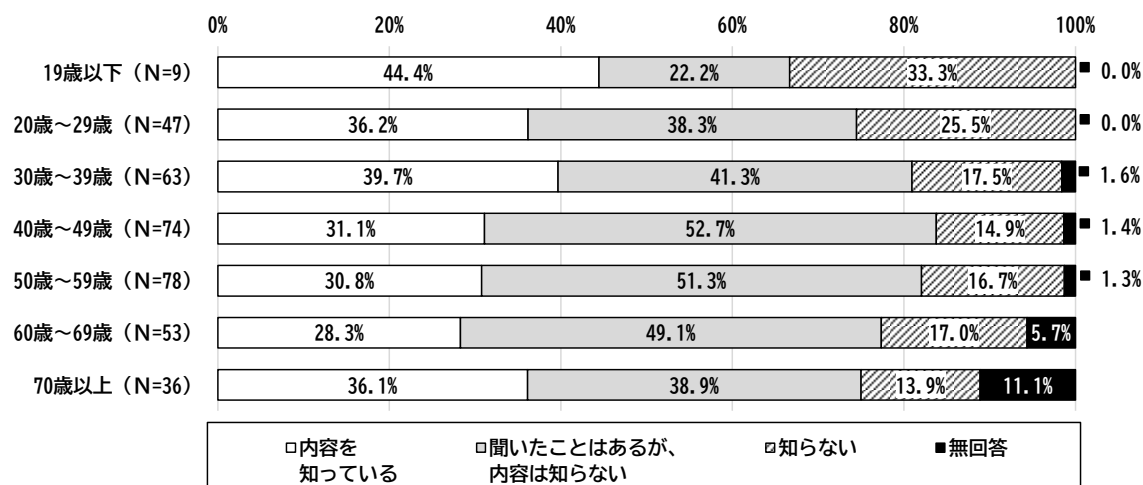
⑧ 男女雇用機会均等法



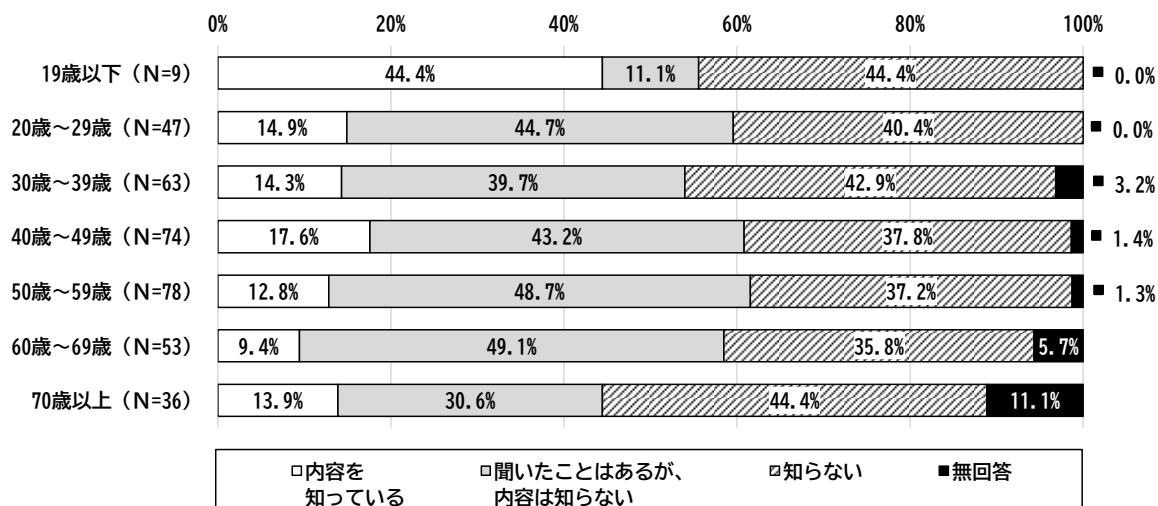
⑨育児・介護休業法



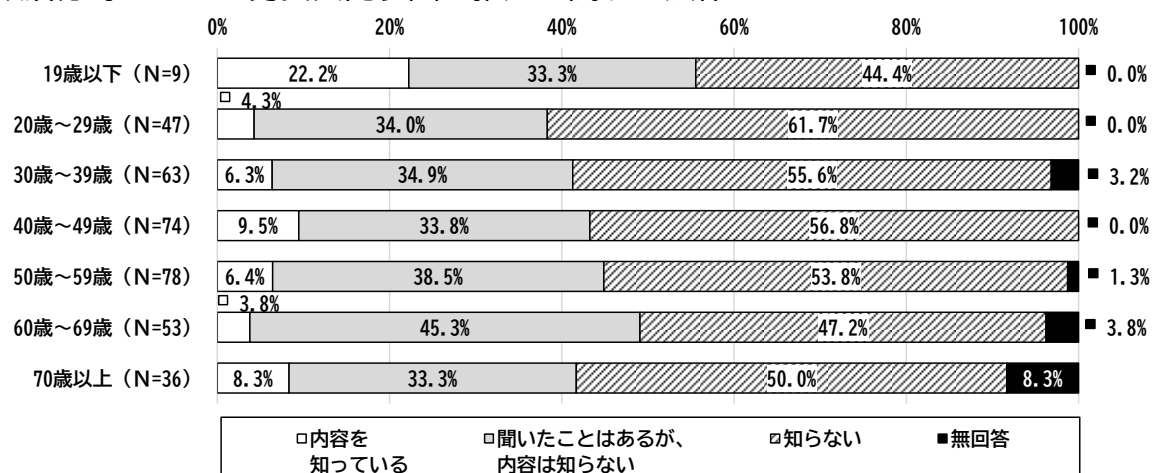
⑩配偶者からの暴力防止及び被害者の保護等に関する法律（DV防止法）



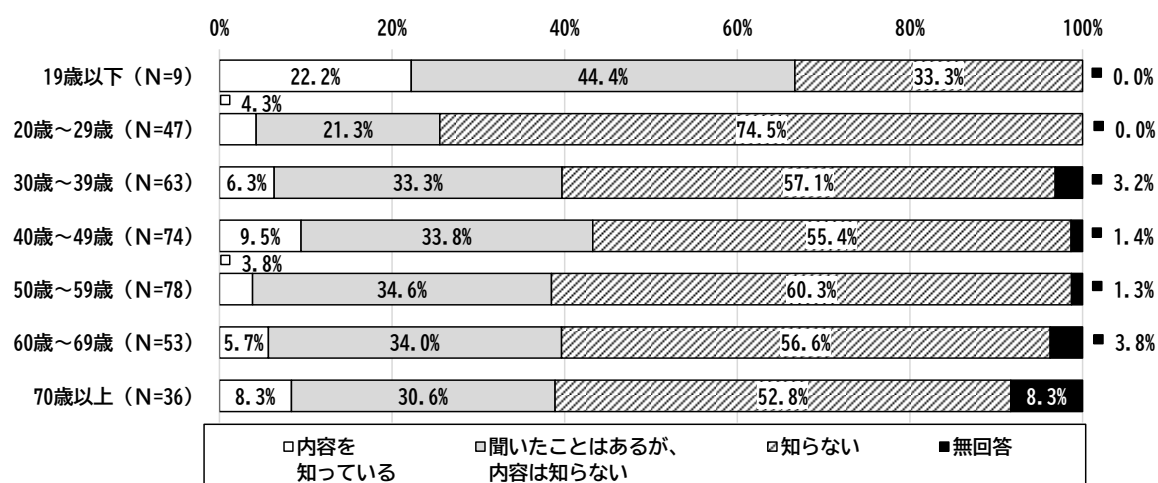
⑪女性の職業生活における活躍の推進に関する法律（女性活躍推進法）



⑫政治分野における男女共同参画の推進に関する法律

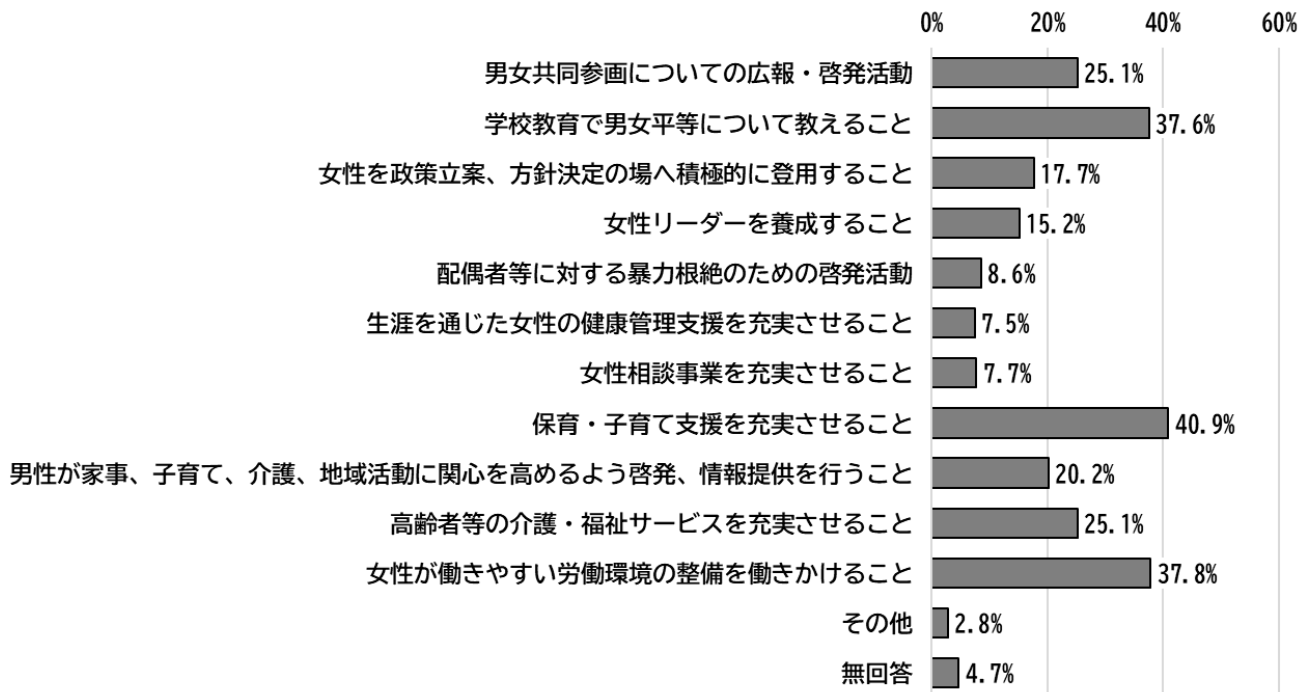


⑬困難な問題を抱える女性への支援に関する法律



問 26 あなたは、「男女共同参画社会」を実現するために、今後、町はどのようなことに優先して取り組むべきだと思いますか。（回答は、3つまで）

今後、町が優先して取り組むべきことでは、「保育・子育て支援を充実させること」が40.9%と最も高く、次いで「女性が働きやすい労働環境の整備を働きかけること」が37.8%、「学校教育で男女平等について教えること」が37.6%となっています。



項目	人数（人）	比率（%）
男女共同参画についての広報・啓発活動	91	25.1
学校教育で男女平等について教えること	136	37.6
女性を政策立案、方針決定の場へ積極的に登用すること	64	17.7
女性リーダーを養成すること	55	15.2
配偶者等に対する暴力根絶のための啓発活動	31	8.6
生涯を通じた女性の健康管理支援を充実させること	27	7.5
女性相談事業を充実させること	28	7.7
保育・子育て支援を充実させること	148	40.9
男性が家事、子育て、介護、地域活動に関心を高めるよう啓発、情報提供を行うこと	73	20.2
高齢者等の介護・福祉サービスを充実させること	91	25.1
女性が働きやすい労働環境の整備を働きかけること	137	37.8
その他	10	2.8
無回答	17	4.7
回答者数	362	

【その他の記述】

◆「従来から変える必要がない」または「取り組む必要がない」とする回答 計4件

・今までどおりで良いのでは？	・町が動いても何も変わらない
・特になにかをする必要ない	
・男女平等で考えるのであれば、充分女性が対等していると思う	

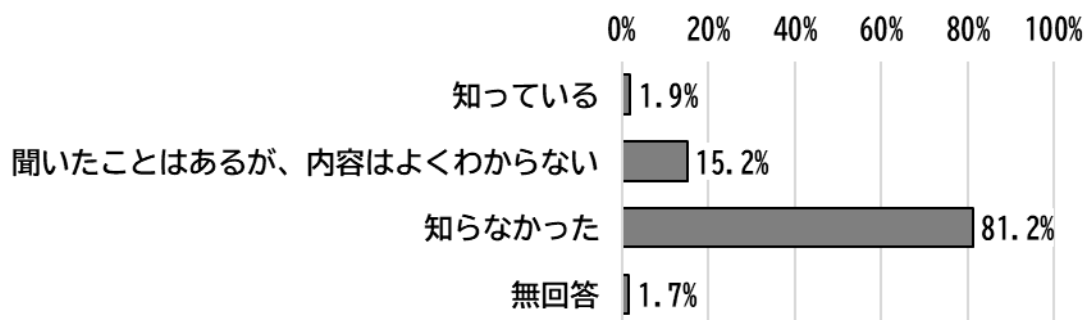
◆その他の回答 計5件

・問題を早く知ることのできる社会づくり	・男女の職員採用数を同じにする
・男女の特性を前提に、表面的だけの共同参画社会は疑問に思う	
・平等にするのに女性にこだわる必要はないと思う	
・リーダーになろうとする女性がいらないのに女性だから役職につかせるのは中途半端な組織になると思う	

10. 毛呂山町の取組について

問 27 あなたは、第3次もろやま男女共同参画プラン（毛呂山町男女共同参画推進計画・毛呂山町 DV 防止基本計画・毛呂山町女性活躍推進計画を包含）についてご存知ですか。

第3次もろやま男女共同参画プランの認知度では、「知らなかった」が81.2%、「聞いたことはあるが、内容はよくわからない」が15.2%、「知っている」が1.9%となっています。



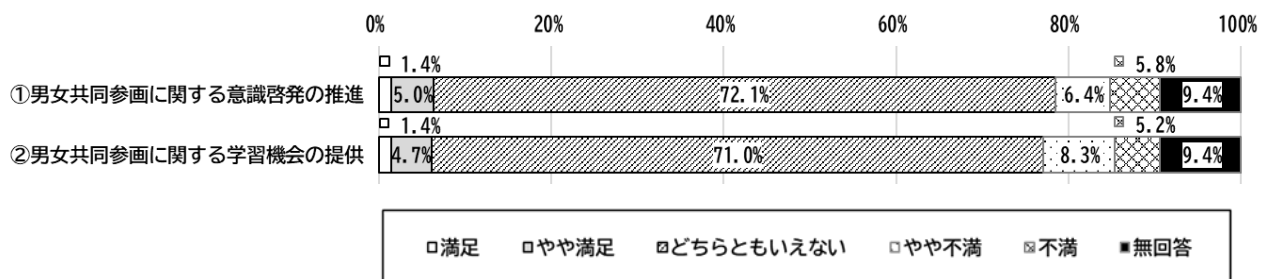
項目	人数（人）	比率（%）
知っている	7	1.9
聞いたことはあるが、内容はよくわからない	55	15.2
知らなかった	294	81.2
無回答	6	1.7
合計	362	100.0

問 28 第3次もろやま男女共同参画プランでは、「Ⅰ男女共同参画の意識づくり」「Ⅱ女性が働き続けるための条件整備」「Ⅲ社会活動への女性の参画促進」「Ⅳ女性の健康と福祉の向上」の4つの柱を設定し、さまざまな施策に取り組んでいます。そこで、町が実施する次の施策について、満足度と重要度を教えてください。（回答は、それぞれ1つ）

【Ⅰ男女共同参画の意識づくり】

満足度

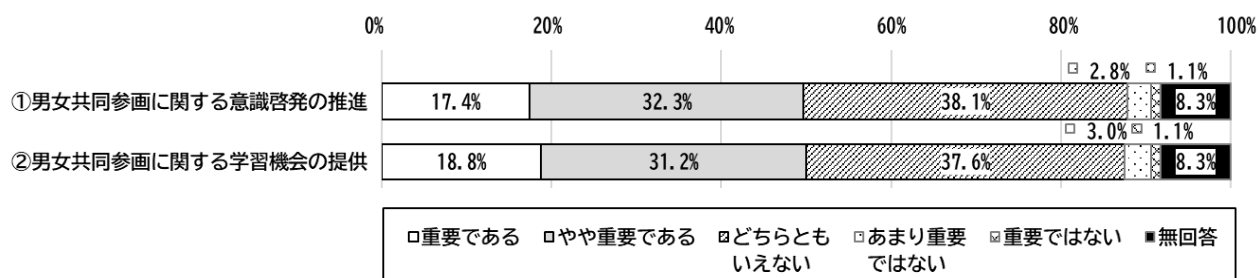
「満足」と「やや満足」を合わせた『満足（以下同様）』の回答では、「①男女共同参画に関する意識啓発の推進」が6.4%、「②男女共同参画に関する学習機会の提供」が6.1%となっています。一方で、「やや不満」と「不満」を合わせた『不満（以下同様）』の回答では、「①男女共同参画に関する意識啓発の推進」が12.2%、「②男女共同参画に関する学習機会の提供」が13.5%となっています。



項目	満足	やや満足	いどちらともいえない	やや不満	不満	無回答	合計
①男女共同参画に関する意識啓発の推進	5	18	261	23	21	34	362
	1.4%	5.0%	72.1%	6.4%	5.8%	9.4%	100.0%
②男女共同参画に関する学習機会の提供	5	17	257	30	19	34	362
	1.4%	4.7%	71.0%	8.3%	5.2%	9.4%	100.0%

重要度

「重要である」と「やや重要である」を合わせた『重要である（以下同様）』の回答では、「①男女共同参画に関する意識啓発の推進」が49.7%、「②男女共同参画に関する学習機会の提供」が50.0%となっています。一方で、「あまり重要ではない」と「重要ではない」を合わせた『重要ではない（以下同様）』の回答では、「①男女共同参画に関する意識啓発の推進」が3.9%、「②男女共同参画に関する学習機会の提供」が4.1%となっています。

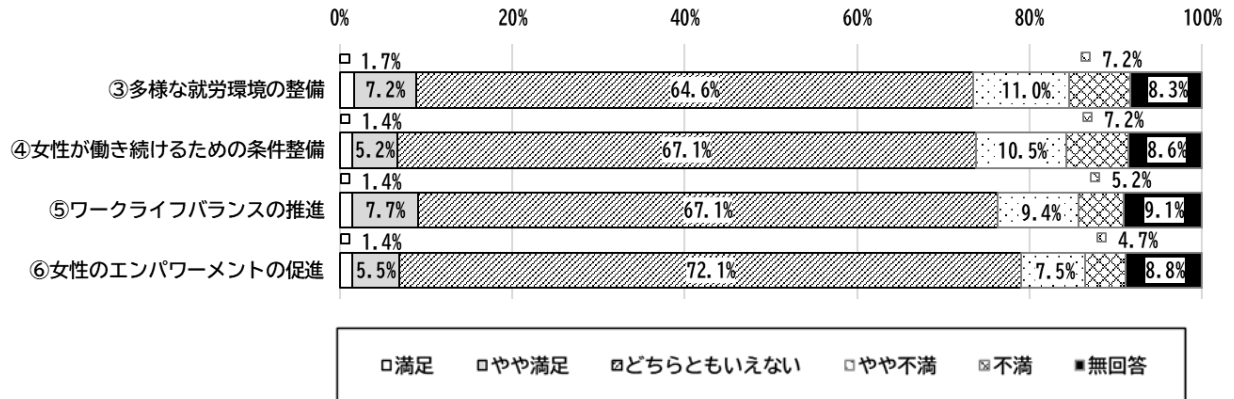


項目	重要である	やや重要である	どちらとも いえない	あまり重要 ではない	重要ではない	無回答	合計
①男女共同参画に関する意識啓発の推進	63 17.4%	117 32.3%	138 38.1%	10 2.8%	4 1.1%	30 8.3%	362 100.0%
②男女共同参画に関する学習機会の提供	68 18.8%	113 31.2%	136 37.6%	11 3.0%	4 1.1%	30 8.3%	362 100.0%

【Ⅱ女性が働き続けるための条件整備】

満足度

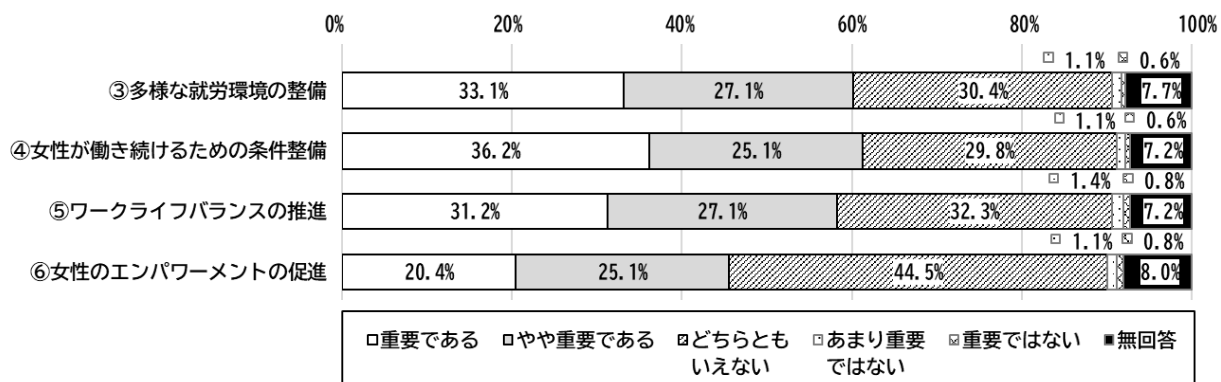
『満足』の回答では、「⑤ワークライフバランスの推進」が9.1%と最も高く、次いで「③多様な就労環境の整備」が8.9%となっています。一方で、『不満』の回答では、「③多様な就労環境の整備」が18.2%と最も高く、次いで「④女性が働き続けるための条件整備」が17.7%となっています。



項目	満足	やや満足	どちらともいえない	やや不満	不満	無回答	合計
③多様な就労環境の整備	6	26	234	40	26	30	362
	1.7%	7.2%	64.6%	11.0%	7.2%	8.3%	100.0%
④女性が働き続けるための条件整備	5	19	243	38	26	31	362
	1.4%	5.2%	67.1%	10.5%	7.2%	8.6%	100.0%
⑤ワークライフバランスの推進	5	28	243	34	19	33	362
	1.4%	7.7%	67.1%	9.4%	5.2%	9.1%	100.0%
⑥女性のエンパワーメントの促進	5	20	261	27	17	32	362
	1.4%	5.5%	72.1%	7.5%	4.7%	8.8%	100.0%

重要度

『重要である』の回答では、「④女性が働き続けるための条件整備」が61.3%と最も高く、次いで「③多様な就労環境の整備」が60.2%となっています。一方で、『重要ではない』の回答では、「⑤ワークライフバランスの推進」が2.2%と最も高く、次いで「⑥女性のエンパワーメントの促進」が1.9%となっています。

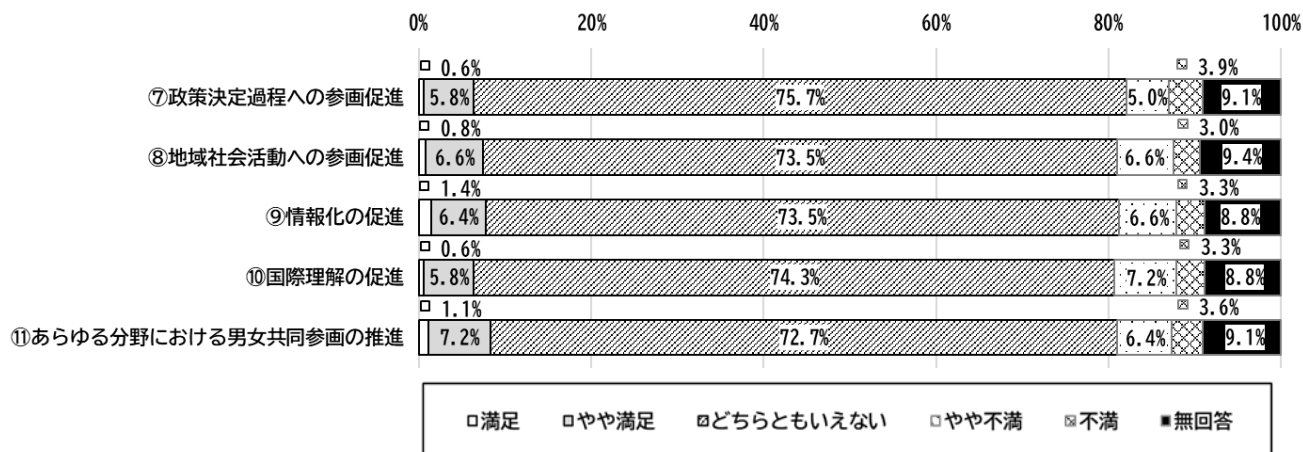


項目	重要である	やや重要である	いどちらともいえない	あまり重要ではない	重要ではない	無回答	合計
③多様な就労環境の整備	120	98	110	4	2	28	362
	33.1%	27.1%	30.4%	1.1%	0.6%	7.7%	100.0%
④女性が働き続けるための条件整備	131	91	108	4	2	26	362
	36.2%	25.1%	29.8%	1.1%	0.6%	7.2%	100.0%
⑤ワークライフバランスの推進	113	98	117	5	3	26	362
	31.2%	27.1%	32.3%	1.4%	0.8%	7.2%	100.0%
⑥女性のエンパワーメントの促進	74	91	161	4	3	29	362
	20.4%	25.1%	44.5%	1.1%	0.8%	8.0%	100.0%

【Ⅲ社会活動への女性の参画促進】

満足度

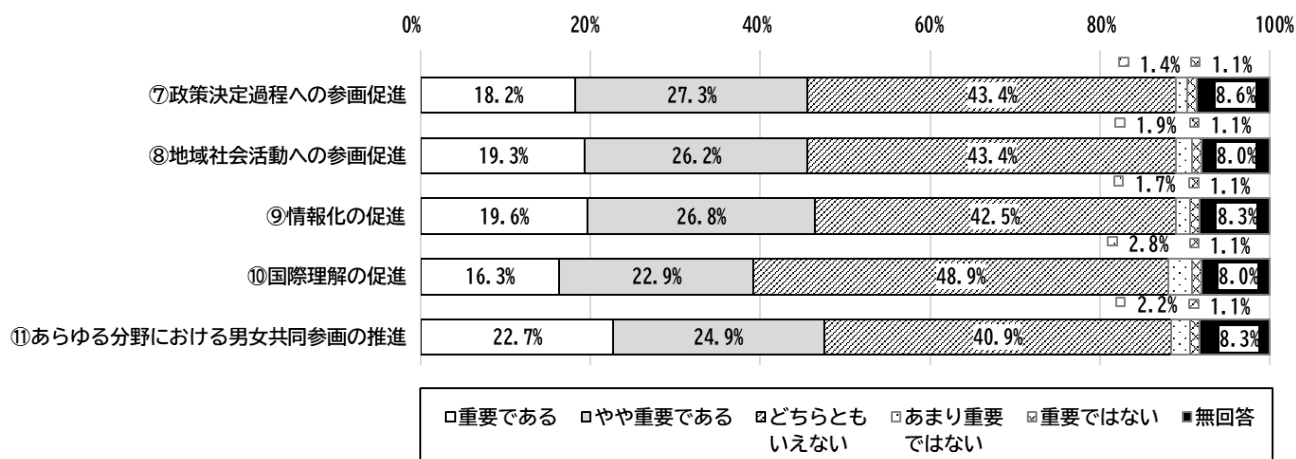
『満足』の回答では、「⑪あらゆる分野における男女共同参画の推進」が8.3%と最も高く、次いで「⑨情報化の促進」が7.8%となっています。一方で、『不満』の回答では、「⑩国際理解の促進」が10.5%と最も高く、次いで「⑪あらゆる分野における男女共同参画の推進」が10.0%となっています。



項目	満足	やや満足	どちらともいえない	やや不満	不満	無回答	合計
⑦政策決定過程への参画促進	2	21	274	18	14	33	362
	0.6%	5.8%	75.7%	5.0%	3.9%	9.1%	100.0%
⑧地域社会活動への参画促進	3	24	266	24	11	34	362
	0.8%	6.6%	73.5%	6.6%	3.0%	9.4%	100.0%
⑨情報化の促進	5	23	266	24	12	32	362
	1.4%	6.4%	73.5%	6.6%	3.3%	8.8%	100.0%
⑩国際理解の促進	2	21	269	26	12	32	362
	0.6%	5.8%	74.3%	7.2%	3.3%	8.8%	100.0%
⑪あらゆる分野における男女共同参画の推進	4	26	263	23	13	33	362
	1.1%	7.2%	72.7%	6.4%	3.6%	9.1%	100.0%

重要度

『重要である』の回答では、「⑪あらゆる分野における男女共同参画の推進」が47.6%と最も高く、次いで「⑨情報化の促進」が46.4%となっています。一方で、『重要ではない』の回答では、「⑩国際理解の促進」が3.9%となっています。

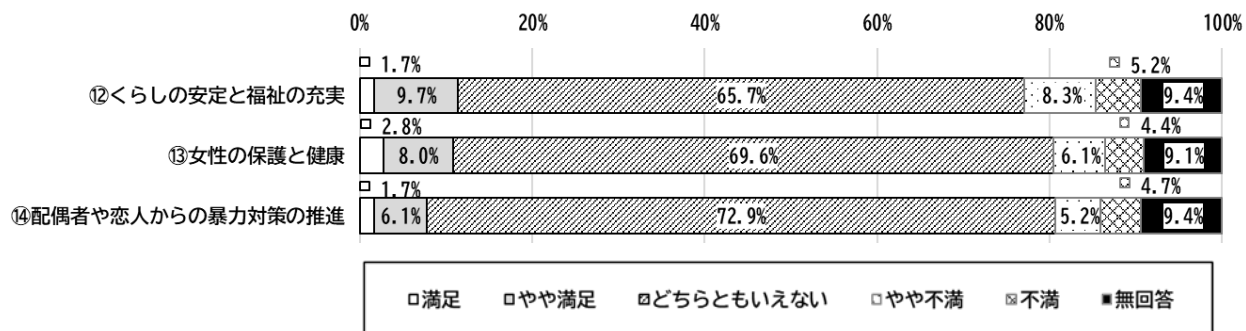


項目	重要である	やや重要である	どちらともいえない	あまり重要ではない	重要ではない	無回答	合計
⑦政策決定過程への参画促進	66	99	157	5	4	31	362
	18.2%	27.3%	43.4%	1.4%	1.1%	8.6%	100.0%
⑧地域社会活動への参画促進	70	95	157	7	4	29	362
	19.3%	26.2%	43.4%	1.9%	1.1%	8.0%	100.0%
⑨情報化の促進	71	97	154	6	4	30	362
	19.6%	26.8%	42.5%	1.7%	1.1%	8.3%	100.0%
⑩国際理解の促進	59	83	177	10	4	29	362
	16.3%	22.9%	48.9%	2.8%	1.1%	8.0%	100.0%
⑪あらゆる分野における男女共同参画の推進	82	90	148	8	4	30	362
	22.7%	24.9%	40.9%	2.2%	1.1%	8.3%	100.0%

【IV女性の健康と福祉の向上】

満足度

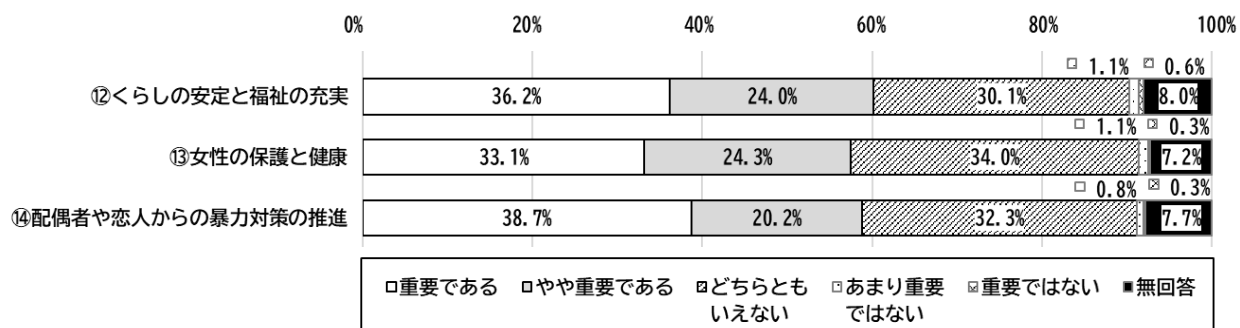
『満足』の回答では、「⑫くらしの安定と福祉の充実」が11.4%と最も高く、次いで「⑬女性の保護と健康」が10.8%となっています。一方で、『不満』の回答では、「⑫くらしの安定と福祉の充実」が13.5%と最も高く、次いで「⑬女性の保護と健康」が10.5%となっています。



項目	満足	やや満足	いどちらともいえない	やや不満	不満	無回答	合計
⑫くらしの安定と福祉の充実	6	35	238	30	19	34	362
	1.7%	9.7%	65.7%	8.3%	5.2%	9.4%	100.0%
⑬女性の保護と健康	10	29	252	22	16	33	362
	2.8%	8.0%	69.6%	6.1%	4.4%	9.1%	100.0%
⑭配偶者や恋人からの暴力対策の推進	6	22	264	19	17	34	362
	1.7%	6.1%	72.9%	5.2%	4.7%	9.4%	100.0%

重要度

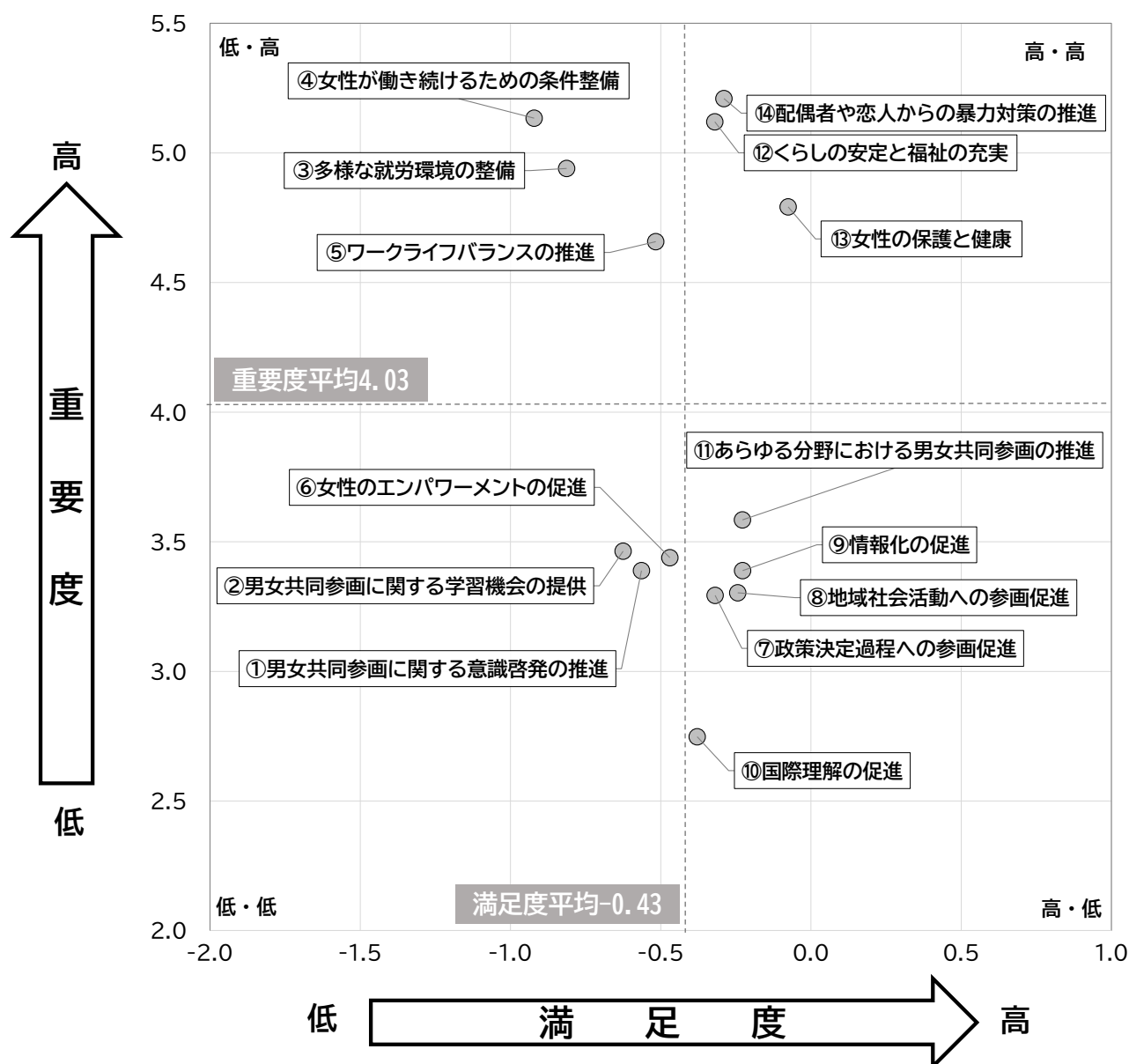
『重要である』の回答では、「⑫くらしの安定と福祉の充実」が60.2%と最も高く、次いで「⑭配偶者や恋人からの暴力対策の推進」が58.9%となっています。一方で、『重要ではない』の回答では、「⑫くらしの安定と福祉の充実」が1.7%となっています。



項目	重要である	やや重要である	どちらともいえない	あまり重要ではない	重要ではない	無回答	合計
⑫くらしの安定と福祉の充実	131	87	109	4	2	29	362
	36.2%	24.0%	30.1%	1.1%	0.6%	8.0%	100.0%
⑬女性の保護と健康	120	88	123	4	1	26	362
	33.1%	24.3%	34.0%	1.1%	0.3%	7.2%	100.0%
⑭配偶者や恋人からの暴力対策の推進	140	73	117	3	1	28	362
	38.7%	20.2%	32.3%	0.8%	0.3%	7.7%	100.0%

【満足度・重要度の加重平均】

問 28 の各項目における満足度と重要度について、回答ごとに配分された点数（ウエイト）を各回答割合に乗じて合計した加重平均により比較したところ、本町の課題と考えられる最も“重要度が高く満足度が低い”項目は、「④女性が働き続けるための条件整備」、次いで「③多様な就労環境の整備」、「⑤ワークライフバランスの推進」となっています。



点数

満足・重要：10点

やや満足・やや重要：5点

どちらともいえない：0点

やや不満・あまり重要ではない：-5点

不満・重要ではない：-10点

基本目標	満足	重要	満足・重要※	
【Ⅰ男女共同参画の意識づくり】				
①男女共同参画に関する意識啓発の推進	-0.56	3.39	低	低
②男女共同参画に関する学習機会の提供	-0.63	3.46	低	低
【Ⅱ女性が働き続けるための条件整備】				
③多様な就労環境の整備	-0.81	4.94	低	高
④女性が働き続けるための条件整備	-0.92	5.13	低	高
⑤ワークライフバランスの推進	-0.52	4.66	低	高
⑥女性のエンパワーメントの促進	-0.47	3.44	低	低
【Ⅲ社会活動への女性の参画促進】				
⑦政策決定過程への参画促進	-0.32	3.29	高	低
⑧地域社会活動への参画促進	-0.24	3.30	高	低
⑨情報化の促進	-0.23	3.39	高	低
⑩国際理解の促進	-0.38	2.75	高	低
⑪あらゆる分野における男女共同参画の推進	-0.23	3.58	高	低
【Ⅳ女性の健康と福祉の向上】				
⑫くらしの安定と福祉の充実	-0.32	5.12	高	高
⑬女性の保護と健康	-0.08	4.79	高	高
⑭配偶者や恋人からの暴力対策の推進	-0.29	5.21	高	高
平均	-0.43	4.03		

※ 満足・重要：平均を基準とし、「高」または「低」を設定しています。

11. 自由意見

今後の男女共同参画社会づくりについてご意見等がございましたら自由にご記入ください。(自由記述)

◆総合的な回答 計7件

・女性がどうのこうの書いている時点で、女性優遇の傾向があるのではないのかなと思います。男女共同参画、LGBTQ については、意識の問題であって、法律等で縛るのはどうなのかなと思います。海外でも LGBTQ 関連の犯罪が増えていると聞くので、その辺に關しての配慮もしていただきたいなと思います
・男女共同参画社会や、LGBTQ の取り組みが極端になりすぎないといいと思います。権利は平等でも体のつくりは違うので中庸が調和のとれた社会に必要なのだと考えます
・個人の意識調査だとしても回答結果を元に何をどう変化させていくのか、変化させるつもりがあるのか疑問を感じざるを得ない
・女性を優遇するよりも男性にも主夫業をもっと理解してもらう方法、平日サラリーマンとして都内などに働きに出ていると町の事、町のコミュニティなどを知らない人が多いのでパパさんイベントなどがあるとよいかも。商工祭とかはとても良いです。高齢化でもバスがもっと身近に利用できるようになると引きこもる人も少なくなるのでは？健康な人が多い町づくり（アプリ等作り街歩き歩数で毛呂山町すぐろくのような物を連動して楽しく健康促進する）を希望
・傾聴できる人を育て増やす事が大切
・このようなアンケートする事がまちがってると思います
・活動内容や情報が町民に伝わっていないので、もっと町民が理解し受け入れられる様に工夫が必要だと思います

◆男女共同参画に関する回答 計23件

・男とは、女、子供が安心して帰って来れる場所を作ること
・日本はまだ男性社会である。もっと女性社会へ変えていってほしい。毛呂山は、女性の働きやすさは都内に比べるとまだまだ満足とまでは行っていません。保育の預け時間、学童の時間などもう少し柔軟にならないと女性進出はまだまだできません
・強制的に参画させることでは良い意見は生まれないと思う。男女関係なく意見が自然に通るのが本来あるべき姿
・益々の女性の進出を願います
・話し合いと相互理解がなければ、結局絵に描いた餅になりかねないと思う
・町長を女性に
・男女平等なら電車の乗り場に男性用車両があっても良いと思う
・男女平等とはよく言ったものです。これからの時代、女性の時代です。女性が前へ出て男性を引っ張っていく時代がきています。女性を大事にし、話をよく聞き、女性の意見を尊重して行くべきです
・男女平等のアンケートをするならば、女性を平等にするのほかに男性を平等にするという項目も同じように入れておくべきだと思う。あと、今回のアンケート内容をするならば、実際にこの街で男女不平等になっている実例を具体的に例題として入れておかないとわからない
・男女関係なく、能力のある人をリーダーとして登用するべき。男女共同参画より少子化対策に力を入れるべき。地方税の減税を行うべき
・男女ともに就業時間を短縮するべきです。そのしわ寄せが女性に来るからです
・女性が家事をするのが当たり前と思っている人がまだまだたくさんいるような気がします（夫婦で同じように働いても、女性の方が家事の負担が大きい）

・少し内容と離れますが、毛呂山町も子供2人目保育料無償化になれば、子供も増え女性も働きやすく活気が出ると思います。ただでさえ少子高齢化の町なのに、どうして実施されないのか検討していただきたいです
・子供のいる家庭では、父親と同じには母親は働くことができない。その家庭でもいろいろあるので、母としても色々なことに参加するには、それなりの町や国からの支援がないと無理だと思う
・男性、女性の数を同じにとか言うのはいかなものかと思う。そういうことではなく、能力のある方が能力を活かしていただきたいと思います
・こんなアンケートをしないといけなくらい毛呂山町は男女のライフスタイルのバランスが悪いのでしょうか？
・雇用の話ならハローワーク等を対象に調査した方が効率的だし、会社組織にしても直接企業に問い合わせた方が早い
・男性は男性側の意見があり、女性は女性側の意見があります
・政治をする上で、女性をもっと起用して欲しい
・家庭と仕事の両立のために、育児や介護休暇だけでなく、フレックス勤務など、働き方が選べる社会になれば、若い人がキャリアを諦めることなく務められるのではないかと思います
・女性ばかり働きやすさや制度が整っているが、男性の働きやすさや改革も考えるべきだと思います
・時代が令和になり人の意識も少しずつかわっている。自治会や地域の活動も見直す時期ではないか？女性が参加すれば良いというものでもないと思う
・女性の活躍も大事ですが、男性の活躍も少しは考えていただいた方が良いと思います。男性にしても、女性にしてもそれぞれの立場を尊重するのがまずは第一かと

◆LGBTQに関する回答 1件

・性的マイノリティの方もいらっしゃるので、男女で分けられなくなってくると思います
--

◆「わからない」、「知らない」とする回答 計8件

・毛呂山町の取り組みはよく知りませんでした
・第三次毛呂山男女共同プランにおける取組内容について知らないので、アンケート（問28）に答えようがありません
・毛呂山男女共同プランあまり知りませんでした。これからどのようなになるのか楽しみにしています
・今回第四次ということですが、1次、2次、3次のプランの結果というのは出ているのですか？皆さんに分かるように公表しているのですか？私は知りませんでした
・街の活動がわからないので評価することができない
・引っ越してきて一年程度なので毛呂山町の事はわからないことばかりですが、自然がたくさんあり、とても良い環境の街だと思います。役場の皆様、今後も頑張ってください。毛呂山町の良い環境を守り続けてください
・回答をどの様に活かしていくのかという所が分からない
・そもそも、男女共同参画が何かの説明が無いため、アンケート調査の意味があるのか分からない。紙の無駄だと思ってしまう

Ⅲ. 本町の課題

- 問8から、「生活費の確保」は主に男性が担い、「炊事・洗濯・掃除」及び「子育て（しつけ、教育、学校行事）」等の家事は主に女性が担っている現状にありますが、問9から「男性・女性おなじくらい」担う方がよいとされており、問10で「仕事を続けたい」とする女性が多いことから、男性、女性ともにワークライフバランスの改善による、仕事と生活の両立が望まれます。
- 配偶者や婚約者、恋人から身体的攻撃、心理的攻撃、性的強要、経済的圧迫を受けたことがある方のうち、「相談できなかった」または「相談しようとは思わなかった」理由として、44.4%（45件中、20件）の方が「相談しても無駄だと思った」と回答しています。また、「誰（どこ）に相談したらよいかわからなかった」とする方は24.4%（45件中、11件）おり、相談窓口の周知と体制整備が求められます。
- 地域活動の会長やリーダーに女性が少ない傾向にある原因として、「女性は家事・育児などで活動に専念できないから」とする方が32.3%（362件中、117件）おり、前述したワークライフバランスの改善のほか、子育て支援の充実等による女性の活躍推進を図る取組が求められます。
- 「男女の不平等を是正するため、女性があまり進出していない分野で一時的に女性の優先枠を設けるなどして男女の実質的な機会の均等を確保すべき」という考え方（ポジティブ・アクション）に『賛成する』とした方が60.5%（362件中、219件）おり、今後、ポジティブ・アクションの導入を検討する必要があります。
- 自分自身の性に悩んだことがある方のうち、8割以上が誰にも相談できていない現状にあります。性的マイノリティの方への支援として、学校への訪問事業や企業向けの研修等による啓発活動が求められます。
- 第三次もろやま男女共同参画プランの認知度について、96.4%（362件中、349件）の方が取組内容を知らず、そのうちの84.2%（294件）の方が計画の存在も知らないと回答しています。前述のとおり、相談先がわからないとする回答割合も高いことから、次期計画の取組を推進する以前に、計画自体の周知を図る必要があります。
- 第三次もろやま男女共同参画プランで推進されてきた取組のうち、町民の満足度が低く重要度が高いとされる取組は、「女性が働き続けるための条件整備」、「多様な就労環境の整備」、「ワークライフバランスの推進」となっています。また、重要度が高くはないものの満足度が低い取組は、「男女共同参画に関する学習機会の提供」、「女性のエンパワーメントの促進」、「男女共同参画に関する意識啓発の推進」となっています。これら基本目標Ⅰ及び基本目標Ⅱの取組は、次期計画においても継続、または拡大して推進する必要があります。

IV. 調査票

あなたご自身のことについてうかがいます。

問1 あなたの性別は。

- | | | |
|-------|-------|---------------------|
| 1. 男性 | 2. 女性 | 3. その他 [※] |
|-------|-------|---------------------|

※ 性的マイノリティを考慮した選択肢です。

問2 あなたの年齢は。

- | | | |
|------------|------------|------------|
| 1. 19歳以下 | 2. 20歳～29歳 | 3. 30歳～39歳 |
| 4. 40歳～49歳 | 5. 50歳～59歳 | 6. 60歳～69歳 |
| 7. 70歳以上 | | |

問3 あなたの職業は。

- | | | |
|------------------|------------------------------|--------|
| 1. 農業・林業・畜産漁業 | 2. 自営業（商店・飲食店・企業経営など） | |
| 3. 会社員（給与所得者） | 4. 専門職（医師・看護師・弁護士・会計士・税理士など） | |
| 5. 教師・公務員・団体職員など | 6. パート・アルバイト | |
| 7. 学生 | 8. 専業主婦・専業主夫 | 9. その他 |

問4 あなたは結婚していますか。

- | | |
|-------------------|--------|
| 1. 結婚したことがない | →問5へ |
| 2. 結婚している（事実婚を含む） | →問4-1へ |
| 3. 結婚したが離婚・死別している | →問5へ |

**問4-1 問4で「2. 結婚している（事実婚を含む）」と回答した方にうかがいます。
配偶者の方の職業は何ですか。**

- | | | |
|------------------|------------------------------|--------|
| 1. 農業・林業・畜産漁業 | 2. 自営業（商店・飲食店・企業経営など） | |
| 3. 会社員（給与所得者） | 4. 専門職（医師・看護師・弁護士・会計士・税理士など） | |
| 5. 教師・公務員・団体職員など | 6. パート・アルバイト | |
| 7. 学生 | 8. 専業主婦・専業主夫 | 9. その他 |

問5 あなたの世帯構成は。

- | | |
|-----------------|------------------|
| 1. ひとり暮らし | 2. ひとり親世帯 |
| 3. 夫婦のみ | 4. 夫婦と子ども（2世代世帯） |
| 5. 親と子と孫（3世代世帯） | 6. その他（ ） |

男女平等意識についてうかがいます。

問6 あなたは、次の①～⑧の項目について男女の地位をどのように感じていますか。
(回答は、それぞれ1つ)

	男性が優遇されている	どちらかといえば男性が優遇されている	男女が平等になっている	どちらかといえば女性が優遇されている	女性が優遇されている	わからない
① 家庭	1	2	3	4	5	6
② 職場	1	2	3	4	5	6
③ 学校・教育機関	1	2	3	4	5	6
④ 慣習やしきたり	1	2	3	4	5	6
⑤ 法律等の制度	1	2	3	4	5	6
⑥ 地域活動	1	2	3	4	5	6
⑦ 政治	1	2	3	4	5	6
⑧ 社会全体	1	2	3	4	5	6

問7 あなたは、「男は仕事、女は家庭」という男女の役割分担の考え方を、どのように思いますか。

(回答は、1つ)

- | | |
|-------------------|-----------------|
| 1. そのとおりだと思う | 2. どちらかといえばそう思う |
| 3. どちらかといえばそう思わない | 4. そう思わない |
| 5. わからない | |

家庭生活についてうかがいます。

問8 現在、あなたの家庭では次のことを主にどなたが行っていますか。
(回答は、それぞれ1つ)

	主に男性	男性・女性おなじくらい	主に女性	家族以外の人に依頼	あてはまらない
① 生活費の確保	1	2	3	4	5
② 炊事・洗濯・掃除	1	2	3	4	5
③ 子育て（しつけ、教育、学校行事）	1	2	3	4	5
④ 家族の介護	1	2	3	4	5
⑤ 自治会、PTA活動	1	2	3	4	5
⑥ 土地や家屋の購入、高額な買い物	1	2	3	4	5

問9 あなたは、次の①～⑥の項目について、主に男性、女性のどちらが担う方がよいと思いますか。
(回答は、それぞれ1つ)

	主に男性	男性・女性おなじくらい	主に女性	家族以外の人に依頼	あてはまらない
① 生活費の確保	1	2	3	4	5
② 炊事・洗濯・掃除	1	2	3	4	5
③ 子育て（しつけ、教育、学校行事）	1	2	3	4	5
④ 家族の介護	1	2	3	4	5
⑤ 自治会、PTA活動	1	2	3	4	5
⑥ 土地や家屋の購入、高額な買い物	1	2	3	4	5

就業についてうかがいます。

問 10 あなたは、女性の働き方について、理想はどうあるべきだと思いますか。
(回答は、1つ)

1. 結婚や出産にかかわらず仕事を続ける
2. 子育ての時期だけ一時やめ、その後はフルタイムで仕事を続ける
3. 子育ての時期だけ一時やめ、その後はパートタイムで仕事を続ける
4. 結婚して子どもができれば、家事や子育てに専念する
5. 仕事はもたない
6. その他 ()

問 11 あなたの職場では、仕事の内容や待遇において女性に対して次のようなことがありますか。
(回答は、いくつでも)

- | | |
|---------------------------------|---------------------|
| 1. 賃金に男女差がある | 2. 男性に比べて女性の採用が少ない |
| 3. 昇進・昇格に男女差がある | 4. 能力を正當に評価しない |
| 5. 配置・配属場所が限られている | 6. 補助的な仕事しか任されていない |
| 7. 企画会議などの意思決定の場に女性が参加できない傾向にある | |
| 8. 女性を幹部職員に登用しない | 9. 有給休暇や介護休暇が取得しにくい |
| 10. 結婚や出産後に退職しなければならない雰囲気がある | |
| 11. 中年以上の女性に退職を勧奨するような雰囲気がある | |
| 12. 教育・研修を受ける機会が少ない | |
| 13. 就労経験がない | 14. 特にない |
| 15. その他 () | |



問12 あなたは、男性・女性がともに仕事と家庭を両立していくための条件として、
どのようなことが必要だと思いますか。

(回答は、3つまで)

1. 給与等の男女間格差をなくすこと	2. 労働時間を短縮すること
3. 育児・介護休業制度を利用できる職場環境をつくること	
4. 育児・介護休業中の賃金等経済支援の充実	
5. 保育施設や保育時間の延長など保育の充実	
6. 在宅勤務やフレックスタイム制度など柔軟な勤務制度の導入	
7. 女性が働くことに対し、家庭や周囲の理解と協力	
8. 男性が家事や育児を行う能力を高めるための講習会等の開催	
9. 男性の残業時間を減らしたり、休暇が取りやすくなる体制づくり	
10. わからない	
11. その他 (	)

暴力についてうかがいます。

問13 あなたは、夫や妻（事実婚や別居中、離婚後を含む）、婚約者、恋人などの相手から次のようなことをされたことがありますか。

(回答は、それぞれ1つ)

		1 〜 2 度 あ っ た	何 度 も あ っ た	ま っ た く な い
①	身体的暴行： 殴る、蹴る、物を投げつける、突き飛ばすなどの身体に対する暴行	1	2	3
②	心理的攻撃： 人格を否定するような暴言、交友関係や行き先、電話・メールなどを細かく監視する、長時間無視するなどの精神的嫌がらせ、あるいは、あなたもしくはあなたの家族に危害が加えられるのではないかと恐怖を感じるような脅迫	1	2	3
③	性的強要： いやがっているのに、性的な行為を強要される、見たくないのにポルノ映像等を見せられる、避妊に協力しないなど	1	2	3
④	経済的圧迫： 生活費を渡さない、貯金を勝手に使われる、外で働くことを妨害されるなど	1	2	3

問 13-1 問 13 で「1. 1～2 度あった」または「2. 何度もあった」に 1 つでも回答された方にうかがいます。相手から受けた行為について、誰かに打ち明けたり、相談したりしましたか。

(回答は、1 つ)

- | | |
|------------------|-----------|
| 1. 相談した | →問 13-2 へ |
| 2. 相談できなかった | →問 13-3 へ |
| 3. 相談しようとは思わなかった | →問 13-3 へ |

問 13-2 問 13-1 で「1. 相談した」と回答された方にうかがいます。相談した人や場所を教えてください。

(回答は、いくつでも)

- | | |
|-----------|--------------|
| 1. 家族・親戚 | 2. 友人・知人 |
| 3. 警察 | 4. 医師・カウンセラー |
| 5. 弁護士 | 6. 民間の相談施設 |
| 7. 町の相談窓口 | 8. その他の公共機関 |
| 9. その他 (|) |

問 13-3 問 13-1 で「2. 相談できなかった」「3. 相談しようとは思わなかった」と回答された方にうかがいます。それはなぜですか。

(回答は、いくつでも)

- | | |
|---------------------------------|----------------------|
| 1. 誰（どこ）に相談したらよいかわからなかった | |
| 2. 恥ずかしくて誰にも言えなかった | 3. 相談しても無駄だと思った |
| 4. 相談したことが分かると、もっとひどい暴力を受けると思った | |
| 5. 自分さえ我慢すればこのままやっていくことができると思った | |
| 6. 思い出したくなかった | 7. 相談するほどのことでもないと思った |
| 8. 自分にも悪いところがあると思った | 9. 世間体が悪い |
| 10. その他 (|) |



もろくん

問 14 あなたは、女性に対する暴力や様々な悩みなどに関する相談窓口などで配慮してほしいと思うことは何ですか。

(回答は、いくつでも)

- | | |
|--|--------------|
| 1. メールやチャット、SNSなどによる相談ができる | |
| 2. 電話による相談ができる | 3. 通話料が無料 |
| 4. 24時間相談ができる | |
| 5. 医療費、カウンセリング費用、弁護士費用などについて、無料で支援が受けられる | |
| 6. 相談内容に関連する、他の相談窓口との連携が行われる | |
| 7. 同性の相談員がいる | 8. 匿名で相談ができる |
| 9. 弁護士など、法的知識のある相談員がいる | |
| 10. 臨床心理士、公認心理士など、心理専門職の相談員がいる | |
| 11. DVや性暴力に関する専門の相談員がいる | |
| 12. その他 (|) |

社会参加についてうかがいます。

問 15 あなたは、現在、次のような地域での活動に参加していますか。

(回答は、いくつでも)

- | | |
|--------------------------|----------------|
| 1. 自治会などの地域活動 | 2. 政治や行政に関する活動 |
| 3. PTA、子ども会、老人会などの団体活動 | |
| 4. 趣味、教養、スポーツ、健康づくりなどの活動 | |
| 5. 特に何もしていない | 6. その他 (|
| |) |

問 16 問 15 で「5. 特に何もしていない」と回答された方にうかがいます。それはどのような理由からですか。

(回答は、3つまで)

- | | |
|----------------|--------------|
| 1. 仕事が忙しい | 2. 家事や育児が忙しい |
| 3. 家族の協力が得られない | 4. 健康に自信がない |
| 5. 情報がない | 6. 興味がない |
| 7. その他 (|) |

問 17 あなたは、地域での活動の会長やリーダーに、女性が少ない傾向にある原因は何だと思いますか。

(回答は、2つまで)

- | | |
|---------------------------|---------------------|
| 1. 女性がリーダーになりたがらないから | 2. 女性は組織活動の経験が少ないから |
| 3. 指導力のある女性が少ないから | |
| 4. 男性がリーダーになるのが慣習、しきたりだから | |
| 5. 女性がリーダーだと男性がついてこないから | |
| 6. 女性は家事・育児などで活動に専念できないから | |
| 7. その他 (|) |

問 18 あなたは、地方自治体（県や町）などの施策について、女性の意見や考え方がどの程度反映されていると思いますか。

(回答は、1つ)

- | | |
|----------------|-----------------|
| 1. 十分反映されている | 2. ある程度反映されている |
| 3. あまり反映されていない | 4. まったく反映されていない |
| 5. どちらともいえない | |
| 6. その他 (|) |

問 19 あなたは、地方自治体（県や町）などの施策に女性の意見を反映するためには、どのようなことが必要だと思いますか。

(回答は、3つまで)

- | | |
|-------------------------------------|---------------|
| 1. 行政・企業の管理職に女性を積極的に登用する | |
| 2. 自治会やPTAなどの地域団体の長や役員に、女性を積極的に登用する | |
| 3. 女性の意見を施策に反映することの大切さを広く啓発する | |
| 4. 女性自らが、施策に参画する意欲をもつ | |
| 5. わからない | 6. 特別な取組は必要ない |
| 7. その他 (|) |

問 20 「男女の不平等を是正するため、女性があまり進出していない分野で一時的に女性の優先枠を設けるなどして男女の実質的な機会の均等を確保すべき」という考え方（ポジティブ・アクション）があります。あなたはこの考え方についてどのように感じますか。

（回答は、1つ）

- | | |
|-----------------|-----------------|
| 1. 賛成する | 2. どちらかといえば賛成する |
| 3. どちらかといえば反対する | 4. 反対する |
| 5. どちらともいえない | |

防災についてうかがいます。

問 21 あなたは、防災・災害復興対策に、男女の性別に配慮した対応がとられる必要があると思いますか。

（回答は、1つ）

- | | |
|-----------------|------------------|
| 1. 必要がある | 2. どちらかといえば必要がある |
| 3. どちらかといえば必要ない | 4. 必要ない |
| 5. わからない | |

問 21-1 問 21 で「1. 必要がある」または「2. どちらかといえば必要がある」と回答した方にうかがいます。防災・災害復興時、避難所にはどのようなことが大切だと思いますか。

（回答は、3つまで）

- | | |
|-----------------------------------|--------|
| 1. 男女等性別で分けた更衣室 | 2. 授乳室 |
| 3. プライバシーを確保するための間仕切り | |
| 4. 安全で行きやすい場所の男女等性別で分けたトイレ | |
| 5. 小さい子連れの親子や障害者、高齢者が安心して過ごせるスペース | |
| 6. 避難所運営の責任者に男性、女性ともに配置されること | |
| 7. その他（ | ） |

問 22 あなたは、災害に備える体制整備にあたり、男女共同参画の視点を活かすためにはどのようなことが必要だと思いますか。

(回答は、3つまで)

- | |
|---------------------------------|
| 1. 防災分野の委員会や会議に、女性が参加する |
| 2. 自主防災組織への女性の参加促進を図る |
| 3. 災害に関する対応マニュアルに男性、女性の意見を反映させる |
| 4. 備蓄品に女性の視点を活かす |
| 5. わからない |
| 6. その他 () |

性の多様性についてうかがいます。

問 23 あなたは、自分自身の性（性的指向、性自認等）について悩んだ経験はありますか。

(回答は、1つ)

- | | |
|-------------|-------------|
| 1. 悩んだことがある | 2. 悩んだことはない |
|-------------|-------------|

問 23-1 問 23 で「1. 悩んだことがある」と回答された方にうかがいます。相談した人や場所を教えてください。

(回答は、いくつでも)

- | | |
|-------------------|---------------------|
| 1. 役場などの公的な相談機関 | 2. 民間の相談機関 |
| 3. 医師・カウンセラー | 4. 学校の先生・スクールカウンセラー |
| 5. 職場の上司・同僚 | 6. 家族・親族 |
| 7. 性的マイノリティの友人・知人 | 8. 性的マイノリティでない友人・知人 |
| 9. 誰にも相談しなかった | 10. その他 () |

問 24 あなたは、性的マイノリティ（LGBTQ）の方々への支援として、どのような取組が必要だと思いますか。
 （回答は、いくつでも）

1. 広報やホームページ、講演会などによる啓発活動
2. 学校や企業における理解促進や啓発活動
3. 性的マイノリティのパートナーや家族について、配偶者等に準じた取り扱いとする配慮
4. 性別に関係なく利用できるトイレや更衣室の設置などの社会的環境の配慮
5. 特に取り組む必要はない
6. わからない
7. その他（ ）

男女共同参画についてうかがいます。

問 25 あなたは、次の言葉について、見たたり聞いたたりしたことがありますか。
 （回答は、それぞれ1つ）

	内容を知っている	聞いたことはあるが、内容は知らない	知らない
① 男女共同参画	1	2	3
② ジェンダー（社会的性別）	1	2	3
③ ワークライフバランス（仕事と生活の調和）	1	2	3
④ ドメスティックバイオレンス（DV）	1	2	3
⑤ デートDV（交際相手からの暴力）	1	2	3
⑥ ポジティブ・アクション（積極的格差是正措置）	1	2	3
⑦ LGBTQ（性的マイノリティ）	1	2	3
⑧ 男女雇用機会均等法	1	2	3
⑨ 育児・介護休業法	1	2	3
⑩ 配偶者からの暴力防止及び被害者の保護等に関する法律（DV防止法）	1	2	3
⑪ 女性の職業生活における活躍の推進に関する法律（女性活躍推進法）	1	2	3

問 25 のつづき

		内容を 知っている	聞いたことはあるが、 内容は知らない	知らない
⑫	政治分野における男女共同参画の推進に関する法律	1	2	3
⑬	困難な問題を抱える女性への支援に関する法律	1	2	3

問 26 あなたは、「男女共同参画社会」を実現するために、今後、町はどのようなことに優先して取り組むべきだと思いますか。

(回答は、3つまで)

1. 男女共同参画についての広報・啓発活動
2. 学校教育で男女平等について教えること
3. 女性を政策立案、方針決定の場へ積極的に登用すること
4. 女性リーダーを養成すること
5. 配偶者等に対する暴力根絶のための啓発活動
6. 生涯を通じた女性の健康管理支援を充実させること
7. 女性相談事業を充実させること
8. 保育・子育て支援を充実させること
9. 男性が家事、子育て、介護、地域活動に関心を高めるよう啓発、情報提供を行うこと
10. 高齢者等の介護・福祉サービスを充実させること
11. 女性が働きやすい労働環境の整備を働きかけること
12. その他 ()



もろ丸くん

毛呂山町の取組についてうかがいます。

問 27 あなたは、第3次もろやま男女共同参画プラン（毛呂山町男女共同参画推進計画・毛呂山町 DV 防止基本計画・毛呂山町女性活躍推進計画を包含）についてご存知ですか。

（回答は、1つ）

1. 知っている
2. 聞いたことはあるが、内容はよくわからない
3. 知らなかった

問 28 第3次もろやま男女共同参画プランでは、「Ⅰ 男女共同参画の意識づくり」「Ⅱ 女性が働き続けるための条件整備」「Ⅲ 社会活動への女性の参画促進」「Ⅳ 女性の健康と福祉の向上」の4つの柱を設定し、さまざまな施策に取り組んでいます。そこで、町が実施する次の施策について、満足度と重要度を教えてください。

（回答は、それぞれ1つ）

第3次もろやま男女共同プラン における取組内容		満足度					重要度				
		満足	やや満足	どちらともいえない	やや不満	不満	重要である	やや重要である	どちらともいえない	あまり重要ではない	重要ではない
例	〇〇の推進	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
Ⅰ 男女共同参画の意識づくり											
①	男女共同参画に関する意識啓発の推進	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
②	男女共同参画に関する学習機会の提供	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
Ⅱ 女性が働き続けるための条件整備											
③	多様な就労環境の整備	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
④	女性が働き続けるための条件整備	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5

問 28 のつづき 第3次もろやま男女共同プラン における取組内容		満足度					重要度				
		満足	やや満足	どちらともいえない	やや不満	不満	重要である	やや重要である	どちらともいえない	あまり重要ではない	重要ではない
Ⅱ 女性が働き続けるための条件整備											
⑤	ワークライフバランスの推進	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
⑥	女性のエンパワーメントの促進	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
Ⅲ 社会活動への女性の参画促進											
⑦	政策決定過程への参画促進	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
⑧	地域社会活動への参画促進	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
⑨	情報化の促進	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
⑩	国際理解の促進	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
⑪	あらゆる分野における男女共同参画の推進	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
Ⅳ 女性の健康と福祉の向上											
⑫	くらしの安定と福祉の充実	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
⑬	女性の保護と健康	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
⑭	配偶者や恋人からの暴力対策の推進	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5

☆今後の男女共同参画社会づくりについてご意見等がございましたら、自由にご記入ください。



もろ丸くん

毛呂山町
男女共同参画に関する
アンケート調査結果報告書

令和6年10月

発行 毛呂山町
編集 毛呂山町 総務課
埼玉県入間郡毛呂山町中央2丁目1番地
TEL：049-295-2112
FAX：049-295-0771